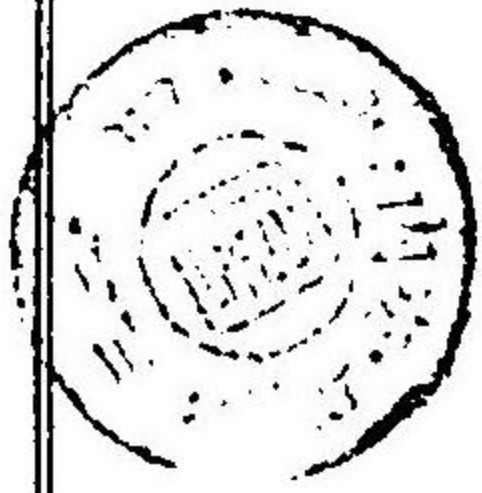


ITD-61

露國政府編纂

露國事情

民友社譯述



緒言

本書ノ原本ハ、露國政府ガ英、佛、獨三國ノ語ヲ以テ編纂シ、一八九六聖彼得堡ニ於テ刊行シタルモノニシテ、其ノ原名ヲ「露國ニ關スル政治家必携」ト云フ、蓋シ露國ノ政治、經濟、教育、軍事、宗教、運輸、交通、物産、其ノ他諸般ノ制度及ヒ最近ノ實勢ヲ記述シタルモノニシテ、交ユルニ精確ナル統計ヲ以テス。予ハ明治三十年六月露都ヨリシテ之ヲ携ヘ歸リ、松方伯ニ告クルニ此ノ書ノ概要ヲ以テス、伯予ヲ慫慂シテ、之ヲ翻譯セシム。高島子其ノ有益ナル書タルヲ見テ、之ヲ刊行ニ助力セラレヌ、而シテ未タ果ス能ハザリキ。頃ロ偶マ山縣侯ノ聞ク所トナリ、其ノ力ニヨリテ、終ニ刊行ノ希望ヲ遂クルヲ得タリ。翻譯ノ勞ヲ取ラレタルハ、小崎弘道君、山路

彌吉君ニシテ、全編校定ノ勞ハ、深井英五君之ニ任セラレタリ。余ハ此書カ讀者ヲ益スルコト少小ナラサルヲ信スルト同時ニ、茲ニ其ノ顛末ヲ記シテ、先進諸公及ヒ諸友ニ謝意ヲ表スト云爾。

明治三十二年二月二十一日

國民新聞社ニ於テ

德富猪一郎識ス

目次

緒言

第一編 露西亞帝國ノ統一	一頁
第二編 國家ノ組織	三
第一章 通則	三
第二章 國家ノ主權	五
第一節 主權者ノ權利	五
第二節 主權者ノ特權	八
第三節 主權者ノ繼承	一〇
第四節 皇族法	一五
第三章 臣民ノ權利	一八
第一節 國籍ヲ得ルコト及ビ失フコト	一八

第二節 階級ニ從テ臣民ノ權利ニ差異アルコト	一九
(一) 各階級ノ起源	二〇
(二) ベートル大帝以後階級ノ區別	二四
(三) 現時ニ於ケル各階級ノ權利	三四
第三節 一般露國臣民ノ權利及ビ義務	三七
第四節 異族民	五〇
(一) 東方ノ種族	五〇
(二) 猶太種族	五三
(三) フキンランド人	五七
第五節 露國ニ於ケル外國人ノ權利	五七
第三編 國家行政	五八
第一章 國家ノ高等機關	五九
(一) 樞密院	五九

(二) 内閣會議	六八
(三) 内閣委員會議	六九
(四) シベリヤ鐵道委員	七四
(五) 元老院	七九
(六) 教務院	八三
第二章 諸大臣	八五
第一節 其歴史	八五
第二節 現在ノ組織	九一
第三節 大臣各論	九七
第四編 帝室ニ屬スル官職	一〇一
(一) 宮内省	一〇一
(二) 皇帝陛下ノ特別ナル官房	一一三
(三) 官吏ノ位階	一一四

(四) 請願局……………一六

第五編 外交……………一七

(一) 外交畧史……………一七

(二) 外務省……………一九

第六編 國防……………三三

第一章 兵役……………三三

第二章 陸軍……………三八

第三章 陸軍々政ノ組織……………五〇

第四章 海軍……………六三

第五章 海軍々政ノ組織……………七三

第七編 物質的資力……………七九

第一章 財政……………七九

(一) 豫算ト歳入ノ關係國費ト地方費……………七九

(二) 税法ノ沿革……………八五

(三) 直税……………八九

(四) 間税……………九八

(五) 國家ノ信用制度……………〇八

第二章 農業及ビ地方經濟概論……………二三

第一節 土地ニ屬スル財産ノ分配……………二八

(一) 農地ノ土地所有……………二九

(甲) 其性質及區域……………二九

(乙) 農民信用制度……………三五

(丙) 移住……………三七

(丁) 農家小信用制度ノ組織……………四七

(二) 私領地……………五三

(甲) 其性質及ビ區域	二五三
(乙) 村落労働者ノ傭使	二五七
(丙) 地主ニ對スル長短期ノ貸借	二六四
第二節 地種ノ分配	二七〇
(甲) 森林	二七〇
(乙) 耕作法及農産副業	二七八
(丙) 穀類ノ産額	七
第三節 農業教育	九九
第四節 農業經濟ノ改良	三〇五
第五節 穀類貿易	三〇八
第三章 工業及ビ商業	三一
第一節 村落工業	三二
第二節 鑛業	三二九
(甲) 石炭鑛業	三三一

(乙) 鑛油業	三三七
(丙) 鐵鑛業	三四二
(丁) 金鑛業	三五一
(戊) 鑛業ノ産出總額	三五三
第三節 製造業ノ重要	三五六
第四節 製造業ノ種類	三六四
(甲) 酒造業	三六六
(乙) 製糖業	三六八
(丙) 木綿業	三七二
第五節 商業	三七八
(甲) 内國貿易	三八〇
(乙) 外國貿易	三八九
第六節 商工業獎勵	三九二
(甲) 商工業ニ對スル制度上妨害ノ廢除	三九二

(乙)	商業及工業上ノ團結	三九三
(丙)	商工業上ノ信用制度	三九五
(丁)	職工條例	四〇八
(戊)	工業及商業教育	四二三
第四章 交通機關		四三七
(甲)	水運	四三八
(乙)	天然及ビ人造ノ道路	四四六
(丙)	鐵道	四五〇
(丁)	シベリヤ鐵道	四七〇
(戊)	郵便	四七八
(己)	電信	四八三
(庚)	電話	四八五
(辛)	交通機關ニ關スル教育	四八六
第五章 物質的資力ヲ管理スル政府ノ機關		四八八

(甲)	大藏省	四八八
(乙)	會計検査院	四九〇
(丙)	農務及ビ國有地務省	四九一
(丁)	牧馬廳	四九三
(戊)	遞信省	四九三

第八編 精神上ノ修養……………四九五

第一章 教會制度……………四九五

第一節	古代露國教會ノ組織	四九六
(甲)	監督教區、教會區及ビ修道院	四九七
(乙)	古代僧侶ノ政治的功績	五〇〇
(丙)	教會政治ノ獨立	五〇一
(丁)	教會及ビ教職者ノ維持法	五〇三
第二節	韃靼時代ニ於ケル教會及ビ教職者	五〇三

(甲)	教會政治及ビ修道院	五〇三
(乙)	南西教會及ビ首府監督座ノ分轄	五〇七
第三節	十五世紀乃至十七世紀ニ於ケル教會	五〇八
(甲)	教會政治主權ノ減殺	五〇八
(乙)	教區	五一三
(丙)	傳道ノ活動	五一五
第四節	十八世紀ヨリ今日ニ至ル教會ノ組織	五一七
(甲)	監督教區ノ政治	五一七
(乙)	教區	五二〇
(丙)	修道院	五二五
(丁)	傳道事業及ビ信仰ノ守護	五二七
(戊)	神學校	五三一
第五節	異教派信徒ノ管理	五三三
(甲)	基督教中ノ異派	五三四

第二章 國民教育

(乙)	非基督教徒	五三六
第一節	キープ時代(十世紀乃至十三世紀)	五三七
第二節	韃靼時代(十三世紀乃至十五世紀)	五四三
第三節	モスコイ時代(十五世紀乃至十八世紀)	五四六
(甲)	初等教育ノ景狀	五四六
(乙)	希臘人ナルマキシム及ビ暴君イヴァン	五四七
(丙)	西部露國ニ於ケル學校同胞協會	五五一
(丁)	ロマノフ家最初ノ皇帝ノ治世	五五五
第四節	ペートル大帝以前學校狀況ノ結論	五五九
第五節	十八世紀ニ於ケル國民教育	五六一
(甲)	ペートル大帝ノ教育政策	五六三
(乙)	エリサベス女帝及ビシニエーワロフ氏ノ業	五六七
(丙)	カテリン二世ノ時代	五七一

(丁) 十八世紀ニ於ケル教育ノ性質……………五七七

第六節 十九世紀ノ教育……………五八〇

(甲) 高等教育制度……………五八〇

(乙) 中等教育制度……………五九一

(丙) 初等學校……………六〇二

(丁) 學會學院美術教育……………六二六

第三章 女帝メリー學會……………六二九

第一節 畧歴史……………六二九

(甲) 女帝カテリン第二世ノ治世……………六二九

(乙) 皇后マリア、フエオドロウナノ政治……………六三二

(丙) ニコラス第一世ノ治世……………六三四

(丁) アレキサンダー第二世ノ治世……………六三七

(戊) アレキサンダー第三世ノ治世……………六三九

第二節 女帝メリー學會ノ現状……………六四四

第九編 保安機關……………六四八

第一章 公共ノ慈善事業……………六四九

第二章 公共備荒事業……………六六〇

第三章 公衆衛生……………六六七

第四章 保險事業……………六七一

第五章 内務省ノ組織……………六七四

第十編 司法……………六七六

第十一編 地方制度及自治制……………六八二

第一章 來歴……………六八二

第二章 地方行政……………六九一

第三章 地方自治制……………六九五

第四章 市制……………六九八

第五章 貴族制度……………七〇〇

第六章 農民制度……………七〇二

第七章 フキンランドノ地方行政……………七〇八

露國事情

第一編 露西亞帝國ノ統一

露西亞帝國ノ勢力ト堅硬ノ基礎ハ常ニ其統一セル帝國タルニ在リ此帝國ノ分離スヘカヲサル一部分タルポーランド王國ハ未タ此國ニ合併セラレザリシ時ハ特ニ一國家ノ形ヲ爲サザリシ地方ナリキ當時ハ其ノ境界スヲモ分明ナラサリシヲ維納列國會議ノ時露西亞ニ屬スルポーランド地方ノ住民ヲ目スルニ露國ノ臣民ヲ以テシ露帝ヲシテ此地方ノ組織ヲ定メシメタリ故ニポーランド地方ハ一八一五年六月二十日ニ露國ニ加ハリタルモノニシテポーランド王國ノ憲法ハ其十二月二十五日始メテ皇帝アレキサンダー一世ニ因リテ與ヘラレタルモノナリ

譯者曰ク是レポーランドノ始メヨリ獨立ノ國家ニ非ス其憲法モ亦露帝ノ始メテ興ヘシモノナルコトヲ明ニシタルナリ然ルニ一八三〇年ノ叛亂ノ後即チ一八三二年ニ於テ此憲法ハ廢止セラレ一八六三年ノ叛亂ニ因リテポーランド政府ハ全然他ノ露國ノ諸州ニ混同スルニ至レリ

此帝國ノ統一ハ露帝ガフィンランド人ニ與ヘタル獨立ノ諸制度ニ因リテ害セラ
ル、者ニ非ズ露西亞ニ合セザリシ前モフィンランドハ獨立ノ一國家トシテ存在
セシニ非ス現在ノフィンランド地方ハ當時瑞典ト露西亞ノ分領スル所ルシテ自
治ノ權ヲ有セザリシノミナラス其瑞典ニ屬スル部分ノ如キハ一體トシテ存スル
能ハス數個ノ州ニ分割セラレタリキ然ルニフレデリックシヤムノ條約ニ因リテ
瑞典ハフィンランドヲ露國ニ讓與シタルモ當時一ノ全體トシテフィンランドヲ
讓與シタルニハ非ラス數個ノ州トシテ讓與シタル者ニシテ且明カニ此諸州ハ爾
後永遠ニ露西亞帝國ノ所領トナリタル者ナルコトヲ宣言シタリ一八〇八年ノ夏
ニ於テフィンランドノ人民ハ露帝ニ忠順ナルベキ誓約ヲ爲シタリ其後始メテ皇
帝アレキサンダー一世ハ其自由ノ意思ニ因テフィンランド國會ヲ招集シ其制度
ヲ與ヘタリ是レ從來フィンランドニ在ラザリシ所ノ者ナリフィンランドノ特別
ノ諸制度ハ此ノ如クニシテ建テラレシノミフィンランドヲシテ獨立國タラシム
ベキ別ノ主權ヲ與ヘタルニハアラス

第二編 國家ノ組織

第一章 通則

露西亞帝國國家組織ノ原則ハ此帝國ノ根本的法律ニ定メ置カレタリ此法律ノ第
一條ニ因レバ露西亞帝ハ獨裁ニシテ無限ノ權ヲ有スル君主ナリ主權ノ全體ハ帝
ノ一身ニ集注ス無限ナル語ハ帝ノ統治權ヲ制限スベキ何ノ法律モ存セサルコト
ヲ示ス唯此除外例ト云フベキハ國教ノ法律ト帝位繼承ノ法ナリ帝ハ正教會ノ信
仰ヲ告白セザル可カラズ又タ帝位ニ登ルトキニ嚴ニ帝位繼承ノ法ヲ守ルベキコ
トヲ誓ハザルベカラズ

露西亞帝ヲ獨裁ノ君主ナリト云フ所以ハ其立憲國ノ諸君主ト異ナリテ其主權ヲ
國家ノ中ニ存スル或ル組織體若シクハ階級ニ分ツコトナケレバナリ
故ニ露西亞帝國ノ政治ハ堅固ナル獨裁ノ君權ヨリ出ツル法律ヲ基礎トス是ト露
西亞ニ於ケル國家ノ全秩序ニ法律的ノ性格ヲ與フル所以ニシテ併セテ露西亞ニ
於テハ法律ノミ獨リ官吏ノ權ト臣民ノ義務トヲ定ムルモノナルコトヲ意味スル

ナリ此規則ハ君主獨裁ノ原則ニ反對スル者ニ非ズ何トナレハ法律ヲ變更スルハ常ニ帝ノ主權ニ屬スレバナリ而シテ此ノ如ク正式ニ發セラレタル法律ハ主權ノ作用ニ出ヅルニ因リ國家ニ於ケル總テノ他ノ權力ヲシテ之ニ從ハサルヲ得ザラシムルヲ以テ臣民ニトリテハ信據スベキ保障タリ主權モ亦正式ノ法律ニ待ツコト大ナリ國家ノ職務ノ廣大ナル擴張ニ伴フテ整備セル從屬的諸局諸組織ヲ設クルハ固ヨリ止ムヲ得ザルコトナリ而レドモ此等ノ諸局諸組織ハ任意ノ動作ヲ爲スヲ許サルベキニ非レハ必ラズ主權ノ制裁ヲ經ザルベカラス而モ土地極メテ廣大ナルヲ以テ主權者ガ躬ラ此等ノ諸局諸組織ヲ治メンコトハ到底能ハサル所ナリ故ニ法律ニ因リテ一定シタル通則ヲ定メ從屬的諸局諸組織ノ職務ヲ定ムルノ必要ヲ生ス此ノ如クニシテ始メテ從屬的諸局諸組織ハ主權ノ機關トナリ自己ノ利益ノ爲メニ動ク獨立ノ有權者トナラザルヲ得ルナリ

行政司法ノ爲メニ明文律ノ必要ナルコトハ古ヨリ露國ノ認ムル所ナリノヴゴロド及ビプスコフノ立法ノ今日ニ殘存スルモノハ當時ニ於ケル露國法律ノ見ルベキモノアリシヲ示スモノナリ北東露西亞ノ時代ニハ君主教ハ所謂法律的免狀ヲ

發シタリキモスコイ時代ノ諸君主ノ法典及ビ皇帝アレキセイ、ミヒロヴィチノ法律ハ裁判官ノ專斷ト横虐トニ對シテ人民ヲ保護センガ爲ニ發セラレタリベイトル大帝ハ法律ヲ編纂スルハ司法ト行政トヲ敏活ニスルニ缺クベカラサル者ナリトセリ而シテカザリン二世ハ新法典ヲ編纂スル爲メニ組織シタル委員ニ與ヘタル敎書ノ中ニ人民ノ政治上ノ自由ハ各自己ノ安全ヲ信スルヨリ生スル心ヲ平和ニ基ク人民ヲシテ其自由ヲ樂シマシメン爲メニハ法律ヲ恐ル、ノ外互ニ相恐ル、ハヲ要セザルコトヲ知ラシムル施設アルヲ要スト曰ヒタリキ

從來布告セラレタル諸種ノ立法ヲ基礎トシテ帝國ノ全政治ノ基礎タルベキ成典ヲ發シタル名譽ハ皇帝ニコラス一世ニ屬ス帝ノ命令ニ因リテ此廣大ナル法典編纂ノ事業ハ一八三二年伯爵スペレンスキイノ成就スル所ナリ

第二章 國家ノ主權

第一節 主權者ノ權利

國家ノ諸權ハ全然主權者タル帝ニ屬ス然レトモ帝ハ直接ニ其總テノ權利ヲ行ハ

ズカザリン二世ハ其敎書ニ於テ國家ノ根本的諸法律ハ中間ノ溝渠即チ諸種ノ組織ヲ通ジテ主權ヲ行フ者ナリト曰ヘリ政府ヲ分チテ最上級及ビ低級ノ二ト爲スハ之ガ爲ナリ最上級ノ政府ニ於テハ主權者ノ權能ハ直接ニ行動ス低級ノ政府ニ於テハ主權者ノ委託ヲ受ケタル人物及ビ諸組織ガ主權者ノ名ニ因リ主權者ノ命令ヲ奉シ法律ニ因リテ定メラレタル制限ノ中ニ行動ス如何ナル點マデ主權者ハ直接ニ行動スベキヤノ通則ハ前ニ説キタル法律ガ國家ノ組織ニ於ケル關係ニ因リテ察シ得ベシ若シ現存ノ法律ニ因リテ解釋シ能ハサルコトアル乎若シクハ法律ヲ改正スルノ必要ヲ生スル時ハ主權者ハ直接ニ行動セサルベカラス法律ニ因リテ満足ニ解釋シ得ヘキ事件ハ低級ナル權能ノ行動スヘキ範圍内ナリトス此故ニ帝權ノ直接ニ行動スル所ハ第一ニ立法ニ在リ如何ナル國家機關モ獨立シテ新法ヲ建ツル能ハス如何ナル法律モ立權者ノ批准ナクシテハ施行セラル、能ハサルナリ行政ノ事務ト雖其重要ナルガ爲メニ主權者ニ因リテノミ施行セラルヘキ方法ニ因ルコトヲ必要トスルモノアリ第一最モ重要ナル外國關係ノ事務即チ宣戰媾和及ヒ會盟訂約ノ如キ第二最モ重要ナル内國ノ政務即チ財政ノ如キ公

共ノ治安及ヒ安寧ニ關スル事務公共ノ糧食ニ關スル事務鐵道ノ建築ニ關スル事務ノ如キ是ナリ

君主ハ國家主權ノ代表者トシテ總テノ爵位及ビ特權ノ源泉タリ貴族ノ品位ヲ與ヘ世襲ノ位號及ヒ其他勳位僧官等ノ品位ヲ與フルノ權ハ總テ君主ニ屬ス

帝ハ國家ノ頭首トシテ帝國ノ國力タル人ト物トチ自由ニ操縦ス帝ハ海軍ト陸軍トチ指揮シ文武ノ官職ヲ任命シ地方ノ政務及ビ自治體其他ノ團體ノ事務ヲ執ルベキ官職ノ任命ヲ批定ス主權者ノミ獨リ一般ニ行ハルベキ租稅ト貢賦トチ課シ國家ノ出入豫算ヲ批定シテ國財ノ使用ヲ命ス

政府ノ頭首トシテ帝ハ國家ノ政務全體ノ進行ニ對シテ最上監督權ヲ有ス故ニ大臣及ビ知事ハ年報ヲ陛下ニ呈シ其委任セラレタル事務ノ進行ヲ明カニス

最後ニ帝ハ基督教徒タル君主トシテ教會ノ事務ニ對シテ主權ヲ有ス但シ此主權ハ教理及ビ教主管轄ノ教務ニ關スルモノニ非ス唯其俗事ト關係スル點ニノミ關スルナリ且帝ハ國教タル希臘正教會ノ教理ヲ辨證シ且ツ保護スベキ最上權者タ

此故ニ帝ハ國教會ノ正統教理及ビ純一ヲ保護シ教務院ノ指名シタル候補者ノ中ヨリ僧官ヲ任命スルノ權及ビ教會各組織ノ職掌ヲ統治スルノ權ヲ有ス
帝國ニ存スル他ノ基督教及ビ基督教ニアラザル他ノ宗教ニ關シテモ信仰ノ純一ヲ保護スルコトノ外同上ノ權ハ總テ陛下ニ屬ス

司法ノ任務ハ陛下ノ委任ノ下ニ夫レノ場合ニ適當スル法律ヲ適用スル外ナケレドモ而モ陛下ハ貴族官吏僧官及ヒ其他ノ爵位勳位ヲ有スル者ノ權利剝奪ニ關スル法廷ノ宣告ヲ批准ス何トナレバ從屬的權力ハ主權者ガ與ヘタル所ノ者ヲ自己ノ威力ヲ以テ奪フベキニアラサレバナリ

君主ハ恩惠ノ源泉トシテ司法ノ上ニ超絶スルガ故ニ司法上ノ制限ヲ超ヘテ刑ヲ赦シ若クハ輕減スルノ權利ヲ有ス假令君主ガ親カラ一タビ決定ヲ與ヘタル宣告ナリトモ君主ハ之ニ對シテモ特赦減刑ヲ命スルノ權ヲ有ス帝ガ親任シタル高官ノ其任務ニ關スル犯罪ノ如キ即チ是ナリ

第二節 主權者ノ特權

君主ハ立法行政司法ノ三點ニ於テ主權者タル權能ヲ用ユルノミナラズ猶主權者

トシテ國家ノ總テノ官員ト官職トノ上ニ超絶シタルモノタル特權ヲ有ス即チ
一、君主ハ法律ノ外ニ在リ 何トナレバ法律ハ君主ヨリ出デシ者ナレバナリ君主ハ法律ノ制裁ヲ受ケズ何トナレバ君主ヲシテ法律ニ服セシムベキ他ノ權能ナケレバナリ

二、君主ハ犯スベカラス 君主ノ生命健康名譽ヲ毀害セントスル者アレバ特ニ嚴刑ニ處スルコトニ因リテ此特權ヲ明カニス

三、宮廷 君主ハ其宮廷即チ其光榮アル職務ヲ執行スベキ諸官員ヲ有ス此等ノ官員ハ國家ノ官員ノ有スベキ總テノ特權ヲ有ス宮廷ハ國費ヲ以テ維持ス

四、榮譽ノ特權即チ君主タル稱號及ヒ紋章 始メ露國ノ君主ハ大公ノ稱ヲ冒シタリキモスコ朝ノ時露國ノ統一アリシヨリ始メテザールノ稱ヲ用キ一八五四年イヴアン四世ノ時明カニザールト稱スルニ定メタリ而シテ此稱號ハ一七二一年ニ至ルマデ露國君主ノ稱號ナリキ一七二一年ベートル大帝北方大戰ニ成功アリシ後ニシユタドノ平和條約ヲ結ビシ時此事件ヲ祝センガ爲メニ元老院及ビ教務院ハベートル第一世ニ此國ノ帝大王大父タル稱號ヲ受ケンコトヲ請願セリ是ニ於

テ其年十一月十一日勅令ニ因リテ始メテ帝ト稱セリ然ルニ當時帝號ヲ有セシハ
唯獨逸帝ノミナリシ故此舉動ハ獨帝ト同等ニ露國ノ君主ヲ置クモノナリトシテ
歐洲ノ諸國ハ抗論セリ最初ニ露國ノ帝位ヲ認識シタルハ普露西和蘭瑞典ニシテ
最後ニ一七六九年ニ於テポーランドナリ
紋章ハ一四七二年大公イヴァン三世ガ最後ノビザンチン帝ノ女姪ソフィア、パレオ
ログト婚姻ノ後採用シタルモノニシテ其ノ首要ナル部ハ兩頭ノ鷲ナリ鷲ノ胸ニ
モスコイノ紋章ヲ畫ク即チ聖ジヨルジガ馬上ニ在リテ黄金ノ槍ヲ揮ヒ龍ヲ殺ス
ノ狀ナリ

第三節 主權者ノ繼承

主權ハ其本體ヨリ云ヘハ永遠ナリ即チ其職務ハ君主ノ死去ニ因リテ中絶スルコ
トナシ如何トナレバ法律ニ因リテ其權ハ直チニ嗣君ニ移サルレバナリ主權移轉
ノ順序ハ露國ノ如キ世襲ノ君主國ニ於テハ王位繼承ノ法ニ因リテ定メラル
近時ノ歐洲諸國ニハ女性ノ王位ニ關スル權利ノ消長ニ從ツテ王位繼承ノ法ニ三
種ノ別アリ第一ハ全然女性及ビ女性ノ子孫ヲ王位ノ繼承ヨリ除クモノニシテサ

リツク法ト呼バル、者ナリ此法ハ、サリツク、フランクス種族ガ領土繼承ノ法トシ
テ用キタル者ニテ王位繼承ノ法トシテ今日ニ殘存スル者ナリ現ニ白耳義、瑞典、諾
威、以太利、丁抹、普露西ニ行ハル、モノ是レナリ

英國ニテハ女性ハ下ノ順序ニテ王位ヲ繼承スルコトヲ得即チ其血系同シ度ナレ
ハ男子ハ女子ヲ措キテ王位ヲ繼承ス假令バ王女、王子ヨリモ長ゼリト雖王子猶王位
ヲ繼ク然レトモ王若シ一王女ト一王甥トノミヲ有セバ王女王位ヲ繼ク何トナレ
バ王女ノ血系ハ王甥ノ血系ヨリ先王ニ親密ナレハナリ英國ノ外現ニ此法ヲ行フ
モノハ西班牙及ビ葡萄牙ナリ此法ハ同系法若シクハ、カスチル法ト呼バル

第三ノ法ハ前二法ノ中庸ヲ取レル者ナリ此法ハ女性ヲ全然王位繼承ノ權ヨリ除
カス然モ男性ハ血系ノ如何ナル度タルニ關セズ女性ヨリモ先キニ王位ヲ繼クノ
權ヲ有ス女性ハ唯男系ノ全ク絶ヘシ時ニノミ王位繼承ノ順序ニ入ルコトヲ得
此法ハ獨逸法若クハ和蘭法ト稱シ一七〇三年レオポルド一世ガ始メテ奧太利ニ
建テシ所ナリ現時此法ヲ行フモノ奧太利ノ外和蘭、希臘、バヴア、リヤ、ヴュルテムベル
グアリ而シテ露國ニ於テモ一七九七年四月五日制定王位繼承ノ法ニ因リテ之ヲ

行フ

此ノ如ク王位繼承ノ法ガ露國ニ於テ一定シタル以前ニハ種々ノ法アリテ行ハレキモスコロノ繁昌以前即チ露國ノ歴史ニ於テキープ時代ト稱スル時期第十世紀ノ終リヨリ第十四世紀ノ始メマデノ間ハ事實ニ於テ王位繼承ノ法ト稱スベキ者ナカリキ當時一般ノ通則ニ依レバ君主ノ所領ハ大公ノ全家ニ屬シタリキ而シテ兄弟各所領ノ一部ヲ取り或ル都邑ノ君位ヲ取ルベキ權利ヲ有シタリシガ就中キーフノ君位ハ最モ重要ナルモノニシテ大公ノ稱號ト共ニ長兄ニ傳ヘラルベキモノタリキ然ルニ公家ノ膨脹ト共ニ漸ク兄弟ノ序ヲ失シ遺領分配ノ爲メニ數バ兵ヲ擣フルニ至リ長者却テ幼者ニ制セラル、コトアリテ長子權ハ頗ル不明ナル者トナレリ

モスコロ時代ニ及ンテ君位ノ繼承ハ一人ニ止ルノ法漸ク起レリ而モ一五九八年ニ於テルーリク朝ハ終リボリス、ゴヅノフ君位ニ即ケリツルブレント時代ニ於テハ選君ノ法ニ因リシガ一六一三年ニ至リテ終レリ而シテローマノフ朝選バレテ之ヲ繼グリ是レルーリク家ノ最近血族タルニ因ルナリ蓋シルルーリク朝ノ最後ノザ

ールテオドル、イチャアノヴィチノ母ハロマノフ家ヨリ出ダレバナリ此朝廷ヨリシテ君位ハ始メテ世襲ノ權ニ因リテ父ヨリ子ニ傳ヘラレベイトル大帝ニ及ヘリ然ルニ大帝ハ其政治上ノ大改革ガ皇太子アレキセ、ベテロヴィチノ反對スル所トナリシカバ世襲法ニ因リテ位ヲ彼レニ傳フルコトヲ欲セズ君主自ラ君位繼承者ヲ撰フノ法即チ遺言法ヲ用キント欲シタリ然レトモ帝ハ未ダ此意ヲ遺言セスシテ歿セシガ帝ニ繼キテ君位ニ登リシモノハ此法ヲ用キ數バ之カ爲メニ叛亂ト等闘トチ生シタルコトアリキ

是ニ因リテ一七四二年エリサヴェタ、ベトロヅナ女帝ハ勅令ヲ發シ皇朝ホルスタイン公ベイトルハ女帝ノ最近血屬タルヲ以テ帝位繼承者ナリト宣言シ尋デ女帝カテリン二世モ亦帝位ニ上ルニ際シ女帝及ビ全露西亞ノ合法的君主繼承者タル皇子太公バヴエル、ベトロヴィチニ忠順ヲ誓フベキコトヲ其臣民ニ命ジタリ此クノ如クニシテ法律ニ因リテ王位ノ繼承ヲ定ムルノ主義ハ再ビ宣言セラレタリ而モ未ダ明文ニ因リテ皇位繼承ノ順序ヲ定ムルコトアラサリシニ皇帝パウール一世ノ皇位繼承ノ法ヲ定ムルニ至リテ此法始メテ成レリ其法左ノ如シ

君位繼承ノ權ハ今ノ帝室ノ全家ニ屬ス男女兩性共ニ君位ヲ繼承スルヲ得ベシ唯男子ハ女子ヨリモ君位ニ登ルノ順序先キニ在ルノミ帝ハ其皇長子ニ因リテ繼承ガル皇長子若シ繼グ能ハザレバ皇長子ノ男系繼グ即チ皇孫皇曾孫ノ如シ皇太子ノ男系盡クルニ至ツテ君位繼承ノ權ハ皇次子ト其男系トニ移リ更ニ同シ順序ニ因リテ皇第三子及ビ其男系ニ移ル等總テ前ノ如シ皇帝パウル一世ノ男系盡クルニ及ビテ始メテ最後ノ帝ノ最近親タル女系君位ヲ繼承ス女系ノ君位ヲ繼承シタル時モ爾後ノ君位繼承ハ必ラス男系ヲ先キニシテ女系ヲ後ニスルコト總テ通則ノ如シ

君位繼承ノ權ヲ有スル者君位ニ上ラントセバ基督正教會ノ教理ヲ信スルコトヲ告白セザルベカラズ若シ他ノ信仰ニ屬スル者ナレハ先ヅ正教會ノ教義ヲ遵奉セサルベカラズ

君位繼承ノ權ヲ有スル者若シ其權ヲ抛タントセハ爾後君位繼承ニ關シテ紛議ノ生セザル限リニ於テ之ヲ許可ス故ニ君位繼承權ノ擲棄ガ一タビ宣言セラレテ法トナリシ以上ハ再ビ其擲棄ヲ廢スルコトヲ得ス

儲君ハ前君ノ歿スルト共ニ君位ニ上ル而モ成年ニ達スルニ非ズンバ政ヲ親ラズルヲ得ス儲君ハ十六歳ヲ以テ成年トス臣民ノ成年二十歳ヨリハ早キコト猶他ノ歐洲諸國ノ如シ

成年ニ達セザル帝ノ君位ヲ繼承シタル時ノ爲メニ傅及ヒ攝政ノ法ヲ設ク

新帝ハ特別ノ勅令ヲ以テ其君位ヲ繼承シタルコトヲ布告ス此勅令ノ中ニハ合法的嗣君タルベキモノ若シ存セバ併セテ之ヲ布告スルモノトス

此勅令ノ發セラルハ時ハ十二歳以上ノ男子タル帝國臣民ハ總テ自己ノ信スル宗教ノ禮式ニ從ヒ忠順ノ誓言ヲ上ル此誓言ハ帝及ビ假令其名ノ勅令ニ見ヘサルトモ猶其合法的嗣君ニ忠順ナルベキヲ誓フモノナリ然ル後新帝ノ即位式及ビ受齋式ヲモスコ一府ノ聖童貞昇天院ニ行フ特ニ主權ニ因リテ此目的ノ爲メニ招集セラレタル國家ノ貴顯大族參列ス

第四節 皇族法

皇族ハ君位ニ對シテ權利ヲ有スル者ナルガ故ニ特別ナル特權ヲ有スル位置ヲ享受ス

皇帝ハ皇族ノ頭首ニシテ其永久ナル管理者保護者ナリ成年ニ達シタル皇族ハ君主ト國家トニ誠忠ナルベキコトヲ誓ヒ且繼承ノ權ト皇室典範トヲ守ルベキコトヲ誓フ此故ニ皇族ハ帝ヲ以テ一門ノ父ト爲シ獨裁ノ君主トナシテ無限ノ尊敬服從忠順役事ヲ爲スベキモノトス

皇帝ノ血系ニシテ合法的ノ婚姻ヨリ生シタル男系ノ男女ハ總テ皇族タリ皇族タル男子ノ妻モ亦其夫ト同ジク皇族タル權利ヲ有ス然モ君位繼承ノ權ヲ得ズ故ニ皇族タリ得ベキ重要ナル資格ハ合法的婚姻ナリ此婚姻ヲ合法的ナラシムル爲メニハ他ノ臣民ト異ナル特別ノ規定ヲ設ク即チ第一ニ皇帝ノ認可ヲ經ザルベカラズ第二ニ婚姻スベキ者ノ位置ガ均シク尊貴ナラサルヘカラス第三ニ君位ヲ繼承スベキ位置ニアル男性ノ皇族ガ異ナル信仰ヲ有スル者ヲ娶ラントスル時ハ先ツ其妻タルベキ者ヲシテ正教會ノ信仰ヲ奉ゼシメザルベカラズ

皇族ノ有スル特權ハ數多アリ

皇帝ト同時ニ若シクハ其大婚ガ皇帝ノ即位式ノ後ニ在リシカ爲メニ皇帝ト時ヲ異ニシテ戴冠式ヲ行ヘル皇后ハ皇族中最高ノ位置ヲ占ム但シ皇太后ハ其位置

固ヨリ皇后ノ上ニ在ルベキモノトス

皇后ニ亞ギテ皇族中最高ノ位置ヲ占ムルモノヲ皇嗣君及ビ皇嗣妃トス皇嗣君ハ皇嗣君セサルウチ大公及ビ殿下ノ稱號ヲ受ク皇嗣妃ハセサレザナ大公妃及ビ殿下ノ稱號ヲ受ク

位置ノ之ニ亞ク者ハ第一ニ皇子皇女及ヒ皇孫(皇子ノ子)ニシテ大公、大公主諸者曰ク宿内親王ト云フカ如及ビ殿下ノ稱號ヲ受ク第二ニ皇曾孫皇曾孫女及ヒ皇曾孫ノ子孫ニシテ長子タル者即チ皇曾孫ノ長子及ビ皇曾孫ノ長子ノ長子等ニシテ公及ビ公主殿下ノ稱號ヲ受ク第三ニ其他ノ皇族即チ皇曾孫ノ女子ト二子以下等ハ公ノ稱號ヲ受ク然モ殿下ト稱セズシテセレニスシメノ稱號ヲ受ク

皇族ノ他ノ特權ハ位置ト稱號ノ差異ニ從テ異ナレリ

皇族ハ皇族タル紋章班位宮内官其他ノ榮典ニ附キ特權ヲ有ス

皇族ヲ給養センガ爲メニ御料ト稱セラレタル土地ト資金トアリ御料ハ一七九七年皇帝パウル一世ノ創置シタルモノニシテ之ヲ管理センガ爲メニ特別ノ官職アリ始メハ此官職ヲ御料大臣ト云ヒ今ハ御料長官ト稱シ宮内省ノ一部ナリ

御料金ノ補助トシテ成年ニ達セザル皇帝皇嗣君、皇嗣妃、皇子、皇女、皇嗣君ノ子女ノ爲メ及ヒ大公、大公主ノ婚禮ノ爲メニ國庫ヨリ一定ノ額ヲ支出ス
以上列舉シタル特權ノ外ニ皇族ハ總テ法律ニ因リテ特別ナル保護ヲ受ク即チ皇族ノ生命、自由、健康、榮譽ニ對シテ罪ヲ犯スモノハ皇帝ニ對シテ犯シタルト同様ナル嚴刑ニ處セラル

第三章 臣民ノ權利

第一節 國籍ヲ得ルコト及ヒ失フコト

露國臣民ノ權利ト義務ヲ論セントセハ先ヅ何人ヲ露國臣民ト爲スカチ定メサルベカラス

國籍ヲ得ルニ三個ノ方法アリ

第一ハ出生ニ因リテ 露國ノ内外ニテ生レタル露國ノ臣民ノ子ハ即チ露國ノ臣民ナリ

第二ハ婚姻ニ因リテ 外國ノ臣民タル女子若シ露國ノ臣民ト結婚スレハ即チ露

國ノ臣民トナル

第三ハ歸化ニ因リテ 即チ他國ノ臣民ヨリ轉シテ露國ノ臣民トナルコトニ因リテナリ

歸化ニ因リテ露國ノ國籍ヲ得ントセバ必ず忠順ノ誓ヲ爲サマルヘカラス

露西亞ノ臣民タル女子若シ外國人ト結婚スレバ結婚ニ因リテ露國ノ國籍ヲ失フ外國ニ歸化シタル露國ノ臣民モ亦國籍ヲ失フ此ニノ場合ニ於テハ必ラズ皇帝ノ允許ヲ得テ始メテ有效ナル者トス皇帝ノ允許ヲ得スシテ縱ニ外國ニ歸化スルハ嚴刑ヲ以テ之ヲ禁ス

第二節 階級ニ從テ臣民ノ權利ニ差異アルコト

國籍ナル概念ハ人ヲシテ之レニ伴フ一定ノ權利ト義務トヲ聯想セシム
然レドモ歷史上ノ狀態及ビ發達ノ事情ニ因リテ露國臣民ノ權利ガ一様ナラサルハ猶他國ノ如シ是故ニ露國ハ其臣民ヲ數階級ニ別ツ第一所謂インオロドシ一即チ諸異種ハ其人種ノ異ナルヨリ斯ク唱ヘラル、モノニシテ特種ノ一級ヲ爲シテ他ノ人民ト別タル而シテ此中ニハ東方諸種族猶太人及ビフィンランド人ヲ含ミ

特殊ノ權利ヲ有ス其他ハ即チ内地人譯者曰ク英譯ニ天然ノ臣民トアリ今之ヲ義譯スト稱セラル、モノニシテ其權利ノ差ニ因リテ四級ニ分ツ即チ

(一)貴族 (二)僧侶 (三)都人 (四)農夫
是ナリ

今各級ノ權利ヲ論スルニ先チテ露國ニ於テ諸級ノ區別ヲ生シタル起原ヲ略序スルハ無益ノ業ニアラザルベシ

(一) 各階級ノ起原

モスコイ朝成立以前ノ古代露國ハ階級ノ別ナル者ヲ知ラザリキ何トナレバ當時ハ眞ノ意義ニ於テ臣民ト稱スベキモノ即チ一定ノ土地ト永久ノ關係ヲ有スル者スラ無カリシヲ以テナリ當時ハ君侯ト雖猶一定ノ地ニ住セズ各所ニ轉シタリ而シテ其臣ト隨從者トハ唯君侯ト契約アリ若シクハ君侯ト意向ヲ同フシタルガ爲メニ君侯ニ從ヒシ者ニシテ何時ニテモ隨從ヲ止ムルコトヲ得シナリ斯ル事情ノ下ニ君主ニ役事スル人民ヲ區分シ之ヲ諸級ニ分ツカ如キコトハ到底能ハサル所ナリ其他ノ人民ハ概シテ何人ニモ奉仕スルコトナク自由ニ各所ノ公領ニ移轉ス

ルヲ得シナリ當時固ヨリ奴隸若シクハ私奴ト稱スルモノ自由民ト並ヒ存シタリト雖奴隸ノ制ハ國法トシテ存シタリシニハアラス自由民ハ其負債ノ爲メニ其債主ニ從屬スル者トナルコトヲ得シナリ

今日ノ意義ニ於ケル臣從及ヒ階級ノ區別ハモスコイ時代ノ諸君主カ權威ヲ得シ時ニ始マル是レ此時代ニ於テ始メテ貴族ヲシテ永久ニ奉仕セシメ且一定ノ租稅ト土貢トヲ收メシメンガ爲メニ土地ヲ統轄シ境界ヲ正フスルノ必要ヲ感シタレバナリ

此故ニイヴァン三世(一四六四年生レ一五〇五年死ス)以來モスコイ時代ノ諸君主ハ始メテ其臣下ノ他ノ侯領ニ移ルコトヲ禁シ犯ス者ハ之ヲ刑シタリ而シテ之ト同時ニ臣下ヲ給養スルノ道モ亦變シタリ始メハ君侯自ラ其從兵ニ衣食ヲ給シタリシガモスコイ時代ニ於テ之ニ分ツニ土地ヲ以テシタリ是ニ於テ臣從ノ者皆封地ヲ得テ君侯ニ奉仕スルニ至リシカバ終ニ縱ニ土地ヲ離ル、ノ權ヲ失ヒタリ其他ノ人民ハ物ヲ出シテ國家ニ供スルノ義務アリキ即チ土地ト商工業ニ課セラレ、租稅及ビ貢賦ナリ租稅ノ課セラレシ地ハ課稅地ト稱セラレキ都府ニテハ家

ニ課税シタリキ政府ハ一定ノ租税ヲ得ル必要アルガ爲メニ課税スベキ地ト店舗トニ必ラス其納税者ヲ有セザルベカラザルニ至リキ
都邑ノ住民ト農夫トガ次第ニ移住ノ權利ヲ失ヒシハ是レニ因ル始メハ一定ノ時
日ト時期トヲ定メテ移住ヲ許シタリシガ一四九七年ニ至リテ、イウリイフノ日（即チ聖ジヨルジノ日ニシテ十一月二十六日ナリ）ノ外ハ總テ移住ヲ禁ジタリ尋テ一
五九八年、イウリイフ日ノ期日ヲ廢シタリ此ノ如クニシテ十七世紀ヨリ各其義務ノ性質ニ從ヒ三階級譯者曰ク貴族及ヒノ土地固着法ハ建テラレタリ最高ノ義務ハ君主ニ奉仕スルコトナリ故ニ君主ニ奉仕スル階級ハ第一位ヲ占メタリ君主ニ奉仕スルハ領地及ビ讓受地ノ多寡ニ因リテ差アリ而シテ之ガ爲メニ此階級ハ終ニ土地ヲ專有スルニ至レリ領地ノ所有者ハ其地方農夫中ヨリ一定ノ人數ヲ出スノ義務アリ是レ後ニ至リテ農僕トナリシモノナリ此ノ如クニシテ土地所有者ハ君主ニ奉仕スルガ爲メニ遂ニ他ノ租税ト貢賦トヲ出スヲ免ルサル、ニ至レリ
都府ノ住民ハ住居商業ノ二ニ於テ租税ヲ出シタリ都邑ニ於ケル住居及ビ商業ノ事ハ唯都府ノ貢賦ヲ出ス者即チ都人ノ占ムベキモノナリテウ規則ハ蓋シ是レヨ

リ出タリ

第三ノ階級ハ土地ニ附着シテ離ル、ヲ得ザル農夫ヨリ成ル

其外モスコト時代ノ露西亞ニハ私奴ト稱スル奴隸アリキ此ハ身體財産ニ關スル權利ヲ有セザル者ナリ

他ノ階級ヨリ全ク隔リテ僧侶テウ階級アリ基督教ヲ採用セシ當時ノ教會ハ西羅馬帝國及ビビザンチン帝國ニ於テ享有シタル僧侶ノ權特ヲ其儘露國ニ輸入セリ教會ノ職分ハ異教人ヲ化シテ基督教徒トスルニ在リシヲ以テ君侯ヲ始メ總テノ階級ニ對シテ勢力ヲ有セザルベカラズ故ニ又之ニ特別ノ權利ヲ與ヘザルヲ得ス斯ル事情アリシガ爲メニ此處ニ僧侶ナル一階級ヲ生シ特別ナル教務院ニ於テ之ヲ管理スルニ至レリ此階級ノ中ニハ第一ニ眞ノ意義ニ於ケル僧侶第二ニ教會保護ノ下ニ置カレタル俗人即チ醫師盲人跛者寡婦等ヲ含ム然レドモ之ニ因リテ僧侶ハ始メヨリ世襲ノ一階級ヲ成シタリキト思フベカラス祭司及ビ唱詩僧ハ其始メ教區ノ人民ニ因リテ撰舉セラレ若シクハ領主ニ因リテ推舉セラレ監督ヘノ裁可ヲ得テ始メテ任ニ上リシ者ナリシガ後終ニ世襲ノモノトナリシナリ

僧侶ノ職ニハ一定ノ教育アルヲ要シタリ此教會ハ唯僧侶ガ其子孫ニ施シ得ルノ
ミナリキ

以上ハペーター帝即位以前ノ露西亞ニ於ケル諸階級ノ區別ナリ

(二) ペートル大帝以後階級ノ區別

ペートル大帝ハモスコイ時代ノ諸ザルヨリモ更ニ切ニ諸階級ノ人民ガ其義務ト
責任トヲ盡サンコトヲ希望シタリザルニ對シテ奉仕ヲ怠リシ貴族ハ其身體ニ烙
印スルノ刑ヲ以テ之ヲ畏怖セシメタリ其他ノ階級ニ對シテハ租稅ト貢賦トヲ徵
收スルノ法ヲ改メタリペートルノ即位以前ハ租稅ト貢賦トハ土地ト住居ト店舗
トニ課シタレハ納稅者ヲシテ一定ノ土地若シクハ職業ニ固着セシムルノ必要ア
リキ然レトモ多クノ人民ハ此ノ如ク土地職業ニ固着セスシテ課稅ヲ免レタリ自
由民即チ遊民ハ一定ノ職業ヲ有セザリシヲ以テ貢賦ヲ納ムルコトヲ免レタリ而
シテ私奴ハ其領主ノ私産ナルヲ以テ亦課稅ヲ免レタリ故ニ租稅ヲ增加スルハ即
チ徒ラニ產業ヲ有スル者ヲ苦シムルニ過キスシテ其結果ハ通租ヲ多クシ且國家
ノ損失ヲ招クニ外ナラスペートル一世之ヲ知リシカ爲メニ土地ニ課稅スルコト

ヲ止メテ個人ニ課稅シ始メテ人頭稅ヲ起セリ此ハ個人ハ何處ニアルモ納稅ノ義
務アル者ナリトシタルナリ幸ニシテ此法アリシガ爲メニ私奴ハ農民ニ混シ遊民
ハ消滅セリ一七一九年ノ人口調査ハ納稅スベキ階級ノ人民ヲ定メタリ
納稅ノ義務ヲ免サンカ爲メニ始メテ貴族ヲ他ノ納稅ノ義務アル人民ト區別シタ
リ

然レトモペートル帝ノ時ニ於テ始メテ古ヨリモ容易ニ貴族タルヲ得ルノ法ヲ定
メタリ一七二九年ニ布告セラレタル有名ナル等級表ハ國家ニ奉仕スル者ガ進ム
ベキ等級ヲ示シタル者ナリ勿論此等級表ノ中ニハ從來存在シタル門地ノ權ニ因
リテ官職ニ叙セラル、モノハ畧シテ記サマリキ

此等級表ニ因レハ何人モ貴族タリ得ベキ道アリ第一等ノ士官ニ達シタルモノ及
ビ第八等ノ文官トナリシモノハ皆世襲ノ貴族タルヲ得以下ノ文官ハ唯自己ノ一
身ノミ貴族タルヲ得ルノミ

ペートル大帝ノ時又貴族全體ヲ稱シテ貴紳ト云ヒ始メテ劃然タル一階級ト爲セ
リ而シテ貴紳ノ中別ニ有爵者ノ一階級アリ此ハ皇帝ノ命ニ因リテ貴族ニ叙セラ

レタル者ナリ貴族ノミ農僕タル農夫及ビ土地ノ所有者タルノ權利モ亦此時ニ定メテレタリ

ペートル一世ニ因リテ與ヘラレ且確定セラレタル貴族ノ特權ハ其嗣立者ニ因リテ維持セラレタリ然レドモ貴族ノ特別ナル義務ト責任トハ次第ニ輕クナレリベ
ートル帝ハ貴族ヲシテ其特別ナル義務ヲ盡サシムルニ熱心ナリシカバ貴族ノ家計ニスラ干涉シタリシガ貴族ノ特權ノ次第ニ増加セシニ拘ハラス一七六二年ニ至リテ貴族ハ全ク特別ノ義務ナキモノトナレリ

カテリン二世ハ更ニ貴族ノ特權ヲ堅クセリ其有名ナル勅令ニ於テ貴族トハ即チ尊敬スベキ人々ヲ平人ト區別スベキ榮譽ノ表彰ナリトシテ特別ノ語ヲ以テ貴族ノ事ヲ記ルシタリ故ニ貴族ハ其榮譽アル起源ノ爲メニ格段ナル階級の特標ヲ與ヘラレタルナリ此思想ハ一七八五年此女帝ガ貴族ニ與ヘタル免狀ニ於テ明カニ顯ハレタリ

僧侶ハ貴族ノ次ニ列スル階級ナリ露國ノ僧侶ハ分チテ二トス一ハ即チ僧露者曰ク英譯ノモンクニシテ全ク俗間ト雖レテ身ヲ寺ニ就シタル者ナリ適當ノ譯語ヲ欠ク又黒衣ノ僧ト云フ者ニシテ教會ノ高階ナル僧

綱ハ總テ此中ヨリ選舉ス監督大監督府監督ノ如キ是ナリニハ教區僧有妻一ニ白衣ノ僧ト云フ者ナリ

時日ノ經過ト共ニ僧侶ノ權ハ著ルシク擴張セリペートル帝ノ時ニ至リテ僧侶ハ人頭税ト兵役トヲ免ルサレ尋テ體刑ヲ免ルサレシガ皇帝パウル一世ノ時ニ至リテ僧侶ハ榮譽ノ裝飾ヲ爲スヲ免ルサレタリ此ハ實ニ重要ナル特權ナリ何トナレバ此命令ト共ニ世襲ノ貴顯タルコト及ヒ領地ト農僕ヲ有スルノ權ヲ與ヘラレタレバナリ都府ノ住民ハ商工業ノ中心ナルガ故國家ノ財源トシテ注意セラレタリ而シテ露國ノ商業ヲ進歩セシムルハペートル大帝ノ重モナル目的ノ一ナリキ帝ハ商人ヲ分チテ二ノ組合トナシ始メテ商人ト他ノ市民トヲ區別セリカテリン二世モ亦ペートル一世ノ如ク市民ノ位置ヲ高クスルニ意アリシガ其方法ハペートルノ爲セシ所ト同シカラス專ラ正直ト勤勉トヲ以テ他ノ人民ヨリ異ナレル者ヲ集メテ中間ノ一階級ヲ作ラントシタリ女帝ノ此意見ハ一七八五年ニ布告セラレタル最初ノ都市條例ノ基礎トナリニキ
農夫ニ關シテハ一七一九年ノ人口調査ニ因リテ從來農僕タリシモノ及ビ無資格

ノ人民ヲシテ總テ農夫ト同シク租税ヲ出スモノタラシメ且同時ニ農僕ノ階級ニモ亦農夫ト同シク課税シタリ

此ノ如ク農僕ノ權利ガ擴張セラル、ト同時ニ農夫ノ權ハ制限セラレタリ彼等ハ土地ノ眞ノ所有者タルコト契約ヲ結ビ若クハ專賣權ヲ有スルコト爲替手形ヲ發スルコトヲ禁ゼラレタリ而シテ農僕ニ對スル地主ノ權利ハ増加セリ地主ノ權利ガ此ノ如ク増加セシ所以ハ政府ニ對シテ人頭税ノ課出ヲ負擔スル者ハ即チ地主ナルニ因ルナリ政府ハ地主ヨリ人頭税ノ課出ヲ得ンコトヲ望ムガ故ニ地主ノ領分内ノ事ニ關シテ干涉スルヲ欲セズ其權利ノ増加スルニ任ジタリ一七四二年ニ於テ農夫ガ軍役ノ爲メニ地主ノ境ヲ去ルノ權ハ廢セラレタリ一七四七年ニ於テ地主ハ兵トシテ其農夫ヲ賣ルコトヲ許ルサレタリ一七六〇年ニ於テ地主ハシベリヤ殖民ノ爲メニ其農夫ヲ輸出シテ苦役ニ服セシムルコトヲ許ルサレタリ而シテ一七六七年ニ至リテ農夫ハ請願ノ權ヲ剝カレタリ此權利ハ彼等ガ其地主ニ對シテ自己ヲ保護スベキ手段ナリキ爾後請願ヲ爲スモノハ笞刑譯者曰ク笞杖及ヒ無期限ノシベリヤ苦役ニ因リテ罰セラレタリキ

斯ノ如キ政畧ノ結果ハ農夫ノ間ニ危險ナル騷動ヲ生セシメタリ之ニ因リテカテリン二世ハ數バ勅令ヲ發シテ地主ガ農夫ニ對スル專橫ヲ制セント試ミタリキ此目的ニ關シテ最モ著ルシキモノハ一七九七年四月五日皇帝パウル一世ノ發シタル布告ニシテ日曜日ニ於テ農夫ヲシテ強テ勞働ニ服セシムルコトヲ禁シ且一週ノ他ノ六日ヲ分チテ地主ノ爲メニ用ユル者ト農夫自己ノ爲メニ用ユル者ノ二トナシ農夫ガ地主ノ爲メニ必ズ勞働スベキハ一週間三日ニ限ルコト、ナシタリアレキサンダー一世ノ即位ト共ニ農僕ノ權利ヲ擴張スベシテウ論更ニ興起セリ此反動ノ風潮ハ自由農民ニ關スル一八〇三年ノ有名ナル法律ニ明示セラレタリ此法律ハ地主ニ土地ノ幾分ヲ農夫ニ割キ與ヘテ之ヲ解放スルコトヲ許シタル者ナリ然レトモ此勅令ノ效ハ甚ダ大ナラザリキ一八五五年ニ至ルマデ自由農民ノ數ハ纔ニ十一萬六千人ニ過ギズシテ之ヲ解放シタル地主ハ三百八十四人ニ過ギザリキ一八〇三年ノ勅令ノ外ニアレキサンダー一世ハバルチック地方ノ農夫ヲ解放シタリ然レトモ彼等ハ土地ノ分配ヲ受ケザリキ

ニコラス一世ノ時ニ於テモ地主ノ權利ヲ制限センカ爲メニ施設スル處アリキモ

ルダヴィヤ及ピウアルラシヤニ於テ農夫ノ協會ヲ立テタル伯爵キスセリエフノ意見ニ因リテ政府ハ國家ニ直隸スル農夫ヲ管理スル特別ノ官署ト特別ノ法ヲ設ケタリ一八三七年ニ於テ此ノ目的ノ爲メニ國家直轄地大臣ナルモノヲ置キタリ地主ニ屬スル農夫モ亦棄テ、顧ミラレザルニハアラザリキ一八四一年及ヒ一八四三年ニ發布セラレタル勅令ニ因レバ農僕ヲ其家族ヨリ離シ若クハ之ニ耕地ヲ附セスシテ賣買スルコトヲ禁ジタリ而シテ一八四八年ニハ農僕タル農夫ハ地主ノ許可ヲ得テ眞ノ所有地ヲ購フコトヲ許ルサレタリ

一八五三乃至五六年ノクリミヤ戰爭ハ暫ク農民ノ狀態ニ關スル政治ノ進歩ヲ阻礙シタリ然レドモ是レ唯一時ノ中止ニ過ギズシテ一八五六年ニハ早ク既ニアレキサンダー二世帝ノモスコイ貴族頭取ニ對シテ其農僕制ヲ廢スルノ決心ヲ示セルアリ一八五七年ニ至リテハ帝ヲ議長トシテ農民ノ事件ヲ考究スベキ特別委員ノ設ケラル、アリ之ヨリ先キ一八五六年帝ノ即位式アリシヤ時ノ内務大臣ハ應サニ改革スベキ農民ノ事件ニ附キ諸州ノ貴族頭取ト商議ヲ開キシコトアリ當時コヴノ、ヴィルノ、グロドノノ三州貴族頭取ノ提出シタル案ハ最モ満足スベキモノ

ナリシカハ一八五七年十一月二十日ノ勅諭ニ因リテ三州ノ貴族ヲシテ農民ノ狀態ヲ改革スベキ計畫ヲ建テシメタリ是ニ於テ三州各豫備委員會ヲ組織シ其討議調査シタル結果ヲヴィルノ府ノ委員會ニ附シタリ而シテ其委員ハ豫ジメ其提案ハ必ラス領主ハ土地全體ニ對シテ所有主タル權利ヲ有スベキコト農夫ハ其所有地ニ對シテ權利ヲ有スヘキコト其ノ權利ハ買得ベキモノタルコトヲ含ムベキコトヲ訓令セラレタリ農夫カ地主ノ利益ノ爲メニ一定ノ租稅ヲ出シ若シクハ勞役ニ服スレバ耕地改良ノ利益ハ彼等ノ物タルヘキハ其提案ノ必ラス有スベキ條件ナリキ爾後一ヶ月ヲ經過シタル後一八五七年ノ勅諭ハ各州ノ知事ニ頒タレタリ是レ各州ノ貴族ガヴィルノ貴族ト同一ノ冀望ヲ表ハサンコトヲ欲シテナリ而シテ爾後直チニ同趣意ノ請願ハ聖彼得堡州ノ貴族ヨリ提出セラレタリ尋テニジニノヴコロド及ヒモスコイヨリ勅令ニ對スル答案ヲ呈シ終ニ一八五八年ニ至リテ他ノ貴族ノ團體ヨリモ答案ヲ呈シタリ

地方委員ノ提出シタル計畫ハ農民ノ事務ニ關スル大委員ノ再調査ニ附セラレ、コト、ナリタリ一八五八年十月十八日ニ於テ此委員ノ第一會議ハ皇帝ヲ議長ト

シテ開カレタリ而シテ十一月ノ末ニ於テ改革ノ大綱領ハ下ノ如ク定リタリ即チ農民ハ身體ノ自由ヲ有スベキコト農民相互ノ事務ヲ處置センガ爲メニ農民會ヲ組織スベキコト土地ヲ所有スベキコト土地所有ハ先ツ地主ニ一定ノ租稅ヲ拂ヒ土地ヲ改良シ因リテ以テ自ラ利スルコトニ因リテ始ムベキコト及ビ國家ノ補助ニ因リテ彼等ハ其所有地ヲ買ヒ得ル方法ヲ與ヘラルベキコト是ナリ然レドモ各州委員ノ提出シタル案件ハ其種類多カリシカバ一八五九年二月十七日編成委員ナル者ヲ設ケ其案件ヲ調査整理スルノ任ヲ托シタリ

編成委員ハ其事業ノ範圍廣クシテ且困難ナルニモ關セズ一八六〇年ノ秋ニ至リテ其托セラレタル事務ヲ終リ其十月十日ニ於テ委員會ヲ閉ヂタリ是ニ於テ同日ヨリ大抵連日コンスタンチン、ニコラエヴィチ大公ヲ議長トシテ大委員會ヲ開キ一八六一年ノ正月ニ至レリ而シテ此委員ノ提出シタル計畫ハ更ニ帝ヲ議長トシタル樞密院ノ調査スル所トナリ終ニ一八六一年二月十九日ニ至リテ皇帝ハ有名ニシテ且永ク傳ヘラルベキ布告ニ署名シタリ此布告ハ二百六十八年間存在シタル農僕制度ヲ永久ニ廢絶セシメタル者ナリ

此布告ノ出ルヤ自由ヲ與ヘラレタル農民ノ一割六七ハ其地主ヨリ所有地ヲ買ヒテ以テ地主ノ羈絆ヲ脱シタリ然ルニ其後農夫ガ所有地ヲ得ンガ爲メニ政府ヨリ借リ入レタル借金ノ利子ヲ其得タル土地ト土地ヨリ生スル收入トニ比スルニ利益スル所少カリシカバ地主ノ羈絆ヲ脱セントスル者ノ増加ノ度モ亦減ジタリ且一方ニハ農民ト地主トノ相互ノ感情次第ニ調和セント他方ニハ地主ノ壓制トニ因リテ地主ノ羈絆ヲ脱セントスル者前ノ如ク多キ能ハザルノ事情モアリキ

此ノ如ク少量ノ土地ヲ得ルモ却テ利益スル所少カリシカバ之ガ爲メニ農夫ハ借金ノ高キ増シ終ニ自己ト其家ノ零落ヲ招クモノアルニ至レリ而シテ他方ニ於テハ農夫ノ一割五分以上ハ一八八〇年ニ至ルマデ猶其地主ヨリ所有地ヲ買フコトナク依然トシテ奴隸ノ状態ニ繫カル、者アリキ

然レドモ先帝アレキサンダー三世ノ時ニ至リテ此困難ノ状態ハ全ク止ミタリ帝ハ一八八一年十二月二十八日勅令ヲ發シテ所有地購買ノ爲メニ農夫ニ貸與セル貸金ノ償却ヲ輕減シ全額ノ二割七分ヲ償フヲ以テ足レリトシ且一八八三年一月一日ヨリ前ニ記ルシタル農僕ノ状態ニ止マレル農民ヲ強迫シテ自由民タラシム

ルノ趣意ヲ布告セリ

此最後ノ手段ニ因リ農民ハ全ク農僕ノ状態ヨリ解放セラレタリ

(三) 現時ニ於ケル各階級ノ權利

農僕ノ解放ニ續キテ諸般ノ改革アリ頗ル階級的ノ特權ヲ制限スル所アリキ此制限ノ最モ重要ナルモノハ一八七四年ニ於テ一般ノ徵兵令ヲ布キタルコト及ビ一八八五年ニ於テ人頭稅ヲ廢シタルコト是ナリ

徵兵令ノ改正ハ總テノ階級ヲシテ兵役ノ義務ヲ負ハシメタル者ニシテ人頭稅ノ廢止ハ其主義ニ於テ課稅スベキ人民ト課稅スベカラサル人民トノ區別ヲ廢シタル者ナリ課稅スベカラザル人民トハ即チ人頭稅ヲ免セラレタル者ニシテ貴族僧侶及ヒ身分アル市民ヲ指スナリ課稅スヘキ人民トハ即チ其餘ノ階級ヲ指スナリ故ニ現時ニ於ケル各階級ノ人民ガ有スル權利ヲ知ラントセバ過去ニ存在セシ區別トハ全ク異ナル者アルヲ見ルベシ

事實ニ於テハ一八六一年以前ニハ土地及ビ農僕ヲ有スルノ權利ハ唯貴族ノ專有スル處ナリキ然モ現時ニ於テハ農僕ト稱スベキモノナク何人モ土地所有者タル

ヲ得ベシ藝キニハ貴族ハ兵役ト人頭稅トヲ免カレタリ今ヤ貴族ハ兵役ヲ免ル、ヲ得ス且他ノ階級ト均シク其財産ニ從テ課稅セラル
貴族ノ特權トシテ今日ニマデ殘ルモノハ國家ノ官職ニ就クノ權利ナリ此權ハ或ル他ノ階級モ亦有スル所ナリ且高等若シクハ中等ノ學校ニ於テ卒業證書ヲ得タル者ハ總テ此權利ヲ有ス

此處ニ論スル所ハ唯一個人トシテ有スル貴族ノ特權ニ就テ云フノミ一階級若シクハ一團體トシテノ貴族ハ地方政治ニ於テ甚タ重要ナル權利ヲ有ス此ハ地方政治ノ組織ヲ記スル時ニ細論スル所アルベシ

都人ノ權利モ亦昔ノ状態トハ大ニ變化セリ一七八五年ニ發セラレタルカテリン二世ノ最初ノ都府條例ニ因レハ都府ノ住民ハ身分アル市民、商人、會社員及ビ市人ニ分タレタリ而シテ此等ノ人民ハ即チ眞ノ意義ニ於ケル都人ニシテ都府ノ管理ハ總テ此等ノ人民ニ委任セラレシカ一八七〇年ニ於テ更ニ新シキ都府條例ヲ發布シタリ此條例ハ前ノ條例ト異ナレル主義ヲ有セル者ナリキ此條例ニ因レバ都府ノ住民ハ階級ノ區別ナク總テ都府ノ事務ニ關係スルヲ得而シテ此法ハ即チ都

府ニ住スル者ヲ喜バシムルモノナレバ都府ノ經濟上必要ノ者ナリ斯クシテ現時ニ於テハ都府ノ政治ハ都府内ニ有スル財産ノ高ニ應シテ都府ノ金庫ニ租稅ヲ收ムル人々ノ手ニ存ス元來ノ意義ニテハ都民ノ權利ハ純乎タル階級的ノ者ナリキ假令バ身分アル市民ト稱スルハ即チ都人ノ一階級ナリト雖モ彼等ノ多數ハ都府ノ生活ニ關係アル者ニ非ズ地方ノ僧侶ノ子ニシテ身分アル市民ノ階級ヲ受クル者アルガ如シ

商人ハ其階級ニ從ツテ商業ニ從事スルノ權利ヲ有セリ第一等ノ商人ハ卸賣組合ニ從事シ第二等ノ商人ハ小賣組合ニ從事シ得ルガ如シ然レドモ此等ノ組合ハ今ヤ僧侶ヲ除クノ外何人ニテモ之ニ要スル免許ヲ得タル者ハ之ニ從事スルヲ得ベシ各都市ノ商人ハ皆特ニ商人ノ組合ヲ結び集會及ビ一人ノ長老ト數人ノ補助トナ有スル事務局アリ

市人ハ個人トシテ特別ナル權利ヲ有セス而シテ市外ニ住スル者ハ警察及ヒ法廷ノ事ニ關シテハ農夫ト同一ナル制裁ニ服ス各都市ノ市人ハ各一團ヲ組織シ其長老及ビ補助者ヲ撰擧ス農夫ノ有スル特權ハ左ノ如シ其財産ト家族トニ關スル事

務ニ於テハ彼等ハ地方ノ慣例ニ從ヒ特別ナル農民裁判所ノ管理ニ服ス其組織體ハ地方政府組織ノ全體ト密切ノ關係ヲ有スル事ハ後章ニ論スベシ

第三節 一般露國臣民ノ權利及ヒ義務

階級トシテノ權利及ヒ義務ハ階級ノ區別ニ因ラス一般ニ總テノ露國臣民ニ屬スル權利義務ト區別セサルベカラス

此一般普通ナル權利ノ中ニ於テ第一ニ記スベキモノハ宗教ハ自由ナリ東方正統教會ノ信仰ヲ以テ露西亞帝國ニ於ケル第一等ニシテ權勢アル信仰ナリトスルハ固ヨリ露國根本律ノ認識スル處ナレドモ然モ之ト同時ニ國教會ニ屬セザル總テノ露國臣民及ビ露國ノ國務ニ使役セラレ若クハ一時露國ニ住スル外國人ハ隨所ニ於テ其信仰ヲ表彰シ若クハ宗教的拜禮ヲ爲スコトヲ得且其宗教ヲ公言スルノ自由ハ獨リ外國ノ基督教徒ニ與ヘラル、ノミナラズ猶太教徒、マホメット教徒并ニ異教徒モ亦同シク此權利ヲ有ス

宗教ノ自由ハ最初一七二一年ベートル大帝ノ告示ニ因リテ正統教會ニ屬セザル基督教徒ニ與ヘラレタリ當時帝ハ瑞典人ノ囚虜トナリシ者ヲシテ露國ニ役事

セシメントシ彼等ト其子孫トハ其固有ノ信仰ヲ保存シ其特殊ナル寺院ト僧侶ト
 ナ有シ得ベキコトヲ約束セリ其後一七三五年ノ勅令ニ於テ正統教會ニ屬セザル
 基督教徒ニ與ヘラレタル信仰自由ハ單ニ禮拜式ヲ公行シ得ルノ義ニシテ露西亞
 人ヲ勸メテ非正統教會的ノ信仰ニ變セシメンガ爲メニ說教スルノ權利ヲ言フモ
 ノニ非ルコトヲ明ニシタリ是ニ於テ正統教會ノミ獨リ他ノ宗教的團體ノ會員中
 ニ傳道シ得ルモノナリテウ規則ハ起レリ斯クシテ正統教會ノ信仰ヲ非難シ若ク
 ハ之ヲ離ルハコトハ法律ノ罪トスル所トナレリ
 正統教會ノ權威ヲ維持センガ爲ニ正統教會ノ信者ト否ナル者トノ間ノ結婚ニ因
 リテ生シタルニハ必ラス正統教會ノ信仰ニ因リテ教育スベシテウ法律ハ定メラ
 レタリ此法律ノ除外例ハ唯フィンランドアルノミ
 斯クノ如クニシテ總テノ他ノ基督教信仰ニ對シテ正統教會ノ權威ヲ維持スルト
 共ニ露國ノ法律ハ又總テノ非基督教信仰ニ對シテ總テノ基督教信仰ヲ保護ス基
 督教ヲ離レタル者ハ其財産ニ對シテ特ニ保管人ヲ附セラレ且再ビ基督教ニ復ル
 ベキコトヲ誠諭セラレハ等ノ事アリ新教徒ノ外總テノ基督教徒ハ基督教徒ナラ

ザル者ト婚姻ヲ通ズルコトヲ得ズ然モ基督教徒ナラサル者ガ何レノ基督教ヲ採
 用スルモ禁セラレハコトナシ
 法律ハ公認セラレタル非正統教會ノ信仰ト他ノ教派トノ區別ヲ定ム正統教會ノ
 信仰ヲシテ内部ノ分離ヲ生セサシメンガ爲メニ法律ハ新シキ教派ヲ作ルコト
 ナ禁シタリ然レトモ世人ノ知レルカ如ク露國ニハ許多ノ教派アリ其幾分ハ國家
 ニ因リテ認識セラレ若クハ容忍セラレタル者ナリ此レ所謂異端ノ各派ニシテ常
 ニ正統教會ヨリ分離シツハアル者ナリ
 教會分離ノ始ハ極メテ古ルシ而モ其實地上ノ問題トナリシハ宗教的禮拜ノ書籍
 ガ始メテ刊行セラレタル第十七世紀ニ在リ當時正統教理ニ協ハザル異端ノ解釋
 自然ニ此等ノ書冊ノ中ニ竄入シタルコトアリシヲ後ニ至リテ一六五四年ニ於テ
 教長ニコン之ヲ改メタリ然ルニ異論者ハニコンノ改正ヲ以テ新義ヲ創ムル者ナ
 リト公言シタリ當時異論者ノ公然タル背叛ハ殆ント公安ヲ害スル迄ニ及ビキ
 總テノ異論者ガ多少ノ度ニ於テ必ラズ一致スル所ノ状態アリ彼等ハ總テ古代ノ
 禮典ヲ株守ス更ラニ之ヲ詳言スレバ聖ヴラジミルノ時(紀元九八八年)ヨリ教長ニ

コンノ時ニ至ルマデノ古禮ヲ株守ス即チ神ノ子ノ名ヲ記ルスニ古風ナル綴字ヲ以テシ八個ノ點ヲ有スル十字架ヲノミ認メ唯二指ヲ用キテ十字架ノ表示ヲ爲シ古代ノ畫像ヲノミ尊崇シ其新シキ畫像ハ常ニ舊キ意匠ノ畫像ヲ模寫シ其禮式ハ常ニ舊キ禮式ニ據ルガ如シ然モ彼等ハ直ニ二派ニ分レタリ是レ其正統教會ニ對スル彼等ノ關係ニ就テ異論ヲ生ジタルニ因ルナリ其一派ヲ僧侶ヲ有スル派トナシ他ヲ僧侶ヲ有セザル派トス二派ノ差別ノ重要ナル點ハ第一ノ教派ハ教長ニコン以前ニ接手禮ヲ受ケタル僧侶ニ因テ教會ノ禮式ノ執行セラル、ヲ是トスル者ニシテ第二ノ教派ハ概ネ俗人ヲシテ禮式ヲ執行セシムル者ナルコト是ナリ然レドモ時日ノ經過ト共ニニコン以前ニ接手禮ヲ受ケシ者盡ク死亡シタリシカバ有僧派ハ止ムヲ得スニコン以後ニ接手禮ヲ受ケタル者ニテモ正統教會ヨリ離レタル僧侶ハ之ヲ採用スルコトニ決シタリ僧侶ナキ教派ハ之ニ反シテ全ク僧侶ナクシテ存シタリ此差別ハ將來二派ノ性質ガ次第ニ變遷スルニ關シテ最モ影響ヲ及ボセシ者ナリキ僧侶ヲ有スル教派ハ次第ニ正統教會ニ近ツキ來レリ此教派ハ僧侶ノ三階級即チ監督、祭司、執事ノ存在ヲ必要トセシヲ以テ其性質ノ疑ハシキ脱走

者的ノ僧侶譯者曰ク正統教會ヲ脱シタル僧侶ヲ曰フナリヲ以テ満足スル能ハザリキ此故ニ此教派ノ全歴史ハ即チ合法的ナル僧侶ヲ供給シ得ル監督ヲ探求スル歴史ナリキ然レトモ此探求ハ效ヲ奏セザリキ何トナレバ一ノ監督モ正統教會ヲ離レテ異派ニ合スル者ナカリシヲ以テナリ是ニ於テ前世紀ノ末ニ於テ所謂古代ノ信仰ヲ有スル僧ニコデムスト云ヘル者條件ヲ副ヘタル請願書ヲ出シ古代ノ信仰ヲ奉スル者ノ中一部ノ人ガ正統教會ト合センコトヲ乞ヘリ其要求スル所ハ即チ古代ノ禮式ニ對シテ從前ノ宗教會議ガ發シタル棄絶ノ宣言ヲ廢止シテ古代ノ信仰ヲ有スルモノニモ監督ヲ與フベキコト是ナリ此請願ハ允ルサレタリ而シテ皇帝パウル一世ハ一八〇〇年ニ於テ其正統教會ト一致シ得ベキ點ヲ定メタリ是レ彼等ヲシテ一步ヲ正統教會ノ方ニ轉ゼシメタル者ナリ此ノ如クニシテ正統教會ニ一致シタル人々ハ別ニ其教區ヲ設クルコトヲ許ルサレタリ而モ之カ爲メニ特別ノ監督ヲ任セス一致譯者曰ク即チ正統教會ト一致シタル者ノ教區ハ地方ノ監督ノ管理スル所トナリニキ然レトモ此ノ如キ一致ハ此教派ノ總テノ會員ニ因リテ認識セラレタルニハアラザリキ僧ニコデムスガ其請願書ヲ呈セシト殆ンド同時ニ有僧派ノ他ノ會員ハ有

名ナルモスコイノロゴス墓地ニ會シ監督ヲ要求セザルコト及び正統教會ヲ離レタル僧侶ハ再ビ聖別式ヲ行ハシメテ之ヲ採用スルコトヲ決議セリ祭司ノ受齋式ハカテリン二世ノ世ニ於テ廣ク行ハレタリキ加之政府ハ國ヲ脱シタル古禮信仰者ヲ誘ヒテ正統教會ニ復歸セシメンカ爲メニ禮拜ノ自由及ヒサマラ地方イルギヅ河岸ノ地ニ於テ七萬デシアタインノ地ヲ與フルコトヲ約シタリ而シテ此處ニ僧ノ爲メニ三個ノ修道院寺院尼ノ爲メニ二個ノ尼院ト及ビ之ニ附屬スル教會トヲ建テ古禮信仰者ノ僧侶ハ大抵聖別式ヲ受ケタリ一八二二年ニ至リテ政府ハ終ニ僧侶ト祈禱所トニ關スル規則ヲ發シタリ此規則ニ因レハ古禮信仰者ハ其脱走的ノ僧侶ヲ有スルコトヲ許サレ其僧侶ハ會員名簿ヲ有スルコトヲ許サレタリ然レドモ有僧派ハ久シク此等ノ特權ヲ享有スル能ハザリキニコラス一世ノ即位ヨリ政府ハ漸ク異派ノ拘束ヲ始メタリ漸クニ正統教會ヲ脱シタル僧侶ハ其僧職ヲ解放セラレイルギヅノ修道院ハ閉ヂラレタリ此處置ハ現世紀ノ第四十年目ニ至ルマテ有僧派ヲシテ其僧侶ヲ失ハシメタリ此ニ於テ有僧派ハ再ビ昔シノ如ク其僧侶ヲ渴望スルノ境遇ニ陷リシカバ一八四六年ニ至リテ澳太利ニ屬スルプロコ

ヴァイナニ於テビエロクリニヅカヤ大教正區ヲ造ルニ至レリコヴァイナノ地タル元來露國ノ異端者ガ遁レテヒエラヤクリニヅア及ビクリモツフノ二所ニ殖民ヲ爲シタル所ナリシガ一八四〇年代ニ於テ有僧派ガ自己ノ教正ヲ得ンコトヲ求ムル時ニ至リテ彼等ハ始メテビエラヤクリニヅアニ注目シ露國ノ古禮信仰者ヨリ代表者ヲ澳太利ニ發シ其政府ノ許可ヲ得テ其地ニ大教正區ヲ設ケンコトヲ乞ハリ此大教正區ハ露國政府ノ要求ニ因リテ直チニ廢止セラレタレドモ須臾ニシテ再ビ秘密ニ設立セラレタリ一八五九年ニ至リテ澳國政府ハ露國ノ古禮信仰者モ無關係ナリテウ唯一ノ條件ヲ以テ其教正區ヲ認識シタリ然レドモ此約束ハ守ラレザリキ之ヨリ先キ一八四九年ニ於テビエロクリサカヤノ府監督ハ露西亞ノ爲メニ特別ナル一人ノ監督ヲ任命シ之ヲモスコイニ置ケリ斯クシテ爾後年々露國ノ古禮信仰者ノ中ニ新シキ監督職ハ生シタリモスコイハ此運動ノ中心トナリ宗教的獻身的ノ集會即チ會議ノ開カル、處トナレリ此ノ如クニシテ古禮信仰者ノ管理ハ終ニ正統教會ヲ離レタル僧侶ノ手ニ落チタリ此狀態ハ有僧派ノ一部特ニ無僧派ノ抗論ヲ喚起シタリ無僧派ハ是ヲ以テ地上ニ於ケル僞基督ノ政治ノ始マレル

モノトナシ譯者曰ク是レ默示録此新シキ僧階ノ正當ニ組織セラレタル者ナルコトヲ認識セズ斯ル僧侶職ニ因リテ執行セラレタル禮式ハ神聖ノ者ニ非ルヲ主張セリ此議論ハ數バ刊行セラレシカバ有僧派モ亦之ヲ反駁スルニ躊躇セズ一八六二年ニ於テ「教區雜誌」ナルモノヲ刊行シ眞ノ僧侶職ハ希臘教會ニ存スルコト及ヒ露國教會ノ誤謬ハ其禮式ニ存セズ第十七世紀ニ於テ古代ノ禮式ヲ非難シタルニ棄絶ノ書ニ存スルコトヲ主張シタリ然レドモ此論ハ正統教會トノ調和ヲ暗示スル者トシテ有僧派ノ中ニモ強ク抗論ヲ試ムル者アリシカバ終ニ激烈ナル爭論ヲ生ジ有僧派ハ分レテ教區黨及ヒ非教區黨トナリ之カ爲メニ現時ノ古禮信仰派ノ監督十九人中十三人ハ教區黨ニシテ六人ハ非教區黨タルニ至レリ此二黨ノ頭首トシテ現ニモスコニー二人ノ監督アリビエロクリニサカヤ大教正區トノ關係ハ一八七四年ニ至リテ絶チタリ政府ハ古禮信仰者ガ正統教會ノ信者ヲ勸メテ自己ノ信仰ニ入ラシメントセザル限リハ決シテ之ヲ妨害スルコトナシ然モ彼等ノ僧階ヲ公認セザルナリ

無僧派ハ有僧派トハ全ク異ナレル性質ヲ有ス此派ハ始メヨリ總テノ僧階ヲ認識

セザルモノナリシカバ次第ニ大ナル困難ニ陥リ終ニ極端ナル迷溺ニ達シタリ此派ハ僞基督ノ地上ニ來リテ露國教會ヲ支配シツ、アルコトヲ信スルガ故ニ僞基督及ヒ其徒ノ受クベキ天罰ヲ免レンガ爲メニ同派ノ信者ノ自ラ焚死シ若クハ飢寒ニ因リテ死ニ至リ以テ速カニ天國ニ入ルベキコトヲ獎勵シタリ正統教會ト分離シタル當初ニ在リテハ此風殊ニ太甚シカリキ僞基督ノ地上ニ現ハル、ヤ總テノ神意ニ協ヘル者ハ天ニ昇リ天ニ於テ天使ノ掌ル眞ノ聖禮アルベシトハ此派ノ信スル所ナリキ是レヲ以テ此派ハ正統教會ノ洗禮ハ眞ノ洗禮ニ非ズトナシ正統教會ヲ離レテ此派ニ加ハラントスルモノニハ恰モ異教人ヲ待ツガ如ク再度ノ洗禮ヲ受ケシメタリ此派ノ信者ハ正統教會ノ聖餐式ヲ受ケル能ハサリシカバ信仰ト救拯ノ希望ヲ以テ聖餐ヲ受ケ救世主ノ畫像ノ前ニ互ニ懺悔シタリ此派ハ婚姻ハ官府ノ命令ニ因リテ無効トナスコトヲ得ルガ故ニ神聖ナル者ニ非ズトナセリ然モ此點ニ於テハ次第ニ其說ヲ和ラゲタリ此派ハ畫像ト聖骨ヲ尊敬セズ何トナレバ此等ノ表彰物ノ功德ハ既ニ過ぎ去レリトハ此派ノ說ナレバナリ

此派ノ重要ナル中心ハモスコニーノブレオブレエンスキイ墓地ニ在リシベリヤ及

ピオロネツ地方ノ北海岸ニ弘布セラル
 此派ハ許多ノ小派ニ分ル其重モナルモノ、中ボモルスキイ派海岸派、フエドセイ
 エフツイ派及ヒ、フイリボフツイ派ハ共ニ前ニ記ルセル主義ヲ認識スル者ナリ此
 派ノ中ニハ極端ノ迷溺ト殘酷ニ陷レル者アリスコブアイ派(自カラ不具トナル者)
 異教ニ近キ「グーリスチ派(鞭打スル者)野獸ニ喰マシメンガ爲メニ其子ヲ森林ニ棄
 ツル」ステファノヴツイ派(救主受苦日ノ金曜日ノ後ノ木曜日ニ於テ天使ノ掌レル
 聖餐禮ノ麵包ト葡萄酒トヲ味ハンガ爲メニ口ヲ開キ待ツコトナスル)ラジニイ派
 (口ヲ開ク者)是ナリ近時ニ及ンテ合理論的教育ノ影響トシテ「スタンヂスト派」生
 シタリ此派ハ僧侶職及ヒ聖禮ヲ認識セス總テノ形式的禮拜ヲ拒絕スル者ナリ「ス
 タインヂスト派」ニ先チテ聖靈ヲ否定スル「モロカニ派(牛乳ヲ飲ム者)ツーボボルツ
 イ派(精神ノ角瓶)及ヒ其他ノ諸派起レリ
 政府ノ異端ニ對スル態度ハ時ニ從テ異ナレリ第十七世紀ノ終リマテハ異端者ハ
 迫害セラレ苛責セラレ處刑セラレタリ「ベートル大帝」ノ世ニ於テハ彼等ハ他ノ國
 民ト同シク俗權ヲ享受スルニ至レリ然レドモ二倍ノ稅ヲ課セラレ且特別ノ衣服

ヲ着クル等ノ制裁ニ服セリカテリン一世ノ時ヨリ以來ハ次第ニ寛大トナリ今日
 ニ至リテハ強迫シテ彼等ヲ改宗セシムルノ手段ヲ取ラス專ラ傳道會社傳道同盟
 講談及ビ書籍刊行等ノ方法ヲノミ用ヒテ彼等ヲ反正セシムルコトニ勉ムルニ至
 レリ

アレキサンダー三世即位ノ後間モナク一八八三年五月三日ニ於テ一個ノ法律ハ
 定メラレタリ此法律ハ正統教會ノ人民ノ中ニ起リタル異論者及ビ異派ノ位置ヲ
 根本的ニ變ジタル者ナリ此法律ニ據レハ正統教會ヲ離レタル異論者及ビ異派ハ
 私人ノ家及ヒ特ニ其目的ノ爲メニ指定セラレタル其他ノ建物ノ中ニテ公ケノ禮
 拜ヲ爲シ若シクハ其信スル所ノ宗教的禮式ヲ行フコトヲ得唯葬式ノ外僧衣ヲ着
 シテ公ケノ宗教的行進ヲ爲シ若シクハ公ケニ聖像ヲ運搬シ街道及ヒ四辻ニ於テ
 其宗派ノ讚美歌ヲ歌フヲ禁セラレシノミ異派ノ牧師及ヒ其他ノ人々モ共ニ自由
 ニ其教會ノ禮式ヲ行フヲ得然モ正統教會ノ信者ノ中ニ其謬論ヲ傳フルコトヲ許
 サレズ

從來ノ制限ガ次第ニ寛大ニ赴クト共ニ異端者ノ權ハ次第ニ擴張セリ彼等ハ公務

ニ關スル位置ヲ占メ若クハ商工業ニ從事スルコトヲ許ルサレタリ帝國ノ總テノ部分ニ住ヒ得ル旅行券ハ彼等ニモ與ヘラル、ニ至レリ
 唯スタレヂスト派及ヒ特ニ迷溺ノ甚シキ諸派ハ全ク禁セラレタリ
 禮拜ノ自由ト共ニ何人モ享有スル重要ナル權利ハ身體ノ自由ナリ何人モ罪過ナクシテ其權利ヲ奪ハル、コトナク法廷ノ判決ニ因ルノ外其權利ノ執行ヲ制限セラル、コトナシ罪過ニ對シテ蒙ル刑罰ハ必ラズ法律ト嚴密ニ一致セザルベカラズ
 然レトモ此通則ハ或ル除外例ナキヲ得ス第一些細ニシテ法廷ノ審判ヲ要セザル者アリ國稅關稅郵便稅ノ規則ニ關スル犯罪ノ如キ是ナリ此ノ如キ場合ニ於テハ略式ノ裁判ヲ用ユルヲ以テ足レリトシ科料金ヲ行政ノ官署ヨリ課ス公安ニ對スル犯罪ノ如キモ其一部ハ同様ノ除外例アリ衛生及ビ檢疫ノ規則ニ關スル犯罪是ナリ又犯罪ノ穿鑿ヲ便ニセンガ爲メ警察官及ビ刑事判事ハ犯罪ノ嫌疑アル者ヲ捕拿スルコトヲ得ルノ制アリ然レドモ判事及ビ刑事原告人ニシテ或ル人ニ對シテ不法ノ拘留ヲ爲シタルコトヲ認ムル時ハ其權限内ニ於テ速ニ其拘留ヲ許ルス

ハシ拘留セラレタル人ハ地方裁判所ニ其拘留ノ不法ナルコトヲ訴フルヲ得斯ル時ハ裁判所ハ最近ノ開廷日ニ於テ其訴訟ヲ審按スヘシ
 上ニ記ルシタル場合ノ外國事犯ヲ防禦センガ爲メニ行政官ノ用ユル特別ノ手段アリ即チ或人ヲシテ警察監視ノ下ニ在ラシメ若シクハ首府其他ノ場所ニ住スルコトヲ禁シ外國人ヲ國外ニ追放スルガ如キ是ナリ
 特別ノ場合ニ於テ時ト場所トナ劃リ戒嚴令ヲ布クコトアリ此時ニ方リテハ戒嚴令ヲ布キタル地方ノ地方官總督及ヒ知事ニ付スルニ私人ヲ捕拿シ罰金ヲ課シ或ル犯罪ヲ軍法會議ニ交付スル等ノ權ヲ以テス
 身體ノ自由ノ外ニ法律ハ又財産ノ安全ヲ保護ス財産ノ沒收ハ法廷モ亦刑罰トシテ命令スル能ハス其特ニ財産取押ヲ執行シ得ル場合ハ唯兵ヲ起シ若クハ君主ニ危害ヲ加ヘントスル計圖謀叛等ノ犯罪ニ於ケル場合ノミ然レトモ國家若シクハ公共ノ必要ノ爲メニ強制的ニ個人ノ財産ヲ取上ルコトハ固ヨリ國法ノ許ス所ナリ而モ此場合ニ於テハ之ニ相當スル賠償ヲ爲スヲ要ス
 露國臣民ニ通有ナル義務ノ第一ハ兵役ナリ第二ハ陪審役タル義務ナリ此義務ハ

今ヤ總テノ階級ノ人民ニ付セラレタリ及ビ國家ト郡ト自治體トニ種々ノ稅賦ヲ
出スノ義務ナリ臣民ノ義務ニ關スル細目ハ後章ニ於テ帝國ノ兵事裁判財政ノ組
織ヲ論スル時更ニ之ヲ詳論セン

第四節 異民族

(一) 東方ノ種族

此章ノ始メニ於テ既ニ説キシガ如ク露國ニハフィンランドノ人民ヲ始メトシテ
一般ノ露國臣民ト權利義務ヲ異ニスル種族アリ即チ異民族民是ナリ

此名稱ノ下ニ露國ノ東部ト北部トノ諸人種即チ蒙古種族波斯種族フィンランド
種族及ビ猶太種族ヲ含ム

法律ニ因リテ東方ノ種族ヲ六類ニ分ツ即チ(一)シベリヤノ種族(二)コンマンダー島

ニ住スル種族(三)アーチヤンゲル州ノメゼン地方ニ住スルサモエド種族(四)スタヴ

ロポール州ノ游牧種族即チノガイツイ族カラノガイツイ族等(五)カラマツクス族

(六)裏海外ノ地方ニ住スルオルヂンツイ族是ナリ

此等ノ種族ニ與ヘラレタル特權及ビ露國一般ニ行ハルノ法律ヨリ除外例トシ

テ取扱ハル、權ハ過去ノ遺物ナリ

言フマデモナキコトナガラキイフ府ガ政治ノ中心タリシ時代ノ露國ハ中央亞細

亞ノ高原ヨリ潮ノ如クニ歐洲ニ侵入セシ諸種族ノ爲メニ其獨立ヲ失ヒキ而シテ

モスコ朝ハ蒙古種族ノ羈絆ノ下ニ露國ノ政治的中心トナリシガ第十五世紀ノ

下半期ニ於テ終ニ蒙古ノ羈絆ヲ脱シタリ一三八〇年ニ於テドミトリドンスマイニ因ツテ

イブン三世ノ治世ノ時而シテ第十六世紀ニ於テハ韃靼主權ノ重要ナル二個ノ中心ヲ

略取セリ即チカザン(一五五二年)及ビアストラカン(一五五四年)是ナリ

然レドモ諸種族ヲシテ露國人ト同化セシムルコトハ固ヨリ長日ヲ期セザルベカ

ラス彼等ハ勳モスレバ反亂セントス是故ニモスコ朝ハ唯彼等ヲシテ露人貿易

及ビ露國ノ東界ニ於ケル地主ノ安全ヲ妨害セサシムルヲ以テ満足セリ斯ノ如

クニシテ殆ント記憶シ難キ古代ヨリカザン及ビアストラカンニ住スル種族ノ特

權ハ始マレリ

モスコ朝ノ東方種族ニ對シテ十分ナル制御ヲ爲シ得タルハカザンアストラカ

ンヲ始メトシテ露廷ニ不満足ナル總テノ種族ノ蜂起以後ニ在リ當時カザンアス

トラカンノ制服ハ極メテ難事ナリキ此ノ如クニシテ露國ハ纒ニ反亂ヲ平定シテ
太平ヲ樂ミシ後須臾ニシテ中央亞細亞ヨリ「カルマツク」種族ノ入寇アリ之ガ爲メ
「アストラカン」領ハ全ク安全ヲ失ヒ始メ殆ンド其ノ地ヲ守ルベキ手段ナキニ苦シ
ミタリキ「ザル」ミヒイルテロドロヴィチ(一六一六年ヨリ一六四五年マデ)及ヒアレ
キセイ、ミヒロヴィチ(一六四五年ヨリ一六七六年マデ)ノ世ニ至リテ「カルマツク」種
族ト條約ヲ訂結シ露領ノ安全ヲ約シタリト雖此約束ハ守ラレザリキペートル大
帝ハ露國人ト異種族トヲ混一スベキ手段ヲ取レリ人頭稅ヲ異種族ニマデ及ボセ
ル方法ハ彼等ヲシテ露國人ト異ナラシメシ障壁ヲ破レル者ナリ然レドモペール
大帝ノ死後其嗣立ノ諸君主ハ大帝ノ法ヲ固守スルコトノ極メテ難事ナルヲ見
キアンナ、イオアンノヴナ女帝(一七三〇年ヨリ一七四二年マデ)ノ時「キルギイズ」族
「バシキルス」族ナル新シキ群族現ハレタリ此群族モ亦「カルマツク」種族ト同ジク數
バ叛亂ヲ煽起シタリキカタリネ大女帝ノ時ニ起リタル「プーガチエツフ」叛亂(一七
七三年ヨリ一七七五年ニ至ル)ノ大部分ハ此種族ノ業ナリキ
各種族ノ狀態此ノ如クナルガ故ニ政府若シ其法律ヲ彼等ノ中ニ強行セントセバ

必ラズ精細ノ注意ト徐々タル順序トヲ以テセザルヲ得サリキ是レ或ル種族殊ニ
シベリヤノ或種族ガ今日ニ至ルマデ特殊ナル行政及ビ財政上ノ特權ヲ得ル所以
ナリ

一定ノ土地ニ住スル種族ノ權利ト義務トハ彼等ノ階級ニ從ヒ露國人ト同等タリ
然レドモ彼等ノ自治ニ關シテハ露國人ト異リタル些細ナル特權ヲ有ス
遊牧ヲ事トスル種族ハ露國ノ農夫ト同等ニ取扱ハル然レドモ彼等ノ自治ハ中央
亞細亞高原地位ノ風俗慣習ニ從フ彼等ノ法廷モ亦此風俗慣習ニ從フテ裁判ス
遊牧ヲ事トスル種族ハ其使用スベキモノ若シクハ其財產トシテ一定ノ土地ヲ指
定セラル而シテ露西亞人ハ其地ニ殖民スルコトヲ禁セラル

(二) 猶太種族

猶太種族ハ露國ノ異族民中ニ於テ特別ナル位置ヲ占ムモスコイ時代ニ於テハ彼
等ハ露國ニ入ルコトヲ禁セラレタリペートル大帝ノ時ニモ猶太種族ニ關スル一
般ノ法則ト云フベキモノハ定メラレザリキ然レドモ一七二七年ノ勅令ニ於テ露
國ニ住スル總テノ猶太種族ヲ國外ニ追放シ且其露國ニ歸ルコトヲ禁ジタリ

尋テ此勅令ハ一七四二年ニ於テエリサヴエタ女帝ニ因リテ確定セラレタリ然レドモカテリン二世ノ世ニ於テ猶太種族ニ關スル問題ハポーランドノ諸州ヲ露國ニ加ヘタルガ爲メニ新ラシキ形ヲ取ラザルヲ得ザルニ至レリ何トナレバ之ヨリ先キポーランドニテハカシミル大王ノ政策ニ因リテ多數ノ猶太種族ヲシテ其國內ニ永住セシメタレバナリ

之ニ因リテ當時始メテ猶太種族ノ住ムベキ地方ノ疆域ヲ定メタリ而シテ彼等ハ一定ノ州郡ノ外永住スルヲ許サレザリキ近世ニ至リテアレキサンダー一世ノ治世中一八〇四年ニ於テ始メテ猶太種族ニ關スル一般ノ法律ハ頒布セラレタリ此法律ノ重要ナル目的ハ露國人ヲシテ生産的ノ勞働ニ服セシメン爲メナリ此法律ニ因リテ猶太種族ハ現在ノ特權ナキ階級ノ中ニ加ハラザルヲ得ザルニ至レリ而シテ猶太種族ニシテ地主タル者ハ多少ノ特權ヲ與ヘタリ之ト共ニ猶太種族ハ村落及ビ殖民地ニ於テ酒舖若シクハ旅店ヲ開クコトヲ嚴禁セラレタリ

一八三五年ニ於テ猶太種族ニ關スル新シキ條例出デタリ此條例モ亦前ト同シ性質ノ者ナリキ然レトモ之ト同時ニ猶太種族ト他ノ人民トノ區別ヲ明カニスベキ

方法ハ設ケラレタリ斯クシテ一八三五年ノ法律ニ因リテ猶太種族ハ各地ニ事務局ヲ設ケ等級ト租稅ヲ割賦スルノ權ヲ委スルコトヲ許サレタリ此法律ハ一八四四年ニ至リテ廢セラレシガ要スルニ古來彼等ノ中ニ存シタル法ヲ公認シタルニ過ギザリキ一八四四年ニ至リテ新シキ勅令ニ因リテ猶太種族ニ課セラレタル特殊ナルコロボツチノイ稅ノ法ニ因リテ猶太種族ノ學校ヲ建ツベキコトヲ令セラレタリ

アレキサンダー二世ノ即位ト共ニ政府ハ猶太種族ニ對シテ温和手段ヲ取り且從來彼等ニ加ヘラレタル制限ヲ除キ彼等ヲシテ露人ト同和セシメントセリ而シテ此ノ如クナルニ至リタル重モナル目的ハ彼等ヲシテ生産的ノ事業ニ從事セシメンカ爲メナリキ

現在ノ法律ニ因レバ猶太種族ノ居住ヲ許サル、地ハポーランド王國ノ十州、ベスサラビア、ヴイルナ、ヴイテブスク、ヴナルヒニア、グロンド、エカテリノストラフ、コヴノ、ミンスク、モギリイフ、ポドリヤ、ボルタヴァ、チエルニコツフ、キイフ、グヘルソン、タウリグノ諸州ナリ但シ此諸州ノ中キイフ、ヤルダ、ニコラーフ、セバストポール等ノ都

府ハ商人タル猶太種族ノ外住居スルコトヲ許サレズコウルランド州ニ於テハ一八三五年以前ニ住居シタル猶太種族ノミ住居ノ權ヲ有ス
 加之猶太人ハ國境ヲ去ル五十「ヴェルスト」ノ内ニ住居スルコトヲ許サレズ是レ其密貿易ヲ禁センカ爲メナリ一八八二年ノ法律ニ因リ彼等ハ都府及ビ邑ノ外ノ地ニ住シ若シタハ之ヲ質地抵當地トシテ收ムルコトヲ禁セラル露西亞帝國ノ全部ニ於テ前ニ記シタル地方ノ外ニ於テハ猶太種族ハ唯生業ノ爲メ一時寄留スルコトヲ許ルサル、ノミ然レドモ之ガ例外トシテ諸方ニ住居スルノ自由ヲ享有スル者モ亦少カラス即チ(一)第一等ノ商社ニ屬スル商人ハ五年以上ノ期限ニ於テ住居ノ自由ヲ有ス(二)高等學校ノ課程ヲ卒ヘタル者(三)高等學校ノ學生タル者等ナリ通シテ之ヲ曰ヘバ猶太種族ハ國家ノ官職ニ就クコトヲ得ズ但シ學位ヲ有スルモノ及ビ猶太種族ノ住スル地方ニ於テ一定ノ場所ニ任命セラレタル醫師ハ例外トス且猶太種族ハ郡若クハ自治體ノ代表者撰舉ニ參スルコトヲ得ス然レドモ上文記ルシタル所ノ猶太種族ハ總テ「ラビ」譯者曰ク猶太ノ古傳ノ教訓ヲ奉スル猶太種族ニ限ルコトヲ注意セザルベカラス露國ニ於テ最モ必要ニシテ最モ生

産的ナル「カラノムス」族ノ猶太種ハカテリン二世ノ時以來一般ノ露國臣民ガ享有スル總テノ權利ヲ享有セリ

露國ニ於テ「ラビ」ノ教訓ヲ信ズル猶太種族ノ數ハ五百萬人ニ上ル

(三) フインランド人

フインランドノ國民タル權利ハ左ノ方法ニ因リテ之ヲ得ベシ

(一)フインランドノ住民ノ子タルニ因リテ

(二)女子タル場合ニ於テフインランド人ニ嫁セシコトニ因リテ

(三)外國人タル場合ニ於テ歸化ニ因リテ

(四)露國入タル場合ニ於テ民籍ノ再登記ニ因リテ

フインランドハ其國特別ノ貴族ヲ有ス(總數二百四十家其階級ト稱號トハ露帝ノ與フル所ナリ其他ノ階級即チ「ルーテル」派ノ僧侶都人農夫ハ共ニ特別ナル權利ヲ有セズ

一八九〇年ニ於テフインランドノ人口ハ二百三十八萬ヲ超ヘザリキ

第五節 露國ニ於ケル外國人ノ權利

外國人ハ彼等ニ關スルコトニ就テハ總テ露國ノ法律ニ從ハザルベカラズ譬ヘバ
 彼等ハ其財産ニ對シテ露國ノ臣民ト同様ノ租稅ヲ課セラル、如シ然レドモ彼等
 ハ兵役ノ義務ナシ而シテ法律ハ露國臣民ニ因リテ享有セラル、或ル權利ヲ外國
 人ニ附與ス
 斯クノ如クニシテ外國人ハ第一ニ商社及ビ生産的組合ニ加入シ且ツ總テ商業ヲ
 營ムノ權利ヲ有ス
 且彼等ハ自己ノ財産ヲ有シ且ツ土地ヲ所有スルノ權アリ
 然レトモ土地所有ノ權ハ一八八七年三月十四日ノ勅令ニ因リテ制限セラル、所
 アリ此勅令政略上ノ必要ニ起リタル者ニシテ露國ノ西界ニ接スル二十一州ニ於
 テ都府以外ノ地ヲ所有シ或ハ抵當物トシテ取ルコトヲ外國ニ禁ジタル者ナリ
 外國人ノ一身上ニ關スル權利ハ其國ノ法律ニ從フ政治上ノ權利ハ教育科學及ヒ
 其他専門的ノ技藝ニ於テ國家ノ官職ニ就クノ權利ヲ有スルノミ

第三編 國家行政

第一章 國家ノ高等機關

主權者ガ直接ニ其職務ヲ行フベキ範圍ヲ指シテ最高等ノ行政ト曰フ主權者自ラ
 行ハザル政務ハ之ヲ從屬的官署ニ委任ス從屬的官職ノ權限ハ法律ニ因リテ定メ
 ラル

主權者ハ最高等ノ行政ニ關シ國家ノ高等機關ヲシテ參贊セシム

國家ノ高等機關トハ即チ第一ニ審議ノ官府ナリ樞密院、内閣、シベリヤ鐵道委員會、
 陸軍參謀部、海軍參謀部、官有物保管者會議、行政裁判委員會是ナリ凡テ此等ノ官職
 ノ評議スル處ハ主權者ノ直裁ヲ待テ確定ス

此外執行ノ權ヲ有スル他ノ二個ノ國家ノ高等機關アリ即チ元老院及ヒ敎務院ナ
 リ此等ニ因リテ主權者ハ俗事及ヒ宗教ノ行政ニ對シテ直接ニ自己ノ意志ヲ行フ
 コトヲ得

(一) 樞密院

樞密院ハアレキサンダー一世帝ノ創立シタル者ニシテ法律ノ立案及ヒ頒布ニ關
 シ君主ニ參贊スベキ審議ノ官ナリサレバ之ヲ以テ從前君主ノ左右ニ侍シ雜務ヲ

掌リタル參議官ヲ以テ樞密院ノ前官ナリト思フハ非ナリ大公時代ノ參議官即チ「ゾーマ」ハ大公ノ親裁ヲ待ツ總テノ問題ニ對シテ其意見ヲ陳述セリモスコト時代ノ貴族會議モ亦之ト同シク同時且ツ混一シテ立法行政司法ノ事務ヲ行ヒシ者タルノミナラス其權限モ亦不明ニシテ或ル事務ハ自ラ決シ或ル事務ハ君主ノ裁可ヲ待チタリキ此貴族會議ハベトトル大帝ノ時ニ廢セラレ一七一一年ニ至リテ元老院ナル者組織セラレタリ而シテ其職務ハ君主ノ勅令ヲ議スルニ在リ此元老院ハ自ラ事ヲ決スルノ權アル獨立ノ官職ニシテ純乎タル審議ノ官職ナリ

立法ノ事ヲ審議スベキ官職ヲ設クルノ考案ハカテリン二世ノ時ニ生ゼリ而シテ其實行セラレタルハアレキサンダー一世ノ時ニ在ルノミ一八〇一年三月三十日ニ發セラレタル勅令ハ國家ノ事務ヲ調查商議スル爲メニ常置委員會ヲ設クルコトヲ布告シタリ此會員ノ皇帝ニ呈シタル誓言ニ因レハ當時此官ハ樞密院ト稱セラレシナリ當時ノ勅令ニハ此官職ハ唯立法ノ爲メニ設ケタルカ如クナレドモ始メヨリ司法ニ關スル事件モ此官職ノ調査審議スル所ナリキ而シテ一八〇四年ヨリ却テ司法事務ヲ以テ其專任ノ權限トスルニ至レリ此ノ如ク此ノ官職カ次第ニ

國家ノ事務ニ關シテ勢力ヲ失フト共ニ各種ノ政務官ハ次第ニ組織セラレシカバ此官職モ亦大ニ改革スルニ非レバ國務ノ滯滞ヲ招クベキ勢トナレリ是ニ於テ一八一〇年一月一日ニ於テ新ニ樞密院ヲ組織シタリ當時立法者ノ意ハ國家行政ノ事務ヲシテ秩序ト統一トヲ有セシメンガ爲メニ政府ノ執務ヲシテ堅固ニシテ不易ナル法律ヲ基礎トセシメントシ樞密院ヲ以テ漸時此目的ヲ達スベキ機關トスルニ在リ

一八一〇年以來樞密院ノ組織ト其權限トニ關シテ多少ノ改正アリタレドモ樞密院ヲ以テ立法事務ノ參贊ヲ掌ル官職トスル原則ハ一モ變ズル所ナカリキ

現行ノ法律ニ因レバ樞密院ハ國家行政ノ各部ニ關スル立法的ノ問題ヲ審議スル團體ナリトセラレタリ此等ノ問題ハ先ヅ樞密院ノ議ヲ經テ然ル後ニ上奏ス然レドモ法律ノ審査ノミガ樞密院ノ唯一ナル目的ニハアラス樞密院ハ總テノ事務ニ關シテ皇帝ノ參議官タリ立法上ノ問題ハ其事務ノ大ナル部分タルノミ

(一)立法的ノ事務即チ新法ノ草案及ビ現行法律ノ補則細則ノ草案ニ關スルコト

樞密院ハ自ラ法律改正ノ問題ヲ提出スルヲ得ズ然レドモ其議題トナリシ草案ヲ

審査シ之ヲ變更シ若クハ整理スルノ權ヲ有ス而シテ樞密院ガ爲セル此變更ハ數
バ頗ル大ナルコトアリ

(二)一般ノ法律ノ例外トシテ一個人若シクハ一團體ヲ待遇スベキ特別ノ法例モ亦
樞密院ヲシテ豫シメ之レヲ審議セシム即チ(甲)特別ノ權利ヲ有スル合資會社ノ設
立(乙)國家及ヒ公共ノ必要ノ爲メニ個人ノ財産ヲ買上クルコト(丙)爵位ノ區別即チ
公伯男ノ區別ヲ確定スルコト等ナリ

(三)發布セラレタル諸法律ハ之ヲ集輯シ若クハ分類セザルベカラズ是ニ於テカ法
律集若クハ會典ヲ刊行スルノ必要アリ一八一〇年ニハ此目的ノ爲メニ樞密院中
ニ法律編纂委員ヲ設ケタリシガ一八二六年ニ至リテ其事務ヲ皇帝陛下ノ侍從法
官ニ移シ之ヲ第二部ト名ヅケタリ一八八四年ニ至リテ第二部ハ再ビ樞密院ニ合
併セラレ法典編纂部ト稱シタリ然ルニ一八九四年ニ於テ再ビ此部ヲ廢シ其事務
ヲ移シテ國務大臣ノ指揮ニ從ヒ法律ノ編纂ヲ掌ル參事院ノ手ニ屬セシメタリ
露西亞帝國ノ法律ノ第一ノ編成ハ一八三二年ニ於テ十五卷ノ法典トナリテ刊行
セラレタリ然レドモ其後此法典ヲ加剛セザルベカラザル幾多ノ新法ヲ發シタレ

バ法典ノ各卷ニ附録ヲ加ヘ新タニ刊行スベキ必要ヲ生ジタリ最後ノ全部出版ハ
一八五七年ニアリ而シテ各卷特別ノ出版ハ猶後日ノ者モアリタリ

(四)高等ナル行政事務ノ或ル種類ニ關シテ君主ハ樞密院ニ諮詢ス即チ(甲)法律ヲ實
行シテ効果アラシメンガ爲メニ一般ニ與フル勅諭(乙)特殊ナル場合ニ於ケル大事
件(丙)更ニ之レヨリモ重要ナル外政即チ宣戰媾和等はナリ然レドモ此等ノ事件ノ
如キハ樞密院ノ議ニ附セラル、コト甚ダ稀ナリ何トナレバ重要ナル内政ニ關ス
ル問題若シクハ法律ヲ實行スルノ命令ハ内閣委員會ノ討論ニ附セラル、ノミナ
ラズ外交上ノ重要ナル問題ハ豫シメ之ヲ議シ得ル餘裕アルノ場合ノ外ハ之ヲ樞
密院ノ議ニ附スルコトナク而シテ斯ル場合ハ極メテ稀ナレバナリ

(五)國家行政ノ範圍ニハ總テノ國家ニ於テ立法部ノ管理ニ屬セシムル事務アリ即
チ高等ナル財政ノ問題ナリ露國ノ法律モ亦嚴ニ此原則ヲ守ル故チ以テ主權者ノ
裁可ヲ要スル總テノ財政上ノ問題ハ樞密院ノ議ニ附シ國家豫算表及ヒ各大臣ノ
提出シタル豫算表各官職ノ要求ヲ審議セシム加之樞密院ハ前記ノ豫算ニ超過シ
タル各官職ノ信用借ヲ審案ス然レドモ戰爭若クハ政略等ノ重大ナル場合ニ於ケ

ル信用借ノミハ此限ニ非ズ殊ニ急速若クハ秘密ヲ要スルモノナ然リトス官廷ノ爲メニ要スル重大ナル信用借及ビ君主ノ命令ニ因リテ諸種ノ人ニ與フル特別ノ金額モ亦樞密院ノ審案スル限リニ非ズ總テ此等ノ信用借ハ内閣ヨリ直チニ君主ノ裁可ヲ乞ヒ樞密院ノ議ニ附スルコトナシ

樞密院ノ議ニ附セラルベキ財政上ノ事件ハ此外猶左ノ數件アリ即チ國家ノ歳入及歳出ノ計算表ヲ檢査スルコト、皇室費ノ支出ニ關スルコト、國家ノ財産若クハ歳入ヲ一個人ノ手ニ交附スルコト、總テ重大ナル財政上ノ事件ニ關スルコト是ナリ始メ地方自治體即チ「ゼムストヴチ」未ダ設ケラレザリシ時ハ地方ニ於ケル財政ノ問題モ亦樞密院ノ議ニ附セラルベキモノトセラレシカバ樞密院ハ各州各郡ノ歳出入豫算ヲ檢査シタリシガ現今ハ斯ル公ケノ官職ナキ地方ノ豫算表ノミ樞密院ノ議ニ附セラレ其他ノ地方ニテハ「ゼムストヴチ」自ラ其豫算表ヲ造ルコトナレリ

(六)前キニ司法ノ範圍ニ於ケル君主ノ直接ニ行フ權利ニ就テ記ルシタリシガ此權利ノ中ニハ樞密院ヲ媒介トシテ行ハレシモノアリ前例ニ因ルニ元老院ハ最終審

ノ法廷タリト雖猶ホ或ル事件ハ樞密院ノ議ヲ經テ君主ノ裁可ヲ待チタリキ一八六四年ニ於テ法廷ノ新組織アリ且元老院ノ中ニ覆審部譯者曰ク法廷ノ判ヲ設ケシヨリ樞密院ノ議ニ付セラル、司法上ノ事件ハ著ルシク減ジタリ唯元老院ノ他ノ部覆審部ニアラサルノ最終判決ニ對シテ私人ヨリ請願アリシ時ハ樞密院ノ特別ナル評議會此評議會ハ元老院ノ議員ニ因リテ成ニ附ス然レドモ此評議會ハ唯其請願ガ果シテ元老院ノ總評議會ニ附スベキ充分ナル理由アリヤ否ヤヲ決スルヲ得ルノミ

(七)樞密院議員、諸大臣、總督及ビ之ト階級ヲ同フスル官職ノ職責違犯ノ責任ニ關スル問題ハ樞密院ノ職權内ニ在リ

(八)以上ノ諸件ハ樞密院ノ正式ナル職權ナリ而シテ此外時トシテ重大ナル權力ヲ附與セラル、コトアリ例ヘバ君主ガ久シク不在ナル時ノ如キハ樞密院ニ附スルニ臨時ニ君主ヨリ委任セラレタル特別ノ權力ヲ以テスルコトアルガ如シ假令平時ハ其權限内ノ事ニ非ザルモ君主ノ命令ニ因リテ特ニ樞密院ノ議ニ附セラル、コトアリ

樞密院ハ三部ト總會トナリ以テ構成ス
 各部ハ三名ヨリ少カラサル議員ニ因リテ組織セラル議員ハ皇帝ノ親任スル所ニ
 シテ其部員タル任期ハ半年ナリ法律部ハ一般法律ノ草案ヲ審議シ政務兼教務部
 ハ總テノ司法上ノ問題及ヒ宗教警察ニ關スル問題ヲ審議シ經濟部ハ産業科學貿
 易財政ニ關スル問題ヲ審議ス
 或ル問題ハ各部ノ決議若シハ判決ヲ以テ直チニ君主ニ上奏ス然レドモ大抵ノ
 場合ニ於テハ先ツ之ヲ總會ニ提出ス
 總會ハ各部ノ議員及ヒ諸大臣各部ニ屬セザル樞密議員ヲ以テ構成ス原則ニ於テ
 ハ總會ノ議長ハ皇帝ナラザルベカラザレドモ實際ニ於テハ皇帝ノ自ラ議長席ヲ
 占ムルコト少キヲ以テ議員ノ一員ヲシテ議長タラシム之ヲ樞密院議長ト云フ樞
 密院議長ハ年々新任ス
 參事院ハ國務大臣ノ監督ノ下ニ樞密院ノ事務ヲ行フ
 樞密院ノ奏上ガ君主ノ裁可ヲ得ルニハ數多ノ方式アリ
 左ノ事項ハ君主ノ裁可ヲ待チテ確定ス

(一)總テノ新法

(二)租税ノ估價及ヒ革除

(三)新ニ任命セラルベキ官吏ノ姓名

(四)歲計表

(五)國家若クハ公共ノ所有ノ爲ニ個人ノ財産ヲ徵收スルコト

此中ニ於テ總テノ新法ハ君主ノ署名ニ因リテ批准セラル其他ハ樞密院ノ決議書
 ニ君主自ラ其如クセヨト記ス君主若シ少數者ノ説ニ同意シ若クハ別ニ親裁ヲ爲
 ストキハ特別ナル勅令ニ親署ス其他ノ勅裁ハ總テ左ノ如ク記ス曰ク「皇帝陛下ハ
 何々ノ事件ニ關シ樞密院ノ總會若シクハ各部ノ説ヲ裁可シ之ヲ實施セシム」而シ
 テ後チ此決議ハ樞密院議長ニ因リテ署名セラル
 樞密院ノ議決ヲ裁可スルニ諸種ノ形式アルハ實際上殊ニ必要ナル者ナリ何トナ
 レバ君主之ニ署名シ且成規ニ發布シタル勅令ハ法律ニ因レハ唯他ノ勅令ニ因リ
 テノミ無効ナラシムルコトヲ得レバナリ
 此故ニ若シ或ル大臣ニシテ其從屬スル官職ニ對シ單ニ君主ノ口宣ニ過キササル命

令ヲ發シ之ヲ以テ君主ノ署名ニ因リテ確定シタル法律ヲ廢セントスルコトアレバ從屬ノ官職ハ其命令ヲ實施スル前矢先ツ之ヲ其大臣ニ報告スルノ義務アリ而シテ大臣猶之ヲ反覆スルトキハ從屬ノ官職ハ之ヲ元老院ニ提出シテ其最終ノ判決ヲ受ケザルベカラズ

(二) 内閣會議

内閣會議ハ一八五七年ニ於テ諸大臣ノ事務ヲ統一スル目的ヲ以テ設ケラレシ者ナリ皇帝アレキサンダー二世ノ時ニ行ハレタル總テノ改革ハ奴隸廢止ノ事ヲ除クノ外總テ皇帝ノ監督ノ下ニ此會議ニ因リテ審議セラレタル者ナリ一八六一年ニ發セラレタル内閣會議組織ノ法ニ因レハ内閣會議ハ現行法律ノ改廢ニ關シテ各大臣ノ提出スル草案ヲ受領スル者ナリ

各大臣提出ノ草案ハ内閣會議ニ於テ討論セラル而シテ其討論ノ結果ニ因リテ生シタル草案ヲ樞密院ニ回附ス内閣會議ニ於テ討論スベキ行政上ノ問題ノ中ニハ行政ノ各部ヲシテ統一セシムルヲ以テ目的トスル者アリ即各部ノ矛盾ヲ除キ其一致シタル行動ニ必要ナル方法ヲ設ケルコトノ問題ナリ内閣ハ各部ニ於テ行ハ

レシ重要ナル事務ノ報告ヲ受ク是レ各大臣ヲシテ其同僚ノ重要ナル動作ヲ知ラシメンガ爲メナリ内閣ハ又行政各部ノ事務ニ關スル報告ヲ検査スル等ノ事アリ然レドモ此ノ如キ問題ガ内閣會議ノ議ニ上ルハ唯君主ノ允可ヲ得シ時ニ止ル而シテ此ハ其事件毎ニ君主ノ特ニ内閣會議ニ下シテ議セシムル所ナリ是レ蓋シ内閣會議ノ問題タル皇帝陛下ノ親裁ノ下ニ國家ノ行政ヲ統一スルニ在ルヲ以テナリ而シテ内閣會議ハ皇帝ノ命ニ因リ其他ノ總テノ事件ヲ審査スルコトヲ得ベキモ之ト同時ニ樞密院若シクハ内閣委員會ノ權限ヲ制限スルコトヲ得ズ假令内閣會議ノ審査ヲ經タル事件ナリトモ其事若シ法律ニ定ムル所アレバ樞密院若クハ内閣委員會ノ議ニ附セラル、コトヲ免ル、ヲ得ズ内閣會議ハ君主自ヲ議長タリ内閣會議ヲ構成スル者ハ諸大臣及ビ其同等官行政各部ノ長官立法ノ問題ニ就キテ解釋ヲ與フベキ法制長官及ビ勅命ニ因リテ列スル他ノ諸人ヲ以テ構成ス事務ノ報告ハ大臣若シクハ内閣委員會會議々長ノ名ニ因リテ爲サル

(三) 内閣委員會

國家ノ高等行政ニ關スル事務ハ内閣委員會會議ノ審査スル所タリ

内閣委員會議ハ一八〇二年諸大臣ノ置カレシト同時ニ設ケラレシ所ナリ諸大臣
ヲ置クノ布告アリシ時大臣ハ樞密院ノ議員タルコト及ビ通例ノ事務ハ單ニ大臣
ニノミ因リテ組織セラレタル委員會ニ於テ決スベキコトヲ規定シタリ蓋シ更ニ
切要ナル事件ヲ議センガ爲メニハ一週一度其他ノ樞密院議員ヲ加ヘテ協議スル
ノ制アリシガ爲メナリ

是ニ因リテ之ヲ見レバ最初ノ内閣委員會ナルモノハ君主ニ最モ近キ樞密院議員
即チ君主ノ大臣ニノミ因リテ構成スル樞密院中ノ特別ナル集會ニ過ギザリシナ
リ當時ノ國家制度ニ關シ最モ信憑スルニ足ルベキ故實家タル伯爵スベランスキ
イ曰ク當時大臣ノ君主ニ奏上スベキ事務ハ各々別ニ奏スルコトアリ或ハ合セテ
之ヲ奏スルコトアリ各大臣ノ特別ナル奏上ニ關シテ之ガ爲メニ定メタル特別ノ
時日アリ合セテ之ヲ奏上スヘキ事務ハ君主ノ御前ニ於テ開キシ大臣ノ總會ニ於
テ奏上セリ而シテ此會ヲ内閣委員會ト呼バザリキサレバ内閣委員會ハ特別ノ一
官職ニ非ズシテ唯大臣ノ事ヲ奏上スル方法タルニ過ギザリキ
内閣委員會ノ職責ヲ定メタル最初ノ規則ハ一八〇五年君主ガ聖ペートルスボル

クテ去ル時ニ發布セラレタリ而シテ其留守中ノ任務モ亦君主ガ在ス時ニ行ヒタ
ル前例ト同シカルベキコトヲ規定シタリ

同時ニ内閣委員會ハ急ヲ要スル場合ニ於テ君主ノ允可ヲ得ズシテ事務ヲ行フノ
權ヲ大臣ニ與フルノ權ヲ付セラレタリ而シテ此事ニ關シテハ勿論全大臣其責任
ヲ負フベキモノトス

一八〇八年ニ至リテ内閣委員會ノ權限ハ更ニ擴張セリ是レ其通常ノ事務ノ外ニ
市民ノ平安安寧ヲ保護スルコト及公共ノ糧食ニ關スル高等警察權ヲ以テ之ニ附
與セラレタレバナリ

此故ニ内務大臣及ビ凡テ行政各部ハ國家ノ健全ト安寧トニ關スル報告ヲ内閣委
員會ニ提出セザルベカラザルニ至レリ

然レドモ之ト同時ニ内閣委員會ノ會議ニ君主ノ臨御スルコトハ止ミタリシモ皇
帝アレキサンダー一世ハ絶ヘズ内閣委員會ノ爲ス所ニ注意シ數バ其事務ニ關シ
テ指揮訓令スル所アリタリ

ナボレオントノ戰爭ハ内閣委員會ノ權限ヲ更ニ大ニ擴張スル原因トナリキ一八

一二年三月二日皇帝アレキサンダー一世ノ軍旅ニ赴カントスルヤ内閣委員會ノ新組織ヲ裁可シ之ニ與フルニ國家行政ニ於ケル總テノ事務ニ關スル特別ノ權ヲ以テセリ内閣委員會ノ議長タルベキ者モ亦特命セラレタリ而シテ各大臣ノ外ニペートルスボルグ府ノ指令長官及ヒ樞密院各部ノ長モ亦内閣委員會ニ列席スルコトハナリタリ

君主ノ不在ノ爲メニ特ニ内閣委員會ニ附與セラレタル臨時ノ權ハ其後自カラ廢セラレタリ然レドモ内閣委員會ノ通常ノ權能ハ斷ヘズ擴張セラレタリ殊ニ皇帝ニコラス一世ノ時ニ於テ各種ノ事務ヲ其權限ノ内ニ移シタリ

現時ニ於テ内閣委員會ノ權限ニ屬スル事務ハ之ヲ二類ニ分ツベシ

(一)各大臣ノ行政事務ニ共通スベキ事件ニ關スルコト殊ニ君主ガ各大臣ニ委任シタル權限以外ノ事件 此等ノ事件ノ中元老院ノ權限ニ因リテ裁可ヲ與ヘ得サル者ハ之ヲ内閣委員會ニ付ス且各大臣疑義アリテ自ラ決スル能ハサル者及ビ行政各部ノ共同ナル行動ヲ必要トスル者モ亦内閣委員會ニ附ス

(二)其事務ノ性質ニ因テ特ニ内閣委員會ニ附スベキモノ 此ハ其種類區々ニシテ

固ヨリ明カニ分類スベカラズ元來必要ノ起リシ毎ニ内閣委員會ニ委任セラレタル者ナリ即チ公安ニ關スルコト公共ノ糧食ニ關スルコト正統教會ノ保護ニ關スル行政交通産業財政ニ關スル事務ニ鐵道布設ノ許可及ビ鐵道事業ニ關スル重要ナル處置合資會社ニ關スル事件等ナリ

内閣委員會ハ高等行政ノ官職タルヲ以テ知事及ビ總督ノ報告ヲ調査シ其上奏ノ手續ヲ定メ且ツ其上奏ニ對スル君主ノ批准ノ實行ヲ監督ス

内閣委員會ハ各大臣ノ報告及ビ知事ト地方政務トニ關シテ元老院ノ爲シタル職責ノ決議ヲ審査ス地方自治政ニ關シテハ内閣委員會ハ地方自治體即チ「ゼムスキ」及ビ都府參事會ノ決議ヲ審査シ若シ其決議ニシテ國家ノ幸福ヲ増進スル者ニアラス若シクハ明カニ人民ノ利益ニ反對スル者ナリト認ムル時ハ之ヲ取消シ若クハ變更スルノ權ヲ有ス内閣委員會ハ又文官恩給金増加ニ關スル事務ヲ決スルノ權アリ且一八九一年マデハ帝室恩賜金ノ下賜ニ關スル事務ヲ取扱ヒタリキ内閣委員會ハ審議ノ官職ナルヲ以テ其決議ハ有害ナル書籍ノ發行禁止ノ如キ特別ナル例ヲ除キテハ君主ノ裁可ヲ經ルニ非ザレハ之ヲ強行スルヲ得ズ且ツ内閣

委員會ハ執行ノ權ヲ有セス其決議ハ各大臣ニ因リテ執行セラル
 内閣委員會ハ其官職ノ權利ニ因リテ議員タル下ノ諸人ニ因リテ構成ス即チ(一)各
 大臣及び其同等官行政各部ノ長官(二)樞密院ノ各部長(三)法制長官是ナリ君主ハ此
 外猶他人ヲシテ其會員タラシムルコトヲ得
 内閣委員會ノ事務局ハ内閣委員會事務局總裁ノ指揮ノ下ニ在リ
 政府ヨリ鐵道ニ與フル補助金保證金其他ノ特權ハ内閣委員會ノ議長ヲ議長トシ
 タル内閣委員會ト樞密院財政部ノ共同會議ニ因リテ審査シ樞密院財政部ハ總テ
 ノ財政ニ關スル問題ヲ審査ス此會議ノ事務モ亦内閣委員會事務局總裁ノ整理ス
 ル處タリ

(四) シベリヤ鐵道委員

鐵道ノ建築ト其營業トハ一般ニ内閣委員會ノ審議スル處タリ然レドモシベリヤ
 鐵道ハ其シベリヤノ殖民ト産業トノ發達ニ及ボスヘキ影響ノ重大ナルヲ以テ先
 帝ハ之ガ爲メニ特別ナル委員ヲ任命シシベリヤ鐵道ノ建築ト之ニ附屬スル諸問
 題トヲ裁決センガ爲メニシベリヤ鐵道全體ノ事務并ニ其各部ノ統一ニ關スル問

題ヲ審議セシメタリ此等ノ問題ハ鐵道附近ノ殖民シベリヤ産業ノ開發及ヒ進歩
 殊ニ炭鐵ノ開鑿鐵鋼鐵煉石灰ノ産出ニ關係ス且バイカル湖及ヒ此鐵道ヲ横斷シ
 若クハ他ノ状態ニ因リテ此鐵道ト連ナレル河川ノ汽船航海ヲ獎勵スルコトモ亦
 此等ノ問題ニ關係アリ而シテ之ト同時ニ未ダ十分ニ探險セラレサル或ル地方ヲ
 特ニ精査スルノ必要ヲ生シタリ總テノ此問題ハシベリヤ鐵道委員ノ審議ニ附セ
 ラル、所ニシテ其議長トシテ指命セラレタルハ皇太子殿下即チ今上皇帝ニコラ
 ス二世ナリキ

一八九三年二月十日最初ノ委員會ガ開會セラレシ時議長殿下ハ此委員會ニ托セ
 ラレタル事務ノ廣大ナルコトヲ思ヘバ余ハ戰々兢々ヲ思ナキ能ハス然モ余ガ國
 家ヲ愛スルノ心ト切ニ國家ノ繁昌ヲ欲スル願望トハ余ヲシテ愛スヘキ父帝ノ命
 ヲ受クルノ力ヲ生セシメタリトノ意ヲ傳ヘラレタリ
 今上陛下ハ即位ノ後モ猶ホ此ノ委員長タルコトヲ止メス陛下ノ御宇ニ於テ開キ
 タル最初ノ委員會ニ於テ陛下ガ決シテ忘ル、能ハサル先帝ノ創メラレシ此ノ人
 文進歩ノ平和事業ヲシテ最モ廉價ニ最モ迅速ニ最モ堅固ニ成功セシムルハ獨リ

陛下ノ神聖ナル義務ナルノミナラス亦陛下ノ熱心ナル希望ナル旨ヲ曰ハセラレタリ

シベリヤ鐵道委員ハ左ノ諸人ニ因リテ構成ス即チ内閣委員會ノ議長、内務大臣、農務及ビ領地大臣、大藏大臣、逓信大臣、陸軍大臣及ビ海事省總裁、會計検査官長ニシテ委員ハ審査ノ補助ニ供スル他ノ諸人ヲ召喚スルコトヲ得

立法上ノ問題ニ關シテハシベリヤ鐵道委員ト樞密院法律部トヲ協同シタル會議ヲ開ク

鐵道委員ニ關スル庶務ヲ調理スルハ内閣事務局總裁ノ任ナリ

前ニ記載シタル高等行政機關ノ外時々他ノ特別ナル委員ノ設ケラレシコトアリ即チアレキサンダー一世ノ時ニハ有名ナル「非官委員會」ナル者アリ此委員會ハアレキサンダー一世ニ親近ナル諸人ニ因リテ組織セラレタル者ニシテ頗ル重要ナル位置ヲ占メタリキ即チ伯爵コトコビイ、ノヴオスシルツエツフ、公爵ツアルトリスキ及ビ伯爵ストロガノツフ等ナリ此委員ハ唯國家ノ大事ヲ審議スルノミナラ

ズ當時ニ於テハ最モ急進的ナル改革ヲモ立案シタリ

爾後ナポレオントノ戰爭即チ所謂愛國の戰爭ノ間、財政委員會ナル者ヲ設ケタリ此委員會ハ今日マデ繼續セリ而シテ一八二二年ニ於テシベリヤ事務委員會ナル者組織セラレタリ此委員會ハ伯爵スベランスキイノ草案ナルシベリヤノ行政組織ニル爲メニ置カレタル者ニシテスベランスキイノ草案ナルシベリヤノ行政組織ニ關スル問題ハ此委員會ニ於テ討論セラレ一八二二年ニ至リテ決定シタリ斯クノ如クニシテ此委員會ノ目的ハ既ニ達シタルヲ以テ猶之ヲ存スルノ必要ナカリシカバ其事務ヲシベリヤニ關スル法律ノ草案及ビ報告ヲ審査スル爲ニ設ケタル特別ノ官職ニ移シタリ此官職ハ一八三八年ニ至リテ廢止セラレタリシガシベリヤ諸州諸領ノ新シキ統計表ヲ作ルヘキノ議アルニ至リテ一八三八年再置セラレシベリヤニ關スル總テノ事務ヲ討議スル高等ナル官職トシテ一八六四年マデ繼續シ終ニ其事務ヲ内閣委員會ニ合スルニ至レリ

同様ナル委員會ハ「コーカサス種族」ノ爲メニモ存在シタリキ一八四〇年ヨリ一八八二年マデ一八三〇年及ビ一八六三年ノ「ポーランド」反亂ハ二個ノ委員會ヲ開ク

ニ至レリ一八三一年ニ置カレタル西部委員會及ビポーランド王國ノ高等行政事務ヲ處理スベキ委員會是レナリ前者ハ露國ニ加ヘラレタルポーランド諸州ヲシテ露國ノ諸州ニ行ハル、行政ノ秩序ニ服セシムベキ方法ヲ講スル爲メニ設ケラレタル者ニシテ一八四八年ニ閉會シ一八六二年ニ至リテ再ビ二ケ年間開會セリ後者ハ一八六四年ニ設ケタル者ニシテ一八九一年ニ至リテ其事務ヲ内閣委員會ニ移シタリ

此外緊要ナル大事件ノ生ジタル時ニ特ニ設クル委員會アリ即チ一八九一年全國凶歉ノ時ニ設ケタル委員會ノ如キ是ナリ此委員會ハ當時ノ皇太子即チ今上皇帝ニコラス二世ヲ其議長トシタリキ此委員ノ職務ニ關シテハ公共ノ糧食ヲ論ズル章ニ於テ更ニ言フ所アルベシ

最高等行政ノ機關ヲ概説シタル所ニ於テ其外猶君主ノ爲メニ審議ノ職ヲ盡ス諸官職アルコトヲ記ルシタリ即チ國有財産管理局參謀部海軍參謀部及ビ官吏ノ服務及ビ賞與ヲ掌ル委員會ノ如キ是ナリ然モ此等ノ官職ハ各々行政ノ特別ナル部

分ト關係アルヲ以テ大臣及ビ行政各部ノ長官タル他ノ行政官ノ職掌ヲ記スル時ニ之ヲ詳論スルヲ以テ便ナリトス

(五) 元老院

元老院ハ最高等ノ官府ニシテ樞密院内閣委員會等ノ如キ高等ナル國家的機關ノ外帝國ノ總テノ省局及官吏ハ之ニ服従スベキモノナリ元老院ハ特ニ議長ナル者ヲ有セズ是レ皇帝ノ當然議長タルベキ者ナレバナリ故ニ元老院ノ權ハ唯皇帝ノ權ニ因リテ制限セラル、ノミ元老院ノ命令即チ勅令(ウカシ)ハ君主ノ親命即チ勅令(ウカシ)ト同シク總テノ下級ナル行政各部及ビ其官吏ノ遵奉スル所タリ此ノ如ク元老院ノ重要ナル位置ヲ占ムル所以ハ其歴史ヲ見レバ自ラ明ラカナルベシ

元老院ハ一七一一年二月二十二日ペートル大帝ノ建テタル所ナリ此時帝將サニ土耳其戰爭ニ往カントシタリシカバ重大ナル權力ヲ有スル最高等ノ國家的機關ヲ設クルヲ以テ必要トシタリシナリ

當時行政ノ全部司法權ノ執行ニ關スル最高等ノ監督及ビ最上權立法權ハ總テ元老院ニ集中シタリキ

ペートル大帝ニ繼デ君位ニ上リシ諸帝ニ因リテ元老院ノ權限ハ二ノ官職ノ爲メニ制限セラレタリ此二ノ官職ハ互ニ密着ノ關係ヲ有スル者ナリ即チカテリン一世及ビペートル二世ノ時ノ宮中樞密顧問官及ビアンナ、イナアンノヴァ女帝ノ時ノ内閣是ナリ然モ大改革者譯者曰クペーノ皇女即チエリサヴエタ、ベトロヴァ女帝ノ即位ニ至リテ元老院ハ前代ノ權力ヲ恢復シタリ而シテ單ニ立法事務ヲ除クノ外ハ後ノ諸帝ニ至ルマデ猶其權力ヲ持續シタリシガ一八〇二年諸大臣ノ設ケラル、ニ至リテ其必然ノ結果トシテ元老院ハ著ルシク國家行政ノ各部ニ於ケル勢力ヲ減シタリ而シテ政府ノ執行權ニ關スル元老院ノ權限モ亦同年即チ一八〇二年ニ於テ皇帝アレキサンダー二世ガ内閣委員會ヲ設ケタルガ爲メニ減少セラレタリ然レドモ元老院ハ今日ニ至ルマデ國家行政ニ關シ其重要ナル權利ト義務トヲ失ハズ且ツ帝國ノ高等ナル法廷トシテ存セリペートル大帝ハ元老院ノ中ニ檢事總長ヲ置キ是ヲ以テ皇帝ト元老院トヲ聯結スル鎖トセンコトヲ欲シ之ヲ國家事務ニ於ケル皇帝ノ目代ト呼ビタリカテリン二世ノ世ニ於テハ檢事總長ニ附スルニ大ナル權ヲ以テシ當時此ノ職ニ在リシ公爵ヴァイアゼムスキイハ中央行政ニ關

スル多クノ職務ヲ其手ニ握リタリ諸大臣ノ置カル、ニ及ンテ檢事總長ノ職務ハ司法大臣ノ手ニ移リタリ司法大臣ハ元老院ノ決議ノ合法ナルコト及ビ其處置ノ正確ナルコトニ關シテ責任者ノ位置ニ立ツ者ナリ

現時ノ元老院ハ八部ヨリ成ル其ノ二部ハ控訴部刑事及ヒ民事其ノ一部ハ賞勳部ナリ此等ノ各部員ハ其職務ノ區別ニ關セス元老院ノ總會及ビ諸種ノ會議ニ參列ス法律ニ因レバ元老院ノ議長タルベキモノハ唯皇帝自身アルノミ故ヲ以テ最モ重大ナル問題ヲ處理スル第一部ハ議長ヲ置カズ其他ノ各部ハ君主ノ特命ニ因リテ任セラレタル元老院議員ヲ以テ議長席ニ就カシム各大臣及ビ其補助者ハ或ル重要ナル場合ニ於テ元老院ノ會議ニ列席スルコトヲ得各部ノ事務取扱ヲモ合法的ナラシメンガ爲メニ「チベル、プロキユロル」即チ法律ニ通曉シタル一官員ヲ置キ之ヲ管理セシム賞勳部ニ於テハ此官員ヲ指シテ賞勳部總裁ト曰フ各部ノ「チベル、プロキユロル」ハ其部ノ事務局ヲ總理シ司法大臣ニ對シテ直接ノ責任ヲ有ス

元老院ノ職權ハ甚ダ多クノ種類ヲ有セリ第一部ハ其最モ著ルシキモノニシテ其權限ハ法律ノ頒布及ヒ解釋中央及ビ地方行政各官職ノ監督行政各官職間ノ爭論

ノ裁定高等官ノ懲罰所謂行政裁判事務即チ大臣ヲ始メトシテ各行政官署及ビ各行政官ノ不法ナル處置ニ關スル訴訟ナリ第二部ハ農夫ニ關スル法律ノ意義ヲ解釋シ各州ニ於テ農夫ニ關スル官職ノ處置ニ對スル訴訟ヲ審議ス賞勳部ハ貴族及ビ身分アル市民ノ權利ニ關スル總テノ事件ヲ掌理シ且勳章ヲ作り貴族紋章ノ譜牒ヲ編纂スルコトヲ掌ル

元老院ノ第三部及ビ第四、五部ハ未ダ新タニ司法ノ官職ヲ設ケラレザル地方例ヘバシベリヤ及ビトルキスタンノ如キ地方ニ於ケル民事刑事ノ司法事務ヲ掌理ス故ニ此三部ハ土地測量ニ關スルコト並ニ商法裁判所ヨリ元老院ニ提出シタル商業上ノ訴訟ニ關スル特別ノ事務ヲ掌ル

一八六四年十一月二十日ノ法律ニ因リテ新ニ司法ノ官職ヲ設ケ司法事務ヲ行ヘル地方ヨリ元老院ニ提出スル司法上ノ問題ハ之ヲ其訴訟ニ從ツテ民事刑事ノ二控訴部ニ提出ス各控訴部ハ各獨立シタル數局ニ分タル

元老院ノ總會ニ關シテ特ニ記セザルベカラザル者アリ即チ元老院議員ノ中ニ說ノ一致シ難キコトアル乎或ハ「チベル、プロキユロル」ヨリ異議ノ申立アリテ勅命ニ因

リ若シクハ各部ヨリ提出シタル案件ハ第一部及ビ第二部ノミ會議ヲ開キテ之ヲ審案スルコト是ナリ

控訴部ノミノ若クハ第一部及ヒ控訴部ノミノ總會ハ特ニ其權限ニ屬スル司法上ノ行政ニ關スル性質ヲ有スル問題ノ爲メニ招集セラル諸裁判所ノ管理并ニ司法上ノ行政ニ關スル更ニ重要ナル問題ハ第一部兩控訴部及ビ所謂懲戒ノ高等裁判所ノ會議ニ因リテ決ス國事犯ノ審問ニ關シテハ六名ノ元老院議員ト四名ノ階級の代表者トヨリ成レル特別ノ法廷ヲ組織ス

(六) 教務院

一七二一年ベートル大帝ノ建テタル教務院ノ概旨ハ教會ノ政治ニ於テハ君主ノ獨裁權ハ教務院ヲ媒介トシテ行動スベキモノナリテウ根本法ニ因リテ明カナルベシ

故ニ教會ニ關スル政治ニ於テハ主權者ノ權利ハ教務院ノ權限ニ因リテ定メラル教務院ノ權限ニ就テ正當ナル解釋ヲ爲サントセバ露國ノ教會ハ地方的ノモノニシテ全世界正統教會ノ一部タルコト及ヒ既ニ全世界正統教會ノ一部タル以上ハ

全世界教會會議ノ定教ト規律トニ從ハザルヘカラザルモノタルコトヲ記憶セサルベカラス教務院ハ嘗テ露國教會政治ノ首長タリシ露國教宗ノ職務ニ代リタル者ナルヲ以テ其權限ニ屬スルモノハ唯教會政治ノミ是故ニ教務院ハ第一ニ信仰ノ純一ヲ保護シ總テノ僧侶ヲ指揮シテ正統教理ノ精神ニ從ツテ其職務ヲ執行セシメ異論及ヒ迷信ヲ検査シ宗教上ノ書籍ノ刊行ヲ監督ス第二ニ公共ノ宗教的教養及ヒ正統教理ノ傳播ヲ掌リ且宗教上ノ學教ヲ管理シ一八八五年以來ハ平人ノ立テタル教區小學校ヲモ管理ス第三ニ行政若シクハ司法ノ總テノ教會ノ事務ニ關シテ最高等ノ法廷タリ且婚姻ニ關スル總テノ事務ヲ裁決ス

教務院ハ聖ペートルスボルグノ府監督ヲ議長トシタル常議員ト監督ニシテ一定ノ期限ノ間教務院ニ出席スル臨時議員トニ因リテ構成ス教務院ノ法務總監即チ教務院法律事務長ハ教會政治ニ關シテハ大臣ノ權ヲ有シ教務院ト他ノ國家的官職ノ間ヲ通スベキ媒介タリ

教務院法律事務長ハ一人ノ補助官ト官房即チ事務局トヲ有スルノミナラス又ハ許多ノ他ノ官職ノ頭首タリ即チ(一)宗教的教育ノ官職ヲ管理スル宗教的教育委員

會(二)正統教會ニ屬スル教區小學校ノ爲メニ開ク會議(三)宗教上ノ文書檢閱(四)教會財政部及ビ教務院ノ特別資金ノ管理ノ如キ是レナリ

聖ペートルスボルグ以外ニ教務院ハ二ノ事務局ヲ有ス一ハモスコイニ在リ一ハジオルジヤニ在リ

第二章 諸大臣

第一節 其歴史

大臣ノ歴史ハ第十四世紀ニ始マレリ中央ノ官職トシテ行政ノ總テノ部分ヲ掌理スベキ官ハモスコイ時代ニブリカジイ即チ事務局アリペートル大帝ノ時ニコレジイ即チ衙門アリ是皆今ノ大臣ノ位置ニ代ルベキ者トシテ露國ノ歴史ニ存シタル者ナリ

(一)事務局即チブリカジイ 大公爵ノ時ニ始メテ設ケラレシ者ナリ此時大公爵ハ漸ク露國ノ土地ヲ統一セントシツヽアリシカバ其職務モ亦次第ニ紛糾シ到底總テノ國務ヲ躬ラスルコトハ假令其事首都ノ中ニ限レル時ニテモ猶ホ甚ダ難キ者

アルヲ覺レリ是ニ於テ或ル事件ヲ限リテ君主ノ親裁ヲ要セザル者トシ之ヲ侍從ノ臣ニ命ジテ處置セシムルヲ必要トスルニ至レリ「プリカズ」即チ「指揮」命令ノ意ヲ有スル名ハ之ヨリ生シタル者ニシテ「ザル」朝廷ノ諸種ノ事務局即チ其種々ナル朝人ニ委任セラレタル事務ヲ指シテ之ヲ曰フ此ノ事務局ノ數ハ「ザル」ノ權力ト榮華トガ進ムニ從ツテ増加セリ然モ當時ニ於テハ一定シタル權限ナル者ナカリキ何トナレバ明カニ其所管ノ事務ヲ確定シタル者アラザリシヲ以テナリ此事情ハ諸事務局ノ組織ヲ按スレバ更ニ明瞭ナルベシ其設立セラレタル所以ハ國家ノ利益ヲ進ムル爲メヨリハ寧ロ臨時ノ便宜ノ爲メナリキ最初此諸事務局ハ一般ノ國務並ニ「ザル」ノ私事ヲ掌リキ例ヘバ機密事務局ノ如キハ行政全部ノ行動ヲ監督スル爲メニ設ケラレシモノナルガ之ト共ニ「ザル」ノ遊獵ニ關スル事務ヲ掌レリアレキセイ、ミクハイロヴイツチノ下ニ三十六ノ事務局アリシガ其十三即チ三分一以上ハ「ザル」ノ朝廷ニ關スル事務ヲ監督シ其他ノ最多數即チ九事務局ハ軍務ヲ掌リ五事務局ハ財政ノ事ヲ掌レリ蓋シ當時國家ノ重要ナル目的ハ敵國防禦ト歳入ノ増加トニ在リタレバナリ而シテ公共ノ教育ヲ監視シ若シクハ人民ノ經濟的状態ニ

注意スベキ事務局ハ一モ存セザリキ

(二) 衙門即チ「コルレジョイ」ペートル大帝ハ其政務ヲ改善センガ爲メニ模範ヲ泰西諸國ニ求メタリ而シテ諸衙門ヲ組織シテ以テ國政ノ最上ナル官職トナシタリ始メニ十衙門ヲ設ケテ總テノ政務ヲ統轄セシメタリシガ終ニ増シテ十二トスルニ至レリ此諸衙門ノ頭首タル者ハ元老院ナリ元老院ハ事實ニ於テ一般ヲ監督スル機關タル能ハザリキ何トナレバ假令高級ノ官職タリトハ曰ヘ元老院モ亦行政ノ一部分タルニ過キザリシヲ以テナリ

初メニハ此事態ハ不便ヲ生セザリキ何トナレバペートル大帝ハ自ラ其過絶ナル精力ヲ以テ元老院議長ノ職ヲ行ヒ且躬ヲ其總テノ任務ヲ指揮シタレバナリ然モ續テ戰爭等ノ大事件アリテ帝ノ心ヲ專ラ之ニ注カシメ元老院ノ事務ヲ顧ミル能ハザラシメシニ至ツテ元老院ハ其必要ナル嚮導者ヲ失ヒ直チニ其組織ノ闕典ヲ暴露スルニ至レリ是ニ於テ帝ハ國家ノ重事ヲ元老院ニ委セズシテ其特ニ信任スル政治家ニ委スルニ至レリ

是ニ於テ一七二二年法律事務長即チ檢事總長ト其從官タル法律事務官ト元老

院ノ中ニ置キ總テ國家ノ大事ニ關シテハペートル大帝ハ一ニ檢事總長ニ依頼シ此官職ヲノミ媒介トシテ元老院若クハ諸衙門ト交通シタリ衙門組織ノ闕典ハ一部ハ當時ニ於テ地方行政ノ組織ナカリシニ職因ス地方行政ニ關シテハペートル大帝既ニ改革ヲ期シタリシカドモ未ダ其意ヲ達スルニ至ラザリキ故ニ中央ノ官職タル諸衙門ハ地方政治ノ細目ヲモ自ラ處理セザルベカラズ然モ是レ到底其力ノ十分ニ達シ得ベキ所ニ非ス且諸衙門ハ理論ヨリ日ヘハ固ヨリ總テノ政務ノ合法的行動ヲ監視スベキ者ナリト雖其最モ有力ナル部分ハ精カチ軍務ニ用ヒ盡セルヲ以テ平和事業ニ關スル政務ヲ取扱フベキ人員ハ頗ル缺乏シタリキミニヒガ女帝カテリン二世ニ與ヘタル書簡ニハ大ナル露帝國ハ長キ間諸衙門ノ議長若クハ參事官ニ因リテ始メラレス秘書官若クハ秘書官長ニ因リテ始メラレシコトヲ公言セリ

ペートル大帝ヨリアレキサランダ一ノ時ニ至ルマデノ諸帝ハ一貫シタル精神ヲ以テ連續シタル改革ニ從事セシコトナカリシガ次テ起レル總テノ改革ハ諸衙門ノ事務ヲ移シテ一人ヲ中心トシ之ニ權力ヲ集ムル官職ニ轉セントスル傾向アリ

リ殊ニカテリン二世ハ檢事總長ノ權限ヲ擴張シ内政ノ總テノ部分ヲ其手中ニ委ネタリ而シテ各部ニ分タレタル元老院ハ全ク實行上ノ事務ニ關與セザルニ至リタリ

加之カテリン二世ハ其繼位ノ始メヨリ地方政務ニ關スル官職ヲ作ルノ企望ヲ有シタリ女帝ノ言ニ曰ク部分ニシテ若シ亂ルレバ全體ハ善キコト能ハズト是故ニ一七七五年ニ於テ諸衙門ノ事務陸軍及ビ外務海軍ノ衙門ヲ除クヲバラチイ等ノ名ヲ有スル地方ノ官ニ移シタリ而シテ同女帝ノ治世ノ末ニハ中央ノ衙門ハ實際ニ於テ存在セズ全體ノ行政ハ各個ノ人物ニ委任セラレタリキ

カテリン二世ニ嗣キタルバウル一世帝ハ再ビ衙門政治ヲ恢復シタリ從前ノ衙門ノ或ルモノハ再ビ設立セラレタリ而シテ各衙門ノ長官トシテ各一人ノ總監ナル者ヲ置キタリ此總監ハ諸衙門ノ議長若クハ參事官ノ上ニ權力ヲ有スル者ニシテ君主ニ奏上シ若クハ君主ノ命令ヲ衙門ニ通スルモノハ獨リ此官職アルノミ而シテ他方ニ於テハ檢事總長ノ權力ハ更ニ増加セリ但シ財政ニ關スル事務ハ檢事總長ノ手ヲ離レ國家財務官伯爵ヴァシリエフノ手ニ移リタリ蓋シヴァシリエフハ

最初ノ露國大藏大臣ト曰フベキモノナリ

爾後幾何ナラズシテ水路ニ關スル特別ノ官職ヲ置キ伯爵シヴェルス之ヲ掌リシガ終ニ一七九七年ニ至リテ最初ノ大臣即チ御料大臣ヲ設ケ尋テ一八〇〇年ニ至リテ商務大臣ヲ設ケタリ

(三)諸大臣。諸大臣ノ組織ハ皇帝アレキサンダー一世ノ世ニ於テ完結セリ而シテ一八〇二年ニ於テ置カレシ此官職ハ猶新舊行政組織ノ調和タルニ過ギザルガ如キ性質ヲ帶ビタリ事實ニ於テ當時ノ大臣ハ具ノ大臣ニ非ズ唯諸衙門ノ事務ヲ分掌シタル大臣タルニ過ギス當時大臣ハ總テノ重要ナル國務ニ關シテ君主ニ直奏スルノ權利ヲ有シタリシカドモ是レ唯他ノ大臣ノ同意シタル時ニ限りタリキ而シテ元老院ハ諸大臣ヲ監督スルノ權ヲ附與セラレ大臣ノ報告ヲ審査シ且之ヲ君主ニ報スルノ權ヲ有シタリ

大臣ヲ置キタル重モナル目的ハ一八〇二年二月十日ノ布告ニ明言セラレタリ曰ク「我等ハ國家ノ事務ヲ其固有ノ性質ニ從ツテ數部ニ分ツノ必要ヲ認メタリ」ト大臣ヲ設ケタル他ノ目的ハアレキサンダー一世ガラハルプニ與ヘタル書簡ニ明カ

ナリ曰ク「我等ガ久シク講究シタル處置ハ今ヤ實行セラレタリ……大臣ハ設ケラレタリ而シテ一ヶ月以上既ニ其職務ヲ行ヘリ是ニ因リテ事務ハ大ニ明晰ト規率トナ増セリ而シテ若シ事務ニ過誤アレバ朕ハ直チニ其ノ責任ヲ負フベキ人ヲ知ル」ト

斯ノ如クニシテ一方ニ於テハ適當ニ國務ヲ分配シ他方ニ於テハ行政機關ニ責任ヲ歸セシメンコトヲ勉メタリ

一八〇三年ニ於テ内務大臣公爵コトコチベイ卿ハ君主ニ奏上シテ諸衙門ヲ存スルコトノ不便ヲ論シ其處務ノ遲緩ナルコト其分業ノ不完全ナルコト其形式ノ煩雜ナルコト其責任者ノ缺乏セルコトヲ奏シタリ此奏上ニ因リテ陸軍、海軍、外務ノ諸衙門ヲ除クノ外總テノ衙門ヲ廢止シ之ニ代フルニ統一の性質ヲ有スル部局官職ヲ以テスルニ至レリ

一八一一年ニ至リテ伯爵スペレンスキイノ計畫ニ成レル諸大臣ノ組織アリ以テ今日ニ至レリ

第二節 現在ノ組織

大臣ハ之ニ因リテ主權者ガ其行政上ノ命令ヲ行フベキ官職ナリ故ニ大臣ハ其行動ニ於テハ直接ニ君主ニ從屬ス君主ハ大臣ニ因リテ全體ノ國務ヲ行フ此意義ヨリ曰ヘバ大臣ハ最高等政治ノ一機關ニシテ之ト同時ニ大臣ハ其區域ノ甚ダ廣キ獨立ノ權力ヲ有シ元老院ト共ニ總テノ從屬的行政事務ノ頭首タリ大臣ハ從屬的官職ヲシテ法律命令ヲ執行セシメ從屬的官職ノ行動ヲ監督シ法律ニ從ツテ從屬的官職ノ行政事務ヨリ生ズル異議疑問ヲ解釋ス

特ニ現行法ノ不完全ナル場合ニ於テハ大臣ハ之ヲ皇帝ニ上奏シ勅裁ヲ受ク若シ猶豫スベカラサル場合ニ於テハ其合法的ノ權限ヲ超ヘテ之ヲ處理スルコトヲ得唯此場合ニ於テハ尋デ其處置ノ緊急ナル所以ヲ證明セザルベカラス

近時ノ立法ハ次第ニ大臣ヲシテ現行法ノ完全ナル執行ニ關シテ命令ヲ發スルコトヲ得セシムルノミナラス亦其敷衍ニ關シテモ命令ヲ發スルコトヲ得セシメタリ何トナレハ法則ハ唯概則ヲ規定スル者ナルガ故ニ大臣ノ命令書ニ因リテ其細則ヲ定ムルノ必要アレバナリ

各大臣ハ其職ニ就クト共ニ其任務ヲ查察シ其委任セラレタル部門ニ關シ改良案

ヲ皇帝ニ奏上スベキ義務アリ故ニ大臣ハ時々其改良案ノ如何ナル程度マテ行ハレタルカヲ奏上セザルベカラス之ニ加フルニ各大臣ハ各其年報ヲ作ラザルベカラス而シテ此年報ハ先ツ特別ノ委員會ニ因リテ審査セラレ更ニ大臣會議ニ因リテ審査セラル財政上ノ報告ハ検査官長ト呼バレタル官職ニ因リテ査閲セラレ且其誤謬ナキヲ證明セラル

報告ノ査閲ハ大臣ヲシテ責任アラシムル者ナリ何トナレバ之ニ因リテ其處置ノ不法ナルヲ發見セラルベケレバナリ

加之大臣ノ責任ニ關スル問題ハ私人ノ訴願若クハ地方官等ヨリ提出スル告訴ニ於テモ亦生ズ而シテ大臣ノ處置ヲ以テ不法若クハ不規律ナリトスル告示ハ皇帝ノ允可ナクシテハ發セラルコトナシ大臣ハ第一ニ其權限ヲ超越セシコト第二ニハ其職ヲ行ハザルコトニ於テ責任ヲ負フ

然レトモ大臣ニシテ若シ其爲シタル非常手段ノ必要ヲ證明シ得ルトキハ其權限ノ違犯ハ處罰セラルベキモノニ非ズ

大臣ノ提議ニ因リテ成リシ法律ニシテ有害ナル者アリト雖トモ適當ナル立法ノ

順序ヲ經テ受理確定セラレタルモノナル以上ハ其大臣ハ既ニ責任ヲ離レタル者ナルガ故ニ之ニ對シテ責任ヲ負ハスベキ限ニアラズ且大臣ハ元老院ニ因リテ受理セラレ皇帝ニ因リテ裁可セラレタル政務執行ノ事ニ關シテハ故意ニ元老院若シクハ君主ヲ欺キタルニ非ザルヨリ以上ハ責任ヲ負ハズ大臣ハ其附與セラレタル權利ニ因リテ國家ノ總テノ官職即チ立法司法行政ノ總テノ官職ニ關聯ス

第一ニ大臣ハ新法ヲ發スルコトヲ得ズ唯新法ヲ立ツルコト及ヒ現行法ヲ廢止スルコトノ必要ヲ提議スルコトヲ得次ニ大臣ハ樞密院ノ議員トシテ法律案ノ審議ニ與ルコトヲ得最後ニ大臣ハ他ノ尊貴ナル高官ト同ジク君主ノ口宣ヲ奉スルコトヲ得是レ大臣ノ立法權ニ對スル關係ナリ

原理ヨリ曰ヘバ大臣ハ何人ヲモ審問シ若クハ刑罰ヲ課スル權ヲ有セズ然モ細カニ之ヲ論スレバ此通則ハ或ル例外ヲ有ス故ニ關稅歲入及ビ其他ノ規則ニ關スル許多ノ違犯ハ行政權ニ因リテ罰セラル且各官職ハ又其被用者ニ對シテ切要ナル懲罰權ヲ有ス大臣ノ權限中最モ大ナル者ハ勿論法律執行ノ機關トシテ大臣ノ有

スル權利ナリ其然ル所以ハ伯爵スベランスキイノ畫策シタル國家高等官職ノ組織ハ其目的總テノ權力ヲ區分シテ立法司法行政トナスニ在リ而シテ行政權ハ即チ大臣ニ付與セラレタルモノナレバナリ

之ト同時ニ更ニ嚴ニ言語ノ意義ヲ明カニシテ之ヲ曰ヘバ行政ノ區域ニシテ内閣委員會及ビ元老院ニ屬スル或ル權利アリ此等ノ官職ハ一個ノ大臣ノ權限ヲ超過スルニ非ザレハ決スル能ハザル問題ヲ審案ス此ノ如キ問題ハ時トシテ法律ノ頒布ニ因テ決セラル、コトアリ例ヘバ各大臣共ニ一樣ナル命令ノ發布ヲ必要ナリトスルガ如シ此ノ如キ處置ハ固ヨリ一大臣ノ權限ヲ超越スル者ニシテ元老院ヲ經過シテ始メテ發布セラルベキ者ナリ但シ法律ノ不完全ニシテ別ニ勅令ノ發布ヲ必要トスル場合ハ之ヲ内閣委員會ニ附シ然ル後皇帝ニ奏上ス

諸大臣ハ行政ノ全部ヲ分割スルト共ニ大臣トシテ一體ノ官職タリ但各大臣ハ他ノ大臣ノ權限ヲ侵スコトヲ得ス諸大臣ノ統一ハ君權ニ因リテ保タル而シテ此目的ヲ達スル方法トシテ大臣會議ナル者アルコトヲ忘ルベカラス各大臣ハ各行政ノ一部ヲ委任セラレタル者ニシテ其命令ヲ實行セシメンカ爲メニ其從屬ノ官職

ニ對シテ錯誤ナク且異論ナキ服從ヲ要求スルコトヲ得然レドモ其從順ハ只管ニ命ノ儘ナレト云フニハ非ズ法律ノ許シタル限ニ於テ從順ナルノ謂ナリ大臣ヨリ受ケシ訓令ニシテ若シ其性質或ル法律ヲ廢革セザルベカラザル者アルコトヲ發見シタル下官ハ之ヲ大臣ニ通告スルノ義務アリ而シテ大臣ニシテ若シ再ヒ其命令ヲ反覆スルトキハ下官ハ更ニ其問題ヲ元老院ニ提出セザルベカラス大臣ガ現行法ト一致シ難キ皇帝ノ口宣ヲ通達シタル時ト雖亦同シ手續ヲ爲サ、ルベカラス且ツ一ノ大臣ニ從屬スル官吏ニシテ他ノ大臣ノ權限ニ屬スベキ訓令ヲ其從屬セル大臣ヨリ受ケタル時ハ之ヲ執行スベキ義務ナシ此場合ニ於テハ之ヲ其權利ヲ有スル大臣ニ提出シテ其裁決ヲ待ツヘキナリ

各大臣ハ各其次官アリ次官ハ或ル例外ノ外次官トシテ一モ執行權ヲ有セス唯各大臣ハ其次官ニ其任務ニ屬スル或ル問題ノ裁決若クハ或ル部門ノ處理ヲ委任スルコトヲ得大臣疾病ナルカ若クハ不在ナル時ハ概シテ次官其職務ヲ行フ

大臣ハ裁決ノ權ヲ附與セラル然モ裁決ヲ爲ス前ニ先ツ其事件ヲ十分ニ報告シ且十分ニ審議セザルベカラス是故ニ各事件ノ報告ハ各局及ビ官房ノ稟議ニ付ス局

及ヒ官房ハ各大臣ノ任務ニ從ヒテ概シテ各省ニ數局アリ而シテ各局亦各課ニ分タル

伯爵スベランスキイハ一八〇二年ノ大臣組織ヲ批評シタル中ニ各衙門ヲ廢止シ各局ヲ以テ之ニ代ヘシヨリ大臣ハ熱慮深思ヲ要スル審議ノ官タル團體タルヲ失ヘリト論ジタリシガ此闕典ハ各省會議ニ因ツテ補ハル

各省會議ハ局及ビ官房ノ長官及ビ勅命ニ因テ任セラレタル人ニ因リテ構成ス其省ニ屬セサル者ト雖諸種ノ専門者若シクハ熟練者ハ特ニ此會議ニ列セシムルコトヲ得大臣ハ此會議ノ議長タリ大臣不在ナレバ次官代リテ議長タリ此會議ハ省所管ノ重要ナル事務新法ノ草案歲計豫算表官吏ニ對スル訴願違犯者ノ告訴及ヒ大臣ガ此會議ニ付スルヲ以テ必要ナリト思料セシ總テノ問題ヲ審案ス

大臣ハ必シモ省會議ノ決議ヲ遵守スルノ義務ナキノミナラス省會議ノ說ニ反對スル裁決ヲ爲スコトヲ得然レドモ此ノ如キ場合ニ於テハ之ヲ樞密院若クハ内閣委員會等ニ提出スル時省會議ノ趣意ヲ簡單ニ付記セザルベカラス

第三節 大臣各論

既ニ記シタルが如ク一八〇二年ニ於テ大臣ノ設ケラレシ時ハ各部門ノ職務ヲ分掌シ各省ヲシテ各其主任ノ類似シタル各衙門ノ事務ヲ執ラシメタリ此ノ如クニシテ八大臣ヲ生ジタリ即チ陸軍海軍外務司法内務大藏商務及ヒ文部ノ大臣是ナリ其後一八一〇年ニ至リテ伯爵スベランスキイノ畫策ニ從ツテ大臣ノ再組織アリ伯爵ノ計畫ニ依レバ國務ハ法律ノ區分ニ從ツテ分類セザルベカラス法律ハ之ヲ分チテ私法及ヒ國法トシ國法ヲ分チテ内ニ對スルモノト外ニ對スルモノトノ二トナスガ故ニ國務モ亦之ニ因リテ分タザルベカラス即チ外ニ對スル國法ト一致スヘキ國務ハ外交國防アリ内ニ對スル國法ト一致スベキモノハ即チ公共ノ經濟及國內ノ安寧ニ關スル國務アルが如シ此計畫ニ從ヒテ國務ヲ分チテ五部ト爲ス(一)外務(二)國防(三)國內ノ安寧(四)法廷(五)公共ノ經濟等ナリ其外猶宗教上ノ事務アリ此目錄ノ中ニ入り難キ者ナリ而シテ外務ノ爲メニ外務大臣ヲ置キ國防ノ爲メニ陸軍大臣海軍大臣ヲ置キ國內ノ安寧ノ爲メニ警保大臣ヲ置キ法廷ノ爲メニ司法大臣ヲ置キタリ公共ノ經濟ニ關スル事務ハ最モ廣濶ナルモノニシテ之カ爲メニ文部大臣大藏大臣會計検査大臣國庫金大臣交通監視大臣郵便大臣内務大臣等

ヲ設ケタリ而シテ内務大臣ハ又農商商館貿易ノ事ヲ管シ終ニ外國ノ宗教ニ關スル事務モ亦此大臣ノ管理ニ屬スルニ至レリ然レドモ一八一一年ノ再組織ハ長ク續カザリキ一八二六年ニ至リテ行政ノ全體ノ事務ハ(一)司法ノ事務(二)國財ノ出入(三)公共ノ安寧及ヒ幸福ニ分ツ而シテ此各類ハ各數名ノ大臣ニ委任セラレタリ此區別ハ多少ノ變更ヲ經タレドモ猶今日ニ存續スル者ナリ

現今露國ニテハ大臣及ビ之ト同等ナル官職ノ數十四アリ即チ

- (一) 宮内及御料大臣
- (二) 外務大臣
- (三) 陸軍大臣
- (四) 海軍大臣
- (五) 内務大臣
- (六) 司法大臣
- (七) 文部大臣

(八) 大藏大臣

(九) 農務及ヒ國有地大臣

(一〇) 遞信大臣

次ノ官職ハ大臣ノ名ヲ帶ビザレドモ猶大臣ト同一ノ性質ヲ有スル者ナリ

(一一) 正統教會ノ信仰ヲ保護スル官職其頭首ハ教務院ノ法律事務長ナリ

(一二) メリイ皇后ノ設立セル制度ヲ處理スル爲メ皇帝陛下ニ屬スル特別ノ官職

(一三) 検査總長

(一四) 官有牧馬長官

前ニ説キシガ如ク此外猶現世紀ノ間ニ許多ノ大臣存シタリ即チ商務大臣國庫大臣ハ其後大藏大臣ニ合シタリ警務大臣及ビ外國ノ宗教ニ關スル教務ノ長官ハ今内務大臣ノ權限ノ一部トナレリ然レドモ一八二六年ニ至リテ高等警察ノ部門ヲノミ分チテ皇帝陛下ノ特別ナル官房第三部ニ移シタリシガ一八八〇年ニ於テ第三部ヲ廢シ其事務ヲ内務大臣ニ移シタリ露國ニテハ始メヨリ郵便事務ノ官職ハ特ニ一局ヲ爲シタリシガ一八六五年ニ至リテ郵便電信大臣ヲ置キタリ(電信事務

ハ是レヨリ先キ遞信大臣ニ屬シタリ)而モ一八六八年ニ於テ此大臣ノ職務ハ内務大臣ノ職務ニ合併セラレタリ一八八〇年ニ至リテ再ビ内務大臣所管ノ事務ヲ分チテ郵便電信及外國宗教事務大臣ヲ置キシガ此官職ハ一八八一年ニ至リテ再ビ内務大臣ノ職務ニ合セラレタリ御料ノ長官ハ一八二六年マデ別ニ置カレタル官職ナリシナ同年宮内大臣ノ職務ニ合シタリ

第四編 帝室ニ屬スル官職

宮内大臣ノ職務ハ之ヲ他ノ大臣ノ職務ト區別シテ論ゼザルベカラス是レ其職務タル皇帝ノ直接ニ宸斷シ給フ所ナレバナリ宮内省ノ外ニ二個ノ特ニ皇帝陛下ニ屬スル官房アリ即チ皇帝陛下ノ特別ナル官房及ビ直チニ皇帝陛下ニ奏上セラレタル請願ヲ審案スル官房是ナリ

故ニ我等ハ今各大臣ノ組織ト權限トヲ論セントスルニ付キテ先ツ宮内大臣ノ事ヲ記スベシ

(一) 宮内省

宮内省ハ一八二六年ニ置カレシ所ニシテ從來數部門ニ分レタル宮廷ノ事務ヲ合シテ一官職ノ下ニ置キタル者ナリ

宮内省ハ皇帝陛下ノ親裁ノ下ニ在リ故ニ皇帝陛下ニ對シテノミ其事務ノ説明ヲ爲スベキノミ是ヲ以テ検査官長ハ宮内省ト關係ヲ有セス且宮内省ニ對スル訴願ハ元老院ニ提出セラレズシテ諸局ヲ審案スル官房ヲ通ジテ直チニ皇帝陛下ニ奏上ス

宮内省ハ(一)大臣(二)次官(三)省會議(四)諸局(五)特置局(六)勅命及令示ヲ掌ル官(七)御料局ニ因リテ構成ス

所謂宮内省ノ諸局ノ中ニハ六個ノ官職アリ其第一ニ位スル者ハ皇帝陛下ノ内局ニシテ其掌ル所ハ省中ノ叙任及ビ經濟上ニ關スルコトナリアルタイ及ヒネルチンスキノ冶金工場磁器及ビ玻璃ノ御用製造所エカエリンボルグノ花崗石工場及ビボーランド王國ノロヅイチ御領ニ關スル事等ハ皆此局ノ管理スル所ナリ且此局ハ帝室寶庫冠玉帝室御系譜ヲ掌リ時トシテハ皇族ノ遺狀ヲ藏ス

アルタイ及ヒネルチンスキノ冶金工場ハ内局ノ掌理ノ下ニ在リテ露國ノ冶金業ニ於テ最モ重要ナル者ナリサレバ此處ニ其起源及ヒ產出ニ關シテ數言ヲ費ス所アルモ敢テ無用ノ業ナリト曰フベカラス

アルタイニ於ケル冶金工場ノ設ケラレタル部分ハトムスク州ノ六郡中四郡ニ跨ル即チカインスクバルナウル、ゴーズツク及ヒトムスク郡ノ南部ニシテ凡ソ五十萬ノ人口ヲ有スル地方ナリアルタイ地方ニハ古代ノチード種族ガ探掘シタル鑛山ノ痕跡アリテ鑛物ニ富メルコトヲ證シ且アルタイナル名稱ハ即チ金山ノ義ヲ有セリ露人が始メテ此鑛山ノ富ヲ探掘センコトヲ試ミタルハ十七世紀ノ終ニシテ十八世紀ノ始メニ至リテアルタイノ鑛山ハトーラノ鐵匠ナルニキタ、デミトツフノ子アキンフイ、デミトツフニ因リテ始メテ眞ニ開坑セラレタリ而シテ一七四七年五月一日ノ勅令ニ因リテアルタイニ於テデミトツフノ設置シタル冶金工場及ヒ鑛坑ハ皇帝陛下ノ内局ノ管理ニ屬シタリシヨリ鑛業ハ日ヲ追フテ進歩シテ八世紀ノ末ニ至リテハ許多ノ新坑ヲ開キ九個ノ新工場ヲ設立シ現世紀ノ始メニ於テ更ニ二個ノ工場ヲ建テタリアルタイノ諸工場ハ大抵煉銀ニ從事ス唯トムスク及ヒゴーリエフニ冶金工場アリスウセンニ銅并ニ銀ヲ煉製スル工場アルヲ例外

トスルノミ

アルタイ地方ノ重要ナル鑛物ハ銀ナリ一八九一年ニ於テ同地方ニテ製煉セラレタル銀ハ六百ブード一ブードハ英ノ三ニシテ全露國ニ於テ製煉セラレタル高ノ百分七十二當レリ千八百五十年若クハ六十年ノ際ニ於テハ其産出之レヨリモ猶大ニシテ年々一千ブードニ上リシガ強制ヲ以テ工場ニ使役セル地方ノ人民ヲ解放シタルト地方ノ供給漸ク衰耗シタルトニ因リ産出漸ク減シ終ニ一八九三年ニ至リテ數個ノ冶銀工場ヲ閉ツルノ命令出ツルニ至レリ鉛ノ産出モ亦銀ノ産出ト共ニ減シタリ曩キニハアルタイニテ産出スル所ノ鉛十萬ブードニ及ヒシガ一八九一年ニ至リテハ一萬千ブードニ減シタリ然レドモ猶露西亞全國ニ産スル鉛ノ殆ント三分一ニ該當ス

アルタイニ産スル他ノ鑛物即チ黄金、銅、鐵及ヒ銅鐵ハ之ヲ銀ニ比スレバ重要ナル者ニ非ズ

此地方ニ於ケル石炭坑モ亦總テノ點ニ於テ甚ダ豊富ナル状態ヲ表ハセリ人若シ此地方ニテグーズネスキイ溝ト呼ハレタル約四萬四千方、ヴェルストノ非常ナル

堆積ヲ見バ必ラズ其然ルヲ知ラン石炭坑ノ鐵ヲ産出スル鑛山ニ近キハ製鐵業ノ將來甚ダ擴張セラルベキ見込アルヲ見ルニ足ルベシ

寶石類ノ産出ニ關シテハアルタイ地方ハ雲斑石及ヒ各色ノ玉トヲ以テ有名トナレリ此寶石類ハコリバインノ精製所ニ於テ彫琢シ聖ペートルスボルグノ宮廷ニ送付ス

現時アルタイニハ八個ノ寶石坑アリ共ニ開鑿ニ從事シ其産スル處ハ雲斑石、淡青玉及ヒ碧玉、花崗石、白色及ヒ其他ノ大理石、骨角鑿石、黃玉、紅色薔薇色青色ノ石英、瑪瑙、玉髓ナリ

ザピカル地方ニ於ケルネルケンスキノ工場ハ銀ト鉛トヲ以テ其重要ナル産物トナスアムールノ河口ナルシルカ及ヒアルグインノ河岸ニ沿フテ銀鑛ノ存在スト云フ風説ガモスコニ達セシ時ペートル大帝ハ希臘ノ鑛山師ヲシベリヤニ遣ハセシガ一六九八年ニ至リテ此鑛山師等ハ同地ニ於テ銀鉛ノ鑛層ヲ發見シ直チニ探掘ヲ開始シ一七〇四年ニ於テネルチンスキ冶銀工場ヲ建テタリ元來ザピカル附近ノ地方ハ荒野ニシテ獨リ遊牧種族ノ住スル所タルヲ以テ露人タル勞働者ヲ

派遣スルノ必要アリキ且當時ハ冶金業ノ發達極メテ遅々タリキ然レトモ一七六三年ヨリ八六年ニ至ル時期ニ於テ新坑ノ發見ト共ニ煉銀ノ數年ニ六百二十九ブード半ニ達シタリシガ爾後ハアルタイ地方ト同一ノ事情ニ因リテ次第ニ減退シ今日ニテハ唯十個ノ坑穴ノミ探掘ニ從事シクロトモルスグノ煉銀工場ニ於テ年々五十ブードノ銀ヲ出スノミ然レドモネルチンスキ地方ニ於ケル金ノ産出ハ寧ロ之ヨリモ著ルシキ者ニシテ年々ノ産額百二十ブードニ及ベリ其他ノ礦物モ亦アルタイ地方ノ如ク存在セリト雖モ其産出ハ之ニ比スレバ稀少ナリ

内局ノ外宮内省ハ通則トシテ左ノ諸局ヲ有ス則チ大臣官房會計局現金支拂局醫業監督局圖書局是ナリ

- (一) 式部局 宮廷ヲ整理シ賓客ヲ待遇スルコトヲ司ル
- (二) 禮典ノ執行官
- (三) 皇后宮局
- (四) 宮廷ノ僧侶 モスコニ於ケル各宮ノ寺院及ヒ報惠節寺院ノ大僧正ノ指

揮ノ下ニ勤務スルモノトス

- (五) 宮廷ノ齊唱者 譯者曰ク宮廷ニ於テ宗教上ノ儀式アル時詩篇若シクハ讚神ノ歌ヲ歌フモノナリ
 - (六) 皇帝陛下ノ御文庫
 - (七) 皇帝陛下ノ御庫及ヒ技藝館
 - (八) 御用技藝院 一七五七年ニ建テシ所ニシテ二局ヨリ成ル一ハ繪畫及ヒ彫刻ヲ主トシ一ハ建築術ヲ主トス且本院ハ美術家ヲ獎勵センガ爲メニ定期ノ繪畫展覽會ヲ催シ且常置ノ技藝館ヲ有ス
 - (九) 御用古物委員 露西亞全國ニ於ケル古物ノ詮索ヲ監督ス
 - (一〇) 聖ペートルスボルグ及ヒモスコノ御用演劇場ノ主事
 - (一一) 御用樂隊
 - (一二) 御廐
 - (一三) 御獵
 - (一四) 電氣局 宮中ノ電燈等ヲ監督ス
- 及ビ

(一五) 近衛精兵隊 功勞アル兵卒ヲ選抜シテ之ヲ編フガ爲メニ組織シタル者ナリ此精兵ハ或ル紀念碑若シクハ宮廷等ニ於テ番兵ノ任務ヲ行フ

宮内省ノ特別ナル官職ノ中ニ數フヘキモノ、中ニハ又侍從長官房及ヒ侍從長ノ指揮ヲ奉スル宮廷警察官及ビ宮廷並ニ大公殿下、大公主殿下ノ御邸ノ管理者ヲモ含ムベキモノナリ

賞勳局ハ賞勳局總裁即チ宮内大臣ノ指揮ノ下ニ在ル者ニシテ式部長官及ビ其官房ヲ其中ニ有ス代表者ノ「ツーマ」ト稱スル各勳章受領者ノ代表者ノ臨時集會モ亦賞勳局ノ中ニ於テ之ヲ開ク此會議ハ各勳章ヲ有スル者ノ代表者ヨリ成立シタル者ニシテ先叙ノ者ヲ議長トシ法律ニ定メラレタル如ク特別ノ勳功アル者ニ或ル勳章ヲ付與スルコトニ關スル問題ヲ議スル者ナリ此代表者ノ會議ノ決議ハ賞勳局總裁之ヲ奏上シテ皇帝ノ批准ヲ仰ク

露國ニハ八個ノ勳章アリ

(二) 聖使徒[○]ア[○]ンド[○]リ[○]ウ[○]勳章 一六九八年ペートル大帝ノ設ケタル者ニシテ始メテ「[○]パ[○]プ[○]テ[○]ズ[○]マ」[○]ト稱スベシニ因リテ露國ヲ開明ニ導キタル聖使徒[○]ア[○]ンド[○]リ[○]ウ[○]ノ策

譽ノ爲メニ立テシ者ナリ

(三) 聖[○]カ[○]テ[○]リ[○]ン[○]勳章 即チ國難解除ノ勳章(女性ノ爲メ) 此勳章ハ一七一一年ブル[○]ト[○]ノ戰役間露軍ガ十倍以上ノ強敵ニ因リテ圍マレシ時女帝カテリ[○]ン[○]一世躬ヲ軍ニ臨ンテ「ザル」ト軍隊トヲ鼓舞シ以テ其危難ヲ免レシメタルヲ紀念スル爲ニ設ケタル者ニシテ一七一四年十一月ニ置ク所ナリ此勳章受用者ニ二級アリテ各級各々大十字架ノ十二命婦(皇族及ビ其他ノ貴顯ノ外)小十字ノ九十四命婦ヲ有ス此勳章受用者ノ首領ハ皇后陛下ニシテ皇帝陛下崩御ノ後モ亦同シ此勳章受用者ノ「ナ[○]ミ[○]エ[○]ス[○]ト[○]ニ[○]ト[○]サ」即チ女執事ハ皇太子妃ナリ若シ皇太后陛下其勳章受用者ノ首領タル時ハ同女執事ノ任ハ即チ皇后陛下ノ執リ玉フ所ナリ

(三) 聖[○]アレ[○]キ[○]サン[○]ダ[○]ー[○]ネ[○]フ[○]ス[○]キ[○]勳章 一七二四年聖アレキサンダー、ネフスキイノ遺骸ガウラジミル[○]府ヨリ聖ペートルスボルグニ移サレシ時ペートル大帝ハ此瑞典ノ戰勝者ノ名ノ勳章ヲ設ケンコトヲ欲シタリシガ其目的ヲ遂ゲザル前ニ歿シタリ是ニ於テ皇后カテリ[○]ン[○]一世一七二五年ニ於テ其夫帝ヲ紀念センガ爲メニ此勳章ヲ設ケ先ツ一七二五年五月二十一日ニ於テ之ヲシユレスウイグ、ホレス

タインノチャールレス、フレデリック公が皇女アンナ、ペトロヴナト結婚スル時彼レニ與ヘタリキ

(四) 白鷲勳章 此ノ勳章ハ最モ古キポーランドノ勳章ノ一ニシテ其創設ノ時ヲ尋ヌレバ遙カニ一三二五年ウラヂスラツフ在位ノ時ニ在リテアレキサンダー一世ポーランド國ヲ露國ニ加フルニ及ンテ始メテ此勳章ヲポーランド人ニ與ヘタリシガ一八三一年十一月ニ至リテ皇帝ニコラス一世之ヲ露國勳章ノ中ニ加ヘタリシナリ

(五) 殉教者及ビ戰勝者タル聖ジョルジノ軍事勳章 一七六八年十一月二十六日女帝カテリン二世ノ設ケタル者ニシテ專ラ戰功アル者ニ賜フ所ナリ此勳章ニ四等アリ此外此勳章ヲ個人ニ與フル特種ナル區別ノ徽章モ亦四等アリ

將官參謀官副官ハ此勳章ニ添ヘテ勇者ニ與フテフ記號ヲ有スル黄金ノ刀劔ヲ賜フ其將官ニ賜フモノハ黄金ヲ以テ粧飾セラル

(六) 使徒ト同等ナル聖ウラジミル勳章 國家ニ特別ノ勳勞アル者ニ與フル所ニシテ女帝カテリン二世ノ二十年間ノ在位ヲ紀念センガ爲メニ聖ニシテ使徒ト同

等ナル太公ウラジミルノ名ニ因リテ設ケタル所ナリ太公ウラジミルハ聖ナル、バプテスマヲ以テ露國ヲ開明ニ導キタル大功アル君ナリ此勳章ニ四等アリ

(七) 聖アン勳章 シユレスウイグ、ホレスタインノ公チャールレス、フレデリックガ一七三五年ニ其亡妃アンナ、ペトロヴナノ紀念ノ爲メニ設ケタル者ナリペートル大帝ノ孫タルシユレスウイグ、ホレスタイン公ペートル三世ノ一七四二年ニ於テ露國ニ來リシ以來露國ノ君主ハ常ニ聖アン勳章ヲ他人ニ贈與シタリシガ一七九七年皇帝パウル一世ノ世ニ至リテ之ヲ露國勳章ノ中ニ加ヘタリ此勳章ニ三等アリ別ニ勇者ニ與フテウ記號ヲ把柄ニ付シタル劔及ヒ聖アン勳章ノ組糸ヲ以テ作リタル劔紐ヲ添フル者アリ且此勳章ハ軍人ノ爲メニ特殊ナル區別ノ記號ヲ有ス

(八) スタニスラフ勳章 一七六五年ポーランドノスタニスラフ大王、ボニアトヴスキイノ設ケル所ニシテ其保護聖徒ノ名ノ爲メニシタル者ナリポーランド王國ノ露國ニ合併セラル、ニ及ンデ皇帝アレキサンダー一世ハ此勳章ヲ用キテポーランド人ニ與ヘタリシガ尋テ一八三一年十一月ニ於テ皇帝ニコラス一世ハ之ヲ露國勳章ノ中ニ加ヘタリ此勳章ニ三等アリ

此外清廉ノ吏ニ與フル特種ナル區別ノ徽號及ビ人命ヲ救ヒタル者ニ與フル褒功
賞牌等アリ

加之一八七八年二月十九日ニ設ケタル赤十字ノ徽章アリ此徽章ハ傷痕ヲ蒙リ若
シクハ疾病ニ罹リタル軍人ノ看護ニ力ヲ盡シタル婦人若シクハ德行殊ニ著ルシ
クシテ傷者病者ノ爲ニ特ニ力ヲ盡シタル者ニ與フル者ナリ此徽章ニ二等アリ共
ニ皇帝ノ裁可ヲ歷テ皇后ノ自ラ與フル所ナリ

御料局長官始メハ御料省ハ其創立一七九七年ニ溯ルベクシテ皇族ニ關スル諸制
度ノ頒布ト同時ニ設ケラレシモノナリ

御料省ハ始メ特別ノ大臣アリテ之ヲ統率シタリシガ一八二六年ニ至リテ宮内大
ニ從屬スル者トナリ宮内大臣ハ御料大臣ノ名ヲ帶ビタリ現今ニ於テハ御料省ハ
總テ其事務ヲ御料局長官ニ移シ皇族ノ財産帝室ノ財産及ビ宮殿御用寶石製造所
ノ總テノ事務ヲ管理ス

地方ノ御料ヲ分チテ十一區トナシ各其主事アリテ事務ヲ掌理ス然レドモ諸處ノ
御料地(リヴァヂア、ムルガブ、マサンドラ等)ニハ特別ナル管理者アリ直チニ御料局

長官ニ隸屬シテ各其事務ヲ取ル

(二) 皇帝陛下ノ特別ナル官房

此官房ハペートル大帝ノ時ニ置カレタルモノニシテニコラス一世ノ世ニ於テハ
其組織最モ錯綜シ大部ニ因リテ成立シ各部各一省タルガ如キ看アリキ然モ爾來
此官房ノ官吏漸ク其數ヲ減シ第二部ハ樞密院ノ法典編纂部ニ移リ高等警察ヲ監
督シタル第三部ハ内務省ノ事務ニ合併シ第四部ハ女帝メリイノ制度ニ因リテ特
別ノ官房トナリ第五部ハ國領地省ニ移リ、コーカサス入種ニ關スル第六部ハ全ク
廢止シタリ故ニ殘ル者ハ唯第一部アルノミニテ此部ハ長官ト次長アリテ事務ヲ
掌理ス

此官房ハ一八九四年ニ建テタル監督部ナル者ヲ有ス是レ一八五四年ニ廢止シタ
ル吏部省ニ代リテ其事務ヲ執ル者ニシテ官房次長ノ直接ナル掌理ノ下ニ文官服
務規律ノ果シテ錯誤ナク畫一ニ遵守セラレツ、アルヤ否ヤヲ監督スル者ナリ陸
叙賞勳及ビ任命ノ事アル時ハ之ヲ文官服務特別委員會ニ付シテ議セシム此委員
會ハ賞勳局總裁即チ宮内大臣ヲ以テ其議長トシ皇帝陛下特別官房ノ理事及ヒ陸

下ノ任シタル四人ノ官吏ヲ以テ組織ス各省次官ハ其省ノ官吏ニ關スル件ニ付キ
 テ此委員會ニ出席ス
 皇帝陛下ノ特別ナル官房ハ監督部ノ外更ニ重大若シクハ不治ノ疾病ニ罹リタル
 ガ爲メニ任務ヲ解クニ至リタル官吏ニ報償スルヲ掌ル恩典委員ナル者ヲ有ス此
 委員ハ國家ヨリ給與スル年金ノ外ニ年金ヲ與ヘ若シクハ金錢上ノ補助ヲ爲シ文
 勳アル官吏ノ孤兒ヲ學校ニ送り又其寡婦孤兒ノ爲メニ特別ノ養育院ヲ維持スル
 コトヲ掌ル

此委員ノ決議ハ皇帝陛下ノ裁可ヲ經ベキモノナリ。

(三) 官吏ノ位階

此ニ露西亞帝國ニ於テ國家ニ功勞アルヲ以テ官吏ニ與フル位階ニ關シテ數言ヲ
 費スハ適當ナルベシ此位階ナル者ハ種々ナル權利ト特權トノ享有ニ大關係アル
 者ナリ國家ノ官吏ニシテ位階ナキ者若シクハ其位階ヨリモ高等ナル官職ヲ占ム
 ル者ハ共ニ例外ニシテ此ノ如キ者ハ其官職ヲ占ムル間之ニ相當シタル權利ヲ享
 有スルニ過キザレドモ位階ニ附屬スル權利ハ永久ノ者ニシテ退職ノ官吏ト雖猶

之ヲ保ツ且位階ノ種類ニ因リテ國家ノ官職ニ任用セラル、ニ差等アルノミナラ
 ス恩賜授爵及ビ年金モ亦位階ニ因リテ差アリ官吏及ビ其家族ノ分限モ之ニ因リ
 テ定マリ貴族ノ階級身分アル市民タルコト及ビ其他ノ榮譽ヲ得ルコト儀式及ビ
 官廷ノ席順等モ亦皆之レニ因ル

現時ニ存在スル位階ハベートル大帝ノ定メタル位階表ニ因ル者ニシテ一七二二
 年一月二日ニ布告シタル所ナリ文官ノ等級ハ十四アリ内第十三等及第十一等ハ
 既ニ廢絶シタルバ殘ル處十二等アルノミ左表ハ即チ之ニ陸海軍及ビ官等ノ位階
 ナ並列シタル者ナリ

等級第一	文官 尚書(大臣) 樞密官	陸軍 元帥	海軍 總司令
等級第二	文官 一等樞密官	陸軍 帥	海軍 提督
等級第三	文官 樞密官	陸軍 中將	海軍 提督副提督
等級第四	文官 參事官	陸軍 少將	海軍 提督小提督
等級第五	文官 參事官	陸軍 參謀官	海軍 提督副提督
等級第六	文官 參事官	陸軍 大佐	海軍 提督副提督
等級第七	文官 參事官	陸軍 中佐	海軍 提督副提督
等級第八	文官 參事官	陸軍 大尉	海軍 提督副提督
等級第九	文官 參事官	陸軍 中尉	海軍 提督副提督
等級第十	文官 參事官	陸軍 少尉	海軍 提督副提督
等級第十一	文官 參事官	陸軍 少尉	海軍 提督副提督
等級第十二	文官 參事官	陸軍 少尉	海軍 提督副提督
等級第十三	文官 參事官	陸軍 少尉	海軍 提督副提督
等級第十四	文官 參事官	陸軍 少尉	海軍 提督副提督
等級第十五	文官 參事官	陸軍 少尉	海軍 提督副提督

爲シタル條約(第十世紀)ハ此事實ノ確證トシテ今日ニ殘レル者ナリ後日ニ至リテ聖者ノ中ニ列セラレシウラジミルハ嘗テ日耳曼東羅馬帝國及ビ同々教國ヨリ使節ヲ受ケタリキ是レ皆彼レヲシテ彼等ノ宗教ヲ信仰スル者タラシメンガ爲メナリキ而シテ賢王ヤロスラツフノ女アンナハ佛王ヘンリ一世ニ嫁セリ露國ノ武名ハ遠近ニ轟ケリ而シテナレグハ希臘人ト戰テ有名ナル勝利ヲ得終ニコンスタンチノープルヲ致サシムルニ至レリ(九〇七年)

是レキープガ南方ニ於ケル狀態ナリ而シテ北方ニ於テ商賈ト貿易トノ中心タリシノヴゴロドモ亦之ト均シク北歐諸國及ビハンサ同盟ノ諸市ト活潑ナル關係ヲ有シタリ

諸太公間ノ争鬪殊ニ韃靼人ノ入寇ハ長キ間露國ノ發達ヲ妨碍セリ然レドモ國際上ヨリ日ハ當時ノ露國人ト雖モ亦大功アリシト云フベシ彼等ハ野蠻人ニ征服セラレタレドモ猶其西方ニ進ムコトヲ止メ得タリ而シテ韃靼人ハ露國ニ住スルコトニ世紀半ニシテ大ニ其野蠻ノ度ヲ減シ露國の教化ノ影響ヲ蒙レリ此教化ハ終ニ露人ヲシテ韃靼人ノ羈絆ヲ脱セシメタリ斯クノ如クニシテ新シキ國家ノ中

心ハモスコーニ起リ終ニ其權力ノ下ニ總テノ分裂シタル土地ヲ合スルニ至リシガ此新シキ國家ハ直チニ其比隣ノ國ト友誼的關係ノ缺乏シタルコトヲ感シ十五世紀ニ及ンテ中絶シタル關係ヲ再ビ聯結シタリ

一四八六年ニ至リテ日耳曼帝フレデリツキ三世ハ使節ヲモスコーニ遣ハシ其姪「ペーデン侯(爵名)アルブヒト」ノ爲メニ太公イヴァンヴアシリエヴァイツチノ女子ノ一人ノ許婚ヲ求メシガ同年ニ於テモスコーノ太公ハツラチヤニオトト名ヅケシ希臘人ヲ其徒ト共ニ奧國ニ派シ二國ノ間ニ自由ノ交通ヲ立ツルコト及ビ双方使節簡派ノ事等ヲ協定セシメタリ

第十六世紀及ヒ第十七世紀ノ間露西亞ハ奧國ト更ニ一層密邇セル關係ヲ結ビ二國共同ノ敵タルポーランド及ヒ土耳其古ニ對シテ同盟ノ條約ヲ訂結セリ

北方ニ於ケル同一ノ事情即チ共同ノ敵ニ對スル防衛ハモスコーヲシテ普露西公國及ビブランドンボルグ侯國ト同盟セシメタリ

不幸ニシテ大ノヴゴロツトノ滅亡ト共ニ從來最モ活潑ナリシハンサ都邑トノヴゴロツトトノ商業的關係ハ終レリ

然レドモモスコイハ獨リ其附近ノ國ト條約ヲ訂結シタルノミナラス常ニ必シモ自國ノ防禦ノミヲ以テ満足シタル者ニモアラザリキ

第十六世紀ヴアシリエ、イヴァノヴィチ太公ノ世ニ於テハ和蘭ノ商人ニシテモスコイ國ニ於テ自由ニ貿易ヲ營ミ及ヒ國內ヲ通行シ得ルノ免許狀ヲ得タル者アリ

一五五三年ニ於テ英國ノ商人チエンスレルハ之ト均シキ權利ヲ與ヘラレタリ彼レハモスコイ國ト貿易ヲ營マンガ爲メニ露國會社ヲ英國ニ立テタル者ナリキ爾來英露ノ間ニハ使節ノ往來漸ク多ク第十七世紀ノ初メニハ既ニモスコイニ英國領事ノ在リシ記事アリ英人ハ終ニ露國ニ於テ貿易上ノ獨占權ヲ得ルニ至レリ

ペートル大帝ノ時ニ至リテ露國ハ終ニ歐洲國際間ノ重要ナル一員トナレリ而シテ十八世紀及ビ十九世紀ノ間ニ於テ國際間ノ重要ナル問題ニシテ一モ露國ト全ク關涉ナクシテ決セラレタル者ナシ我等ハ此處ニ七年戰ニ於ケル露國ノ關係土耳其古ニ對スル勝利カテリン二世ノ時バルカン半島ニ於テ占メタル露國ノ重要ナル位置等ノ如キ著名ナル事實ニ就テ記サマルベシ又歐洲全體ガ露國勢力ノ援助ニ因リテナポレオンノ羈絆ヲ脱シタルコトヲモ記サマルベシ吾等ハ唯露國ノ最

モ有力ナル助勢ニ因リテ發達ト確定トヲ得タル國際法ノ諸原則ニ就テ述ブル所アラントス

此等ノ原則中最モ重要ナル者ノ一ハ即チ局外中立テウ思想ナリ蓋シ此思想ハ中世ニ於テ既ニ其端緒ヲ見ルヲ得ベシト雖モ其眞ノ起源ト云フベキハ第十六世紀ニ在リ

局外中立國ノ權利ハ嘗テ陸上ニ於テノミ識認セラレタリキ海上ニ於ケル中立國ノ商業ハ暴力ヲ蒙ラサルヲ得ザリキ

當時ノ法則ニ因レバ中立國ノ國旗ハ敵國ノ貨物ヲ保護スルニ足ラザリキ即チ敵國ノ貨物ハ假令ヒ中立國ノ船中ニ在リト雖猶分捕スルヲ得ベキモノナリトシタリキ此事情ハ交戰國ヲシテ海上ニ於テ中立國ノ船舶ノ航行ヲ止メ且之ヲ檢査スルコトヲ得セシメタリシガ此ノ如キ壓抑的ノ手段ハ自然ニ反對ヲ喚起セザルヲ得ス而シテ露國ハ即チ反對ノ先鞭ヲ着ケタリキ一七八〇年及ビ尋テ一八〇〇年ニ於テ女帝カテリン二世ノ發議ニ因リテ始メテ第一第二ノ兵備アル仲裁同盟ナルモノ組織セラレ中立國ノ船中ニ在ル敵國ノ貨物ハ其軍器ノ密輸入品タルノ外

ハ總テ自由ナルベキコトヲ宣言シタリ當時英國及ビ一部分ニ於テハ合衆國モ亦從前ノ原則ヲ固守シタリシカバ中立國ノ權利ヲ保タンガ爲メニ二個ノ軍隊ハ立テラレタリ然レドモナポレオン一世ハ英國ノ名ヲ負ヘル總テノ物ニ對シ其實ハ上ニ記ルシタル從前ノ規則ヲ擴充シタル者ニ過ギザル大陸的制度ヲ適用セントセシニ及ンデ英國ハ始メテ其國際上ニ關スル意見ヲ變シ一八五六年パリニ於テ列國ノ宣言ニ連署シタリ此宣言ハ一七八〇年ノ露國國際法典ヲシテ強制的ノ勢力ヲ有スル法律ト同等ナラシメタル者ナリ

加之露國ハ戰時ノ法則及ビ慣習ヲ編纂シテ成典トナスコトニ關シテ他國ニ率先シタルノ榮譽ヲ有スル者ナリ
敵國ニ入りタル軍隊ノ權利ト義務トヲ定ムル法律ハ第十六世紀ニ於テ始メテ歐洲ノ數國ニ於テ宣言セラレタリ然レドモ此等ノ法律ガ一般ニ承認セラル、ニハ先ツ普ク世上ニ知ラレ且總テノ一致ヲ要スルヲ以テ未ダ實行セラレザル者甚ダ多カリキ然ルニ一八六四年ニ於テ露國ハ始メテ此ノ如キ一個ノ一致ヲ得タリ當時露國ノ懲慝ニ因リテ總テノ文明國ハ條約ニ因リテ定メラレタルヨリハ輕量ナ

ル破裂九ヲ戰時ニ用ヒマジキコトヲ盟約シタリキ

一八七四年ニ於テ皇帝アレキサンダー二世ノ發議ニ因リテブラッセルニ會議ヲ開キ戰時ニ於ケル總テノ法則ト慣例トヲ編纂セントセリ此會議ノ決議セシ宣言ハ會々政治上ノ紛紜アリシガ爲メ確定スルニ至ラザリシモ猶戰時ノ權利ト慣例トヲ最モ善ク表彰シタル者ナリトセラレタリ

之ト同時ニ露國政府ハ戰時ニ於ケル報讎ニ一定ノ制限ヲ置カンコトヲ企テタリ戰時ノ報讎トハ即チ敵國ノ暴力ニ答報スル暴力ノ謂ニシテ數バ復仇ノ制限ヲ超ヘテ強暴ニ流ル、者アリ

露國ハ獨リ人道ノ原則ヲ主張シタルノミナラズ又之ヲ實行セリ一八七七年露兵ノ土耳其國境ニ入りシヤ露軍ノ總督タル太公ニコライニコラエヴィチハ戰爭ニ關係セザル住民ト其財産トハ決シテ侵掠セラレザルベキコトヲ宣言シ且敵兵ノ死傷者ヲ保護スルコトニ關スル一八六四年ゼネバ條約ノ旨趣ヲ破ル者ハ嚴科ニ處スベキコトヲ布告シタルノミナラス其戰役中軍官ノ人民ヨリ求メタル者ハ必ラズ之ニ報酬セザルコトヲク一回モ市邑ニ於テ徵發令ヲ布キタルコトナカリキ

假令ヒ土耳其人ノ暴横ヲ極メタリシ時、パツシイ、フーツークス及ビツエルクエセツスニ於ケル如クト雖トモ露軍ノ諸將ハ總督ノ同意ヲ得且敵將ニ通知シタル後ニ非レバ復讐的動作ヲ行ハザリキ

愛人及ビ文明ノ大義ハ東方ニ於ケル露國ノ政略ヲ支配セリ一七七四年ニ於テカテリン二世ガ土耳其ト締結シタル有名ナルクーツーグ、キナルジイ條約ハ其各款毎ニ基督教徒ノ信仰ヲ妨害スベカラザルコトヲ指示シ土耳其ノ朝廷ニ在ル露國ノ全權大使ハ基督教徒タル土耳其臣民ニ關シテ干涉ノ權利ヲ有スルコトヲ定メタリ歐洲諸強國ハ露國ガ東方ニ有スル勢力ヲ止メントシテ露國ガ土耳其ニ對シテ有スル此關係ニ注目シ一八五六年ノパリ條約ニ因リテ土耳其ノ臣民ハ宗教上ノ自由ヲ有スルコトヲ宣言シ他國ノ之ニ干涉スル權利ヲ撤去シタリ然モ爾後幾バクモナクシテ一八六〇年及ヒ一八六七年ニ於テシリヤ及ビカンヂヤノ叛亂ニ因リテ歐洲諸強國ハ自ラ土耳其ニ於ケル基督教徒ヲ防衛セザルヲ得ザルニ至リ斯クシテ事情ノ避クベカラサルカ爲メニ露國ノ足跡ヲ踏ムノ止ムヲ得サルニ至リシナリ

一八七七年同七八年ノ間ニ於テ露國ハ再ビ東方ニ於ケル基督教徒ヲ防衛セザルベカラザルニ至レリ是レ一八五六年ノ巴里條約ニ於テ宣言セラレタル信仰ノ自由ナルモノガ土耳其ニ於テ根底ヲ有セザルコト明白ナル事實タリシヲ以テナリ而シテ之ガ爲メニ爲サレタル戦争ハブルグリヤノ解放ヲ以テ結局セリ

一八七八年ノベルリン會議ニ於テ歐洲ノ諸強國ハ此ノ國ノ成功ヲ妨ゲンガ爲メニ明カニ基督教徒タル土耳其臣民ノ保護ハ列國共同ノ下ニ置クベキコトノ原則ヲ確定シタリ是レ事實ニ於テ露國ガ指導シタル方向ニ一步ヲ轉ジタルニ過ギザルナリ

極東及ビ中央亞細亞ニ於ケル露國ノ文明的勢力ハ連續セル一條ノ歴史ナリ此歴史ハ其端ヲ第十三世紀韃靼侵掠ノ時期ニ於ケル歐洲露西亞ニ發シタルモノニシテ其自然ノ結果トシテアストラカン及ビカザンノ韃靼王國ヲ取り尋テシベリヤヲ取り異族(即チイノロドシイ)ヲシテ斷ヘス露國民ト同化セシメタリ

先帝アレキサンダー三世ノ名ト永遠ニ連繫シテ離レザルベキシベリヤ鐵道ノ建設モ亦必ラズ露國ガ文明ノ進歩ニ寄與シタル歴史上一大要件タルモノナリ

若シ英國ヲ以テ西歐ニ於ケル奴隸廢止事業ノ第一步ヲ取りタル者ナリトセバ東方ニ於ケル同シ功績ハ全ク之ヲ露國ニ歸セザルヲ得ズ
 中央亞細亞ニ於テ露國ハ今日ニ至ルマデ撓マザル精力ヲ以テ人民ヲ捕獲シ、奴隸トシテ之ヲ賣ルコトニ對シテ抗戰シツ、アリ之ガ爲メニ其種族ト平和條約ヲ結ブ毎ニ其條款中ニ奴隸ヲ解放シ及ビ將來ニ於テ奴隸ヲ廢止スベキコトヲ掲ゲシメタリ
 平和及ビ平和ノ商業ヲ防衛センガ爲メニ露國ハ一八七三年ニ於テキイヴアノ汗領ヲ征服シタリ是レ其住民ガ數世紀間露國ノ隊商ヲ掠奪シ其捕虜トシタル商人ヲ奴隸トシテ賣リタレバナリ是ニ於テキイヴア汗領ハ露國ノ保護ニ屬シ汗ハ自ラ全露國皇帝ノ謙遜ナル臣民ト曰ヒ近隣諸國ト總テノ直接ナル關係ヲ棄權シタリ
 ホクハラハキイヴアニ比スレバ更ニ多クノ自由ヲ有ス而モ均シク露國保護ノ下ニ在リ而シテ一八九三年ホクハラノ君長エミルガ聖ペートルスボルグヲ訪問シタル時皇帝アレキサンダー三世ハ之ニ「セレニスシメ君長ノ稱號ヲ與ヘタリ露國ノ平和的政略ハ最初ニ於テハ蓋シ歐洲諸強國ノ中ヨリ疑ハルハ、免レザリ

シナルベシト雖先帝ノ時ニ至リテ總テノ國ノ信ズル所トナレリアレキサンダー先帝ハ其位ニ即ク一月ニシテ歐洲諸強國ニ對シ全體ノ平和ヲ保護セントスルコト及ビ國內ノ進歩發達ヲ以テ總テノ事ヲ措キテモ爲スベキ自己ガ唯一ノ事務ト爲スベキコトヲ宣言シ且此事業ヨリ露國ノ意思ヲ轉セシムベキモノハ唯自國ノ面目ヲ維持スルノ義務アルノミト曰ヘリ
 此君主ノ歿後殆ンド一ヶ月ソールスベリ一侯ハ同國保守及ヒ憲法同盟ノ集會ニ於テ演說シテ曰ク「アレキサンダー三世ノ治世ハ長カリキ而シテ其ノ間余ハ其最モ長キ部分ノ間ト云ヒ得ベシト思フ余ハ其品性ノ發露シタル行動及ビ其事業ノ動機ヲ批判シ得ベキ位置ニ在リキ最初ニ於テ余ハ白狀ス余ハ帝ノ態度ニ關シテ疑惑ナキ能ハザリシガ諸口ノ事實ト不斷ノ經驗トハ余ヲシテ余ガ外事ニ關スル官務ヲ離ルハ久シキ前ヨリ歐洲ノ平和ニ關シテ彼レニ負フ所多キコトヲ深ク感ゼシメタリ歐洲ノ彼レニ負フ所眞ニ言語ニ顯ハシ難キ者アリ其平和ハ帝ノ謙遜ナル基督教的品性が我等ニ保證シタル所ナリ帝ハ總テノ國民ガ感謝セザルベカラザル記録ヲ殘シタリ此記録タル全世界ノ未來ノ治者が其王タルト臣民タルト

ヲ問ハズ之ヲ研究シテ摸倣スベキ者ナリト

露國ガ國際的性質ヲ有スル殆ンド總テノ盟約ニ參與シタルコトハ言フマテモナキコトナリ即チ第一ニ死傷兵ノ保護ニ關スル一八六四年ノゼネヴァ盟約ハ他國ト同ジク露國ニ赤十字社ヲ興シタル者ナリ一八九三年ニハ露國ハドレスデンニ於テコレヲ病流行ノ時人民ノ健康ヲ保護スルノ目的ヲ以テ歐洲諸強國ノ代表者ガ決議シタル列國衛生同盟ニ調印シタリ露國ハ亦一八七四年ベルリンニ於テ開會シ郵便同盟ヲ建テシヲ以テ始トシタル總テノ郵便同盟ニ加ハレリ一八七五年ニ於テ聖ペートルスホルグニ於テ一般ノ電信同盟ハ調印セラレタリ而シテ一八九〇年ニ於テ露國ハ澳太利佛蘭西以太利白耳義和蘭等ト共ニヘルンニ於テ直接ニ接續シタル線路ニ貨物ヲ運搬スルコトニ關スル國際的盟約ヲ結ビタリ我等ハ今此處ニ通商條約ニ就テ曰フ所ナカルベシ是レ國家ノ商業的政治ノ部ニ屬スベキモノナレバナリ此處ニハ唯露國ハ殆ント總テノ歐洲諸國ト通商條約ヲ締結セリト云フヲ以テ足レリトスベシ此等ノ條約ハ國際的ノ觀察點ヨリ之ヲ見レバ極メテ切要ナル者ナリ何トナレバ之ニ因リテ商業ニ從事スル外人ノ權利ヲ

規定シ國家ノ臣民ト均シキ法律ノ保護ヲ彼等ニ保證シタレバナリ

國際私法ニ關シテハ露國ハ海員ノ死後ニ殘シタル財産ノ交附ニ關スル盟約ノ全部ヲ完結セシメタル者ナリ而シテ露國ノ民法ハ國外ニ於テ爲シタル契約及ビ外國ノ法廷ニ於テ宣告セラレタル判決ヲ有效ニ執行スベキコトヲ定ム

(二) 外務省

帝國ノ外國事務ハ外務省ノ掌理スル所ナリ此事務ハ露國史ノモスコイ時代ニ於テハポスソロスキイブリカズ即チ使臣局ニテ取扱ハレタル者ニシテ爾後ペートル大帝ノ時ヨリ一八三二年ニ至ルマデハ外國事務局ノ管理シタル所ナリ外務省ノ事務ハ左ノ如シ

- (一) 外國政府ト政治上ノ關係
- (二) 外國ニ於ケル露國ノ商業及ビ利益ノ保護
- (三) 露國臣民ノ外國ニ於ケル事業ノ保護及ビ

(四) 露國ニ於ケル外國人ノ事業ニ關シ合法的ノ要求ニ幫助ヲ與フルコト

時トシテ尙書若シクハ副尙書ノ名ヲ帶ブル外務大臣ハ同時ニ大國運ノ保管者ナリ此國運ハ國家ノ最大事ニノミ押印セラル可キモノナリ

外務大臣ハ其次官ノ外ニ定員アル參事官ヲ有ス此參事官ハ官房及ビ各局ノ長官ト共ニ省會議ヲ構成スベキ者ナリ

官房ハ政治上ノ事件ニ於テ通信スルノ事務ヲ掌ル三個ノ局ハ一ハ歐洲ト露國トノ總テノ關係ヲ主リ二ハ亞細亞局ニシテ東方トノ關係ヲ主リ三ハ職員及ビ事務ノ事ヲ主ル者ニシテ官吏ノ進退及ビ省ノ會計等ヲ掌理ス

外務省ノ外國ニ關スル官職ハ使臣及ビ理事及領事ノ三トナス前ノ二者ハ政治上ノ關係ノ爲メニ派スル者ニシテ後ノ者ハ專ラ商業上及ビ經濟上ノ事務ノ爲メニ派スル者ナリ露國ノ代表者ガ久シク外國ニ在住スルコトハペートル大帝ノ時ニ始マリシノミ現時ニ於テハ澳太利、大英國、日耳曼帝國、伊太利及ヒ土耳其ニ使臣ヲ派遣ス其使臣ノ長ヲ大使特命全權大使及ヒ全權大臣ト呼ブ而シテ其大臣ノミ皇帝陛下ノ御躬ヲ代表スル者ナリ

他ノ諸國ニハ露國ハ理事官ヲ遣ハセリ此理事官ハ特命全權公使及ビ全權公使辨

理公使代理官等ノ下ニ管理セラル、者ナリ

領事ノ官職ハ重要ナル都府ニ於ケル總領事及ビ領事副領事及ヒ代理官ニ因リテ成ル

領事ノ重要ナル事務ハ露國ノ商業及ビ航海ノ利益ヲ増進スルニ在リ故ニ露國領事タル者ハ露國ノ軍艦及ビ商船ニ對シテ出來得ル限りノ補助ヲ與フルニ在リ領事ハ又其職分ニ因リテ露國ノ船主及ヒ其船員ノ間ニ起リタル訴訟及ヒ爭論ノ仲裁タリ而シテ若シ各種ノ人總テ其訴訟ヲ領事ニ提出スル時ハ領事ハ事實ニ於テ一般ノ露國臣民ノ間ニ起リタル訴訟及ヒ爭論ノ仲裁者タリ

東洋諸國ニ於ケル領事ハ或ル司法上ノ權利ヲ付與セラル

領事ハ露國臣民ノ利益ニ注意スル外其力ノ爲シ能フ限り種々ノ手段ヲ盡シテ其駐在スル國ト露國トノ關係ヲ發達セシムベキノ義務アリ故ヲ以テ彼等ハ外務大臣及ビ大藏大臣ニ貿易及ヒ航海ニ關スル意見ト注意トヲ提出シ且貨物及ヒ爲替ノ相場ヲ報告シ商業及ビ航海ノ進歩ニ關スル一般ノ觀察ヲ告知シ關稅表其他駐在國ノ處置ニ就キ報知書ヲ準備シ農業國ニ於テハ領事ハ年々收穫及ビ穀物貿易

ノ進歩農産物ノ價格等ヲ報ス
最後ニ領事ハ其駐在スル地方ニ起リタル傳染病ノ徵候ヲ直チニ報告シ且之ヲ其
地方ヲ通過スル總テノ露國船ニ報知スベキ義務ヲ有ス

第六編 國防

第一章 兵役

露國ニ於ケル常備陸海軍ノ基礎ハペートル大帝ノ置キシ所ナリ是レヨリ先キ我
露國ノ兵力ヲ構成スルモノハ重モニ臨時ノ募兵（チボルチエニエ）ナリキ此募兵ノ
中ニハ貴族若シクハ地方ニ配布セラレタル「貴紳ノ子弟」（註此處ニ「貴紳ノ子弟」ト稱スルハ貴紳ニ亞グル階級ノ名ナリ）
ニ因リテ組織セラレシ者アリキ此貴紳ノ子弟ハ戰役ノ時ニハ自己ノ費用ヲ以テ
十分ナル軍裝ヲ爲シ且馬上ニテ出陣スベキ義務アリシ者ナリ
募兵ノ他ノ部分ハ所謂「スダトチ」（採用セラレタル人民ノ總ナリ）ヨリ構成ス此ハ農夫ノ中ヨリ採
リシ者ニシテ戰已メハ家ニ還サレシ者ナリ平和ノ時ニ於ケル常備ノ役ヲ爲ス者
ハ市府ノ哥索克及ビ砲手ニシテ重モニ市府ト城砦トニ限リタリキ「ザル」（ミカイル

フエナドロヴィチ）一六一六年ヨリ一六四五年マデノ時ヨリ外人ヲ備フテ兵トス
ルノ習慣ヲ生ジ此外人及ビ後ニ至リテ貴族及ビ「貴紳ノ子弟」ヲ用ヒテ騎兵及ビ步
騎兩用兵ノ特別ナル聯隊ヲ組織シタリキ「ザル」アレキセイ、ミハイロヴィチノ治世
間義勇兵ヨリ成リタル騎兵ノ聯隊ヲ構成シタリシガ未ダ規律アル常備兵ナル者
ナカリキ當時ノ兵タル者ハ一年ノ最モ長キ時期ヲ農工業ニ用ヒ唯甚ダ短キ時期
ニ於テ練兵ノ爲メニ集リシノミ

ペートル大帝ハ規律アル軍隊ヲ造ラントシテ始メヨリ全國一般ノ強迫兵役ノ法
ヲ用ヒタリ是レ蓋シ全ク帝ノ創意ニ出デシ者ナリ當時他ノ歐洲ノ軍隊ハ募兵法
ヲ用ヒテ募集シタル者ニシテ全國一般兵役ノ法ハ一百年後ニ至リテ採用セラレ
タルノミ

ペートル大帝ノ勅令ニ因リテ一六九九年ニ於テ第一回ノ徵兵ヲ行ヘリ而シテ當
時兵役ノ爲メニ集メラレタル新兵ハ三萬二千人ニシテ之ヲ分チテ二十七個ノ步
兵聯隊及ヒ二個ノ步騎兩用兵聯隊トナシ又之ヲ三軍ニ分チタリ
當時ノ徵兵法ハ個人的ニ非ズシテ團體的ナリキ更ニ詳ニ之ヲ曰ヘバ村落及ビ市

邑ノ各團體ハ各一定ノ新兵ヲ出スベキ義務アリ而シテ其選擇ハ一ニ團體ニ委任セラレタリキ唯貴族ハ例外ナク悉ク終身間兵役ニ服シ全ク兵役ニ堪ヘザルカ若クハ老年ニ至ルニ非レバ之ヲ免ル、ヲ得ザリキ斯ノ如クニシテ十八世紀ノ始ニ於テ露國ガ採用シタル徵兵ノ法ハ西歐諸國ノ軍務官ガ採用シタル方法ト甚ダ異ナリキ當時此等ノ諸國ニテハ專ラ自ラ好ンデ兵トナル壯兵募集ノ法ヲ用ヒ時トシテハ種々ノ誘惑ヲ施シテ兵役ニ入ラシメタリキ

露國ニ於ケル兵役ノ義務ハ社會ノ總テノ階級ニ及ボシタリキ然レドモ星霜ヲ經ルコト久シキニ及ンデ次第ニ例外ヲ生ジタリ是レ其一生兵ニ服スルハ甚ダ重キ負擔タレバナリ而シテ此例外ハ次第ニ社會ノ上級ニ與ヘラレタリ即チ貴族身分アル市民商人及ビ僧侶ナリ工人及ヒ農夫ノ中ニモ例外トセラレタル者アリ時トシテハ一地方ノ全體ヲ舉ゲテ兵役ヲ免ジタル者アリ終ニ兵役ノ義務ヲ有スル者ハ唯全人口ノ五分ノ四タルニ至レリ

然レドモ十八世紀ノ終リ及ビ十九世紀ノ始ニ起リタル諸戰爭ハ英國ヲ除クノ外總テノ歐洲諸國ヲシテ兵役ニ壯兵法ヲ用ユルヲ止メテ強迫法ヲ以テ之ニ代ユル

ニ至レリ軍隊ハ始テ義勇兵ニ因リテ組織セラレズシテ國家ニ對スル神聖ナル義務ヲ盡サンガ爲メニ法律ニ因リ召集セラレタル國民ニ因リテ組織セラル、ニ至レリ

兵役ノ義務ハ個人的トナレリ即チ賠償若シクハ代人ニ因リテ除カレ得ベカラザル者トナレリ且兵器ヲ取ルニ堪ユベキ一定ノ年齢ニ達シタル全國ノ男子ハ總テ強迫的兵役ニ服スベキ者トナレリ而モ之ト同時ニ平和ノ時ニ於ケル兵役ハ軍事ノ教訓及ビ戰時ニ軍隊ヲ整備スルニ足ルベキ隊伍ノ編成ニ必要ナル最モ短キ期限ニ限ラル、ニ至レリ

露國ニテ全國一般強迫兵役ノ法ガ募兵ノ法ニ代リタルハ一八七四年ニ在リ而シテ之カ爲メニ建テラレタル其重要ナル原則ハ次ノ如シ

兵役ニ堪ユベキ全國ノ男子ハ二十一歳ヨリ四十三歳ニ至ルマテ國民軍ノ編成ニ入ル然レドモ其或者ハ常備軍トナリ他ノ者ハ國民軍ヲボルチエニエトナリ國民軍ハ戰時ニ於テノミ召集セラル、者ニシテ其兵役ニ服スル時ハ專ラ常備軍ノ後軍タリ

常備軍ノ一般兵役期限ハ十八年トス而シテ其四年ハ軍旗ノ下ニ現役ニ服シ他ノ十四年ハ豫備タリ此豫備ハ獨逸ノ國防兵ニ相當スル者ナリ然レドモ實役ノ期限ハ教育ノ度ニ從ツテ著ルシキ差異アリ其最モ短期ナルモノハ唯一年ニ過キザルコトヲ記憶セザルベカラス

兵役ハ何人モ服サザルヲ得ザル者ナリト規定セラレタレドモ露國ニ於テハ他ノ邦國ノ如ク許多ノ免除アリ全人口ノ供給スル兵籍登録ノ全數ハ平和ノ時ニ要スル軍隊ヲ整備スル必要以上ニ超過ス例ヘバ平和ノ時ニ於ケル露國ノ軍隊ハ四年間ニ召集セラレタル九十萬人ヲ以テ足レリトス故ニ年々其四分ノ一即二十五萬人ノ兵籍ニ入ル者アルヲ要ス而モ戰時ニ於ケル軍隊ノ各級ヲ充實センガ爲メニ年々募集ノ數ヲ二十六萬五千人トス之ト同時ニ露國ノ人口ハ年々二十一歳以上ノ男子八十八萬人ヲ供給ス是レ兵士トシテ要スル數ノ三倍ナリサレバ残りノ三分ノ二ハ種々ノ法ニ因リテ實役ニ服スルコトヲ免ルハナリ

兵役免除ノ重モナル理由ハ體力ノ無資格ニ在リ此理由ノ爲メニ年々二十九萬ノ徵募者ハ兵役ヲ免カル次ニ家族ニ存スル理由ニ因リテ兵役免除ノ特權ヲ得ル者

アリ例ヘバ一家族ノ中ニ存スル唯一人ノ息子ノ如キ或ハ其兄弟ノ産業ヲ營ムニ堪ヘザル時獨リ其父ヲ助クル長子ノ如キ是ナリ

基督教ノ僧侶ハ其職分ノ權利ニ因リテ全ク兵役ヲ免カル醫師、特許化學者、教師等ハ十八年間豫備ニ服スルノミ此外尙許多ノ人ハ身體上若シクハ家族上ノ理由ニ因リ或ハ其教育ヲ充分ナラシムル目的ノ爲メ兵役ヲ中止スルコトヲ免ルサル者アリ

此餘ノ徵募者ノ殘餘ハ抽籤ニ因リテ兵役ヲ免ルサル

年々兵役ニ入ル二十六萬五千人ノ中大抵六千人ハ海軍ニ服シ残りノ二十五萬九千人ハ常備陸軍ノ中ニ編入ス

兵役ニ關スル特別ノ規則ハ高哥索ニ住スル一定ノ異族民ノ爲メニ設ケラレタリ此異族民ハ兵役ニ服セズシテ之ニ代フルニ租稅ヲ出ス者ナリフィンランドノ太公國ニ於テモ亦特別ノ制度アリ此制度ニ因レバ其兵役ハ唯三年ノ實役二年ノ豫備アルノミ且此兵士ハ專ラフィンランド地方ニ限レル軍隊ニ服従スルノミ

哥索克兵ノ中ニ存スル特殊ナル兵役ノ性質ニ就テハ次章ニ於テ説明スル機會ア

ルベシ

露國民が兵役ノ負擔ハ之ヲ他國ニ比スルニ年々募集ノ比例ニ於テモ亦家族ノ理由ニ因リテ與ヘラル、多大ノ免除ヨ於テモ頗ル輕キ者ナリ年々二十一歳以下ノ男子が兵役ヲ免ル、ノ數左ノ如シ

年々兵役ニ入ルモノ	百分ノ	不合格ニ因リテ免ル、モノ	家族ノ理由ノ爲ニ免ル、モノ
佛蘭西	七六	二三	〇
日耳曼	四五	四二	二
奧太利	三四	五七	四
露西亞	三一	一二	五一

第二章 陸軍

總テノ陸軍ハ兵役ノ性質ニ因リ常備軍及ヒ哥索克兵ニ分タル而シテ此常備ノ軍隊ハ戰時ニ於テハ國民軍ヲボルチエニエノ中ヨリ召集セラレテ隊伍ニ編制セラ

レタル豫備民兵ニ因リテ補充セラル

編制ノ各單位(即チ聯隊、大隊、中隊等)ハ平和ノ時ト戰時トノ二種アリ平和ノ時ニ於テハ軍隊ノ要核ヲ備フルヲ以テ足レリトシ戰時ニ於テ之ヲ基礎トシテ十分ナル編制ト爲ス何ナル國ニ於テモ長久ニ戰時ノ如キ軍隊ヲ保チ得ベキニ非ルガ故ニ平和ノ時ニ於ケル全軍ハ其國ノ全兵力ノ四分一若シクハ五分一ニ過ギザルナリ而シテ之ト同時ニ戰時ニ於テ最モ必要ナル軍隊ノ部分ハ平時ニ於テモ其要核ハ成ルベク戰時ニ要スル編成ニ近キヲ要ス

此理由ニ因リテ現役兵即チ實役兵ハ小隊及ビ中隊ヨリ軍ニ至ルマデ總テノ編制上ノ單位及ビ指揮命令ヲ掌ル士官及ビ軍政ヲ掌ル充分ナル幹部ヲ具有ス故ニ現役兵ハ戰時ニ於テ唯殆ンド半數ノ隊列ヲ増シ少數ノ後進士官ヲ加フルヲ以テ足レリトスルノミ豫備兵若シクハ城砦兵ハ之ヲ常備兵ニ比スレバ戰時ノ設備ニ近ツクノ度頗ル小ナリ而シテ豫備兵ハ唯戰時ニ於テ編成セラル、ノミ要核ノ精細ハ兵ノ他ノ各種ニ於テモ亦差アリ平時ノ軍隊編成ヲ戰時ノ軍隊編成ニ變ズルハ動員ノ法ニ因ル動員ヲ行フ時ハ豫備ニ在ル士官ト兵士トハ共ニ召集セラ

レテ實役ニ服ス必要ナル馬匹ノ全數ハ強迫法ニ因リテ人民ヨリ供給セラレ其費用ハ國庫ヨリ拂ハル軍隊ノ十分ナル開張ニ要スル常備以外ノ材料ハ之ヲ平時用ユルコトナキ豫備ノ倉庫ニ取ル此倉庫ハ平時ノ必要ニ比例シタル戰時ノ必要物ヲ藏ムル者ナリ

平和ノ時ニ於テ要核ノ力ノ大ナルニ從ヒ編成本位ノ動員モ亦容易ニ爲シ得ベキナリ他語ヲ以テ之ヲ曰ヘバ人モ馬モ要スルコト少キナリ

露國ニ於テハ平時ノ軍隊要核編成大約八十六萬人乃至九十萬人ニ及ビ是レ他ノ歐洲諸國ニ比スレバ多數ナル者ナリ例ヘバ日耳曼ハ五十九萬九千人佛蘭西ハ五十七萬二千人澳太利ハ三十三萬五千人以太利ハ二十二萬二千人ナリ然レドモ之ヲ露國々境ノ遠距離ト廣大ナルトニ比較スレバ人ハ猶其比較的ニ小數ナルヲ思ハサルヲ得ザルベシ

各種ノ兵器ヲ用ユル實役兵ハ之ヲ結合シテ兵學上最高級ノ單位即チ軍團トス軍ハ規則トシテ二個ノ歩兵軍ト一個ノ騎兵軍及ビ之ニ伴フ砲兵トナ有ス施條銃隊及ビ工兵隊ハ軍ノ中ニ編入セズ軍ノ總數ハ二十二アリテ其十九ハ常備軍ヨリ成

リ其三ハ哥索克兵精兵及ビ近衛兵ノ軍ナリ

フィンランドノ軍隊ハ九個ノ施條銃兵大隊ト一個ノ步騎兩用兵聯隊ヨリ成リフィンランドニ駐在ス而シテ其募兵ハ特別ノ方法ニ因リ專ラ土地ノ住民ヲ取ル而シテ特ニフィンランド軍隊ノ爲メニ置キタル總督ノ命令ニ服ス近衛兵ハ特ニ其編成ノ複雜ナルコトニ因リテ著ルシキ者ナリ

露國ノ近衛兵ハペートル大帝ノ時ブレオブウゼンスキイ及ビセメノフスキイ聯隊ヨリ組織セリ而シテ漸次現時ノ兵數即チ十二個ノ歩兵聯隊十二個ノ騎兵聯隊四個ノ施條銃兵大隊ウラル山高哥索種ノ一小隊二十一個ノ野戰砲中隊六個ノ馬上砲中隊近衛水兵ノ一分隊近衛憲兵ノ四分隊ヲ以テ組織スルニ至レリ總テ此等ノ軍隊ハ皆近衛兵ノ構成中ニ入ルベキモノナリ而シテ猶之ニ加フルニ下ノ兵アリ即チクバンヨリ來レル哥索克兵ノ二分隊テレクヨリ來レル二分隊是レ宮中武官司令官ノ命令ニ服スル者ナリ宮中精兵隊ノ一小隊是レ宮内大臣ノ管理ニ屬スル者ナリ及ビ終身近衛砲兵タル一大隊及ビ豫備分隊

以上ハ露國常備軍ノ構成ナリ之ニ加フルニ哥索克兵ノ聯隊及ビ大隊ヲ以テスレ

一四二
バ露國陸軍ノ全體ヲ爲ス者ナリ然レドモ哥索克兵ハ其役務ノ性質ノ特殊ナルヲ以テ之ヲ常備軍ノ中ニ列セザルナリ

哥索克兵ノ起源ハ甚ダ遠キ往時ニ溯ラザルベカラズ

露國ノ南及ビ東南界ニ於テ哥索克ト稱スル多數ノ軍民ガ次第ニ現ハレ來リシハ世ノ普ク知ル所ナリ

哥索克ナル語ハ土耳其語ニシテ自由人若シクハ自由ノ槍ノ義ヲ有ス最初ノ哥索克ハデニール河邊ニ住スル諸種族ナリキ第十三世紀ニ於テバツタイノ率ヒタル韃靼人が露國ニ入寇シタリシ後露國ハ分レテモスコウイ及ビリツアニア露國トナリ現時ノ小露西亞地方ノ住民ハ多ク其ノ土地ヲ失ヒデニール河ノ諸島ニ退キ嶮岩藪澤ノ間ニ遁レタリ而シテ彼等ハ此處ニ在リテ總テ抑壓ニ苦シム者ヲ歡迎シ總テノ國總テノ人民ヨリ來レル隱遁者ヲ容レタリシカ此デニール地方ノ自由民ノ中ヨリ基督教徒ノ軍人即チ武士ヲ生スルニ至レリ此武士ハ自ラ稱シテケルケスト曰ヒ尋テ哥索克ト稱シタリシガ後分レテ妻帶者ト獨身者トノ二種トナリ妻帶シタル哥索克ハ小露西亞及ビウークレイン地方ニ住シ農業ニ從事シ

終ニポーランド貴族ノ一種トナレリポーランドノ政府ガ哥索克兵ヲ其管理ノ下ニ從ヘ得タリシハ此貴族アリシガ爲メナリ是ヲ以テ第十六世紀ノ終リニ於テハステファン、パトリイノ下ニウークレインノ人民ノ中ヨリ六千家ノ自由ナル哥索克兵ノ一隊ヲ作り自ラ其佐官ヲ撰ブノ權ヲ與ヘ王家ノ任シタル哥索克總督ニ屬セシムルノ命令ヲ發シタリ斯ノ如クニシテ哥索克ハ小キ民軍ト變シ此中ニ入ラザル者ハ奴隸トセラル、ニ至レリ然レドモ此改革ハ十分ニ成功スル能ハズシテ政府ノ認識シタル哥索克ノ外ニ自由不羈ナル哥索克ヲ生ジデニールノ急湍激流ノ中ニ在ル天險ノ諸島ニ據リシエチト名ヅクル城砦ヲ建テタリキ

此ノ如クニシテ組織セラレシ軍人社會ハ自ラ、コーシヤアト稱シタリ即チ陣營ノ義ナリ何人モ來リテ此社盟ニ入ルヲ得タリ但シ其正統教會ノ信仰ヲ告白スルコトヲ要ス此社盟ノ生活ハ完全ナル同等ト自治トヲ以テ基礎トス此社盟ヲ、グーリエントト稱スル團隊ニ區分ス是レ一種ノ夥伴ニシテ同國同地方ヨリ來リシ者ヲ集メタル者ナリ各、グーリエントハ各其首領ヲ撰ブ而シテ同社盟ノ長ニハ即チ、コーシヤノ首領アリ補助者、軍事裁判者、書記、及ビ尉官アリテ之ヲ助ケタリキ此等ノサボ

ロジヤ地方ノ哥索克ノ生活ハ其極メテ質素ナルコトヲ以テ著ルシカリキ其最モ特殊ナル性質ハ獨身ナリシニ在リシエチニ女子ヲ入ル、ハ死刑ヲ以テ嚴禁セラレタリ當時韃靼人ノ出沒頻リナリシカバ彼等ハ農業ニ從事スル能ハズ其生業ハ戰爭ヲ除ケバ漁獵ノミナリキ彼等ハ其始メ皆シエチニ共棲シ各クローリエンハ各樹枝ニ獸皮ヲ張りタル天幕ヲ有シ各クローリエンノ夥伴ハ家ヲ共ニシ食案ヲ共ニシタリシエチノ中ニ於テハ秩序整然トシテ嚴格ナル規律アリ社盟ノ中ニ在テ若シ盜ヲ行フモノアレバ之ヲ死刑ニ處シタリキ且社盟ノ中ニ在リテハ爭論ヲモ禁ジタリ勿論此ノ如キハ唯其最初ノ存在ニ於ケル状態ナリシノミ時ヲ經ルニ及ンデ變化スル處甚ダ多カリキ

「シエチ」ノ兵力ハ其始ハ專ラクリミヤノ韃靼人及ビ土耳其人ニ抗センガ爲メニ南方ニ向テ用キラレタリキ而シテポーランド國ガ土耳其ト戰ヲ交ユルコトヲ恐レテ此ザバロジヤ人^{即チシ}ノ進撃ヲ止メントスルニ及ンデ彼等ハ却テ自ラポーランドヲ擊ツニ至リシガ此運動ハウークレイン地方ノ奴隸ノ援助アリシト「エニエ」ト派ノ教會ノ輸入アリシトニ因リテ益勢力ヲ増シタリ蓋シ「ユニエ」派教會ノ

輸入スルヤ下デニーベル河邊ノ人民ハ其地ヲ遁レテザバロジヤ人ノ中ニ入りタレバナリ此ノ如クニシテザバロジヤ人ハ「エニエ」ト派及ビ「カトリック」派ニ對スル國民的宗教ノ戰士トナリ其首領コナシエウイチ、サガイダチニイハ十七世紀ノ始メニ於テ正統教會ノ監督教區ヲ建ツルコトヲ成功シタリ此ヨリ後ポーランドニ對シテ全ク反旗ヲ翻ヘシ其結果トシテ「ボグダン」グメルニスキイノ時ニ於テ纔ニ小露西亞ヲ擧ゲテポーランドノ羈絆ヲ脱シモスコイノ權下ニ移リタリ之ト同時ニ「シエチ」ハモスコイノ「ザル」ヲ認メテ君主トシタリシモ自ラザバロジヤ人ノ首領ナリト稱スル小露西亞ノ首領ニ服従スルコトヲ肯ンゼザリキ而シテ爾後年々此等ノ軍隊ハ小亞細亞ノ總テノ騷擾ニ與シ以テベートル大帝ノ世ニ至リ同帝ノ警戒ヲ聽カズ一七〇九年ニ於テチャールス十二世ヲ助ケ以テ帝ニ抗セントシタリ此過失アリシガ爲メニ「シエチ」ハ露西亞人ニ攻畧セラレザバロジヤ人ハ露國ニ入ルコトヲ禁セテレタリ是ニ於テ彼等ハグリミヤノ汗ニ從ツテ其用ヲ爲セシガ之ト同時ニ露國ト調和センコトヲ勉メタリサレドアンナ、イオアノヴナ女帝ノ世ニ至リテザバロジヤ人ニ新「シエチ」ヲ造ルコトヲ許スマデハ效ナカリキ此新「シエチ」

ハ昔シノ「シエチ」ト異ナルコト少カラザリシカドモ爾後引續キテ紛擾アリシト政
府ガ困難ヲ與ヘタリシ爲メ終ニ堅固ナル建設トナル能ハザリキ而シテ露國ハ其
ノクリミヤノ汗ヨリ侵襲ヲ蒙ルベキ危険ノ地ニ在ル間ハ猶ザパロジヤノ哥索克
ト絶ツ能ハザルノ事情アリシニクリミヤノ汗ハ一七六九年乃至一七七四年ノ諸
戦争ニ因リテ其ノ勢ヒ大ニ衰ヘ終ニ露國ニ征服セラル、ニ至リシヲ以テ一七七
五年露軍ハ「シエチ」ヲ占領シザパロジヤ哥索克ヲ壓伏セリ是ニ於テ或ハ土耳其ニ
遁ル、者アリ又「ドブルーヂヤ」ニ於テ「シエチ」ヲ造ル者アリ此「シエチ」ハ一八二八年
迄存シタリ其露國ニ止マリシ者ハ一七八三年ニ於テ黒海ノ諸隊ヲ構成シタリ
「シエチ」ニ屬セザリシ小露西亞ノ哥索克ハ「ボグダン」グメルニスキイノ時ニハ其數
甚ダ多クシテ三十四聯隊餘ヲ組織シタリシガ十八世紀ノ始ニハ其殘レル者十聯
隊ニ過キズ一七八三年ニ至リテ之ヲ騎兵ニ編成シタリ是レ今日既ニ存在セザル
西方哥索克ノ露國歴史上ニ於ケル著ルシキ状態ナリ
今日ニ現存スル最モ多數ニシテ最モ古キ哥索克兵ハ「ドン」ノ哥索克ナリ此哥索克
ハ十六世紀ノ終リニ於テ露國ノ全地ヨリ遁レ來リシ者ニ因リテ軍人社盟ヲ組織

シタル者ニシテ就中リザンノ哥索克ヲ多シトス而シテ此軍隊ハ一五七〇年ニ於
テ畏怖スベキジヨンヨリ特許狀ヲ得タリ始メニ於テ「ハドン」ノ哥索克ハ「ザパロジ
ア」ノ哥索克ノ如ク自由不羈ナル生活ヲ爲シ他ノ權威ニ服セザリキ其露國ニ屬シ
タル後モ彼等ハ猶自由不羈ナルコトヲ止ムル能ハズ殊ニ一六一二年ノ騷擾ノ時
ニ於テハ彼レハモスコ「ト」劫掠センガ爲メニ侵入シタリキ然レドモ「ベートル」大
帝ノ時ヨリシテ「ドン」ノ哥索克兵ハ數バ露國ノ帝室ニ對シテ忠義ト愛敬ノ情ヲ現
ハシ殊ニ一八一二年ヨリ一八一四年ノ間ニ於テ伯爵「ブラトツフ」ノ下ニ一層忠順
ヲ表シタリキ

第十六世紀及ヒ其一部ハ第十七世紀ニ於テ「ウークレイン」及「ビドン」ヨリ來リシ新
シキ移住民ハ「ヴォオルガ」イ「エイク」ア「ストラカン」及ヒ「グレベン」ノ哥索克兵ヲ組織シ
タリ而シテ一五八一年ニ於テ「シベリヤ」ヲ征服シタル「イエルマク」ノ哥索克隊ノ殘
存者ハ「シベリヤ」哥索克兵ノ祖先トナレリ

東方哥索克ノ著ルシキ所ハ其亞細亞ノ住民及ヒ遊牧民ノ露國ヲ侵サントスルニ
對シテ堅固ナル保障タルニ在リ彼等ハ絶ヘズ此等ノ蠻族ト戰ヒタルガ爲メニ軍

人タル氣慨ヲ養成シ艱難ニ慣レ外營ノ事務ヲ好ムニ至リ概シテ之ヲ曰ヘバ所謂小戰若クハ部分戰ニ於テ最モ適當シタル者トナレリ
 歲月ヲ經ルニ及ンテ哥索克兵ノ大部分ハ最始ノ狀態ヲ失ヘリ然レドモ政府ハ常ニ勉メテ其軍隊ノ組織ト軍人的精神トヲ保存セシメ騎兵トシテ常備軍ヲ助ケ此ノ如クニシテ多費ナル騎兵ノ事務ヲ減センコトヲ謀レリ現時ニ於ケル全帝國ノ哥索克ハ甚ダ廣濶ナル區域ヲ占メ之ヲ分チテ十一個ノ哥索克隊トナス西ヨリ東ニ之ヲ數フレバ下ノ如シドン、クীবアン、テレク、アストラカン、ウラル、オレンベルグ、セミレツエ、シベリア、トランスバイカル、黒龍江、ウースリイノ哥索克兵是ナリ其數最モ多數ナルハドン、クীবアン、オレンベルクノ哥索克兵ナリトス
 總テノ男子ハ悉ク兵役ノ義務アリテウ現時ノ兵制ノ原則ハ昔シヨリ哥索克ノ重要ナル法則トセシ所ナリ彼等ハ皆頗ル廣キ一定ノ土地ヲ頒與セラレ且種々ナル特權ヲ與ヘラレタリ而シテ之カ報償トシテ彼等ハ總テ軍人トシテ國家ニ事フベキ義務ヲ附セラル
 各哥索克隊ハ各其常備及ビ後備軍ヲ有ス常備哥索克兵ヲ分チテ三種トナス見習

兵、現役兵及ヒ豫備兵是ナリ十八歳ヨリ二十一歳マデノ哥索克ヲ見習兵トナシ二十一歳ヨリ三十二歳マデヲ現役兵トナス然レドモ其現役ニ服スルハ四年ニ過キズ此年期ニ在リテ現役ニ伏スル哥索克兵ヲ第一等ノ哥索克兵トシ各其軍服軍器及ヒ馬ヲ有ス
 三十三歳ニ至リタル哥索克兵ハ豫備ニ移ル而シテ三十八歳ニ至リテ後備軍オボルチエニエニ入ル
 總哥索克軍ノ總督ハ皇太子ニシテ、アタマン領首ノ稱ヲ帶ヒラル各哥索克軍ハ直チニ、アタマン代官ノ命令ニ服ス、アタマン代官ハ亦其地方ノ民政ヲ掌ル總督アル地方ノ哥索克軍ハ總督ニ屬シ特別ナル、アタマン代官アリテ其命令ノ下ニ執務ス
 戰時ニ於テハ哥索克ハ下ノ軍隊ヲ供給ス即チ親衛軍、百四十六個ノ騎兵聯隊、三十九個ノ騎兵方隊、二十個半ノ砲兵大隊ニシテ將校及ヒ兵士ヲ併セテ十七萬六千人ナリ而シテ平時ニ於テハ此聯隊大隊中隊ノ三分ノ一ノミ實役ニ服シ其他ハ兵役ヲ免除セラル
 哥索克兵ノ外猶高哥索及ヒ裏海外ノ地方土人ノ間ニ組織セラレタル常備軍ニ在

ヲサル各種ノ兵アリテ種々ノ名目ヲ帶フ其中ニハ專ラ地方ヲ防衛スルノ任務ヲ執ル者アリ恒久ニシテ一定ナル組織ヲ有スル者ニ非ズダゲスタン騎兵聯隊、クーバン、テレク、ダゲスタン、カルス、バツームノ民兵聯隊、トルコマンノ不規律ナル騎兵軍ノ如キナリ

第三章 陸軍々政ノ組織

帝國ニ於ケル總テノ軍隊ノ至高命令ハ皇帝陛下ヨリ出ツ
主權ハ陸軍ニ關シテハ陸軍大臣ノ執行ニ因リテ其意志ヲ示シ陸軍大臣ハ各軍區ノ軍政ヲ統轄シ兵士及ビ國家ノ軍隊ト防衛トニ必要ナル建設ヲ掌理ス
軍區ノ軍政ニ亞ギテ必要ナルモノハ組織セラレタル軍隊ノ指揮命令及ヒ軍事的建設ノ管理等ナリ
組織セラレタル軍隊ノ指揮命令ハ固ヨリ簡單ナルコトニシテ此處ニ記載スルノ要ナシ蓋シ軍事ノ性質トシテ指揮命令ノ事ハ常ニ一人ニ歸スベク其管理ノ下ニ在ル組織セラレタル軍隊ニ對シテ此一人ガ責任ヲ負フベキハ明白ナルコトナレ

バナリ小隊、中隊、大隊、聯隊、旅團、師團、軍團ノ指揮官ハ即チ此ノ如キ人ナリ
軍區ハ通シテ十三アリテ即チ聖ペートル、モスコウ、カザン、高加索、トルキスタン、オムスク、イルコスク、プリアムール、スタナリ、亞海外ノ地ハ此軍區ノ管理スル所ナリ既ニ記載シタルガ如ク地方ヲ分チテ管リト、哥索克ノ地方ハ特別ノ規則ニ依テ管理セラル區トセル者ニシテ其地方ニ存在スル總テノ兵士ノ指揮命令ハ軍區ノ指令官ノ手ニ歸セシムル者ナリ
而シテ此軍區司令官ノ事務タル極メテ複雑ナル者ニシテ唯リ兵士ノ管理ノミナラズ軍政ノ各部ヲ司ドルヘキモノタルヲ以テ多クノ官職ト部局トヲ統率シ之ヲシテ自己ノ管理ノ下ニ其權限ニ從ツテ執務セシムルノ必要アリ是ヲ以テ各軍區ノ副官及ビ主糧官、砲兵局、工兵局、軍醫局及ビ一個ノ軍事裁判所ヲ有ス
又軍區ノ軍事會議ナル者アリ軍區中ノ軍事經濟ニ關スル最上ノ官局ニシテ軍區各部局ノ長官及ビ一個ノ陸軍大臣ノ代表者ヲ以テ構成シ軍區司令官若シクハ其補佐官ヲ以テ議長トス
軍區ニ於ケル軍區官ノ關係ハ帝國ニ於ケル陸軍省ノ關係ニ均シ軍區官ハ陸軍省ノ如ク總テ其下ニ於ケル地方機關ヲ指揮シ軍政ノ各部分ヲ監督ス

陸軍省ノ頭首ハ陸軍大臣ナリ陸軍大臣ハ軍政ニ關スル總テノ事件ヲ皇帝ニ奏上シ勅命ニ署名シ皇帝ノ命令ヲ總テノ武官ニ告示ス

陸軍省ハ其權限及ヒ組織ニ差異アル諸部局ニ分ツ其最上級ノ官職ニアリ即チ陸軍會議及ビ高等陸軍裁判所是ナリ陸軍會議ハ軍事上ノ總テノ立法事務及ビ經濟事務ヲ協議ス軍律ニ關スル立法ノ事務ニ關シテハ直チニ皇帝ノ監督ヲ受ク其他ノ決議ハ樞密院ニ提出セラル經濟上ノ事務ニ關シテハ大抵自己ノ委任セラレタル權利ニ因リテ之ヲ決ス

陸軍會議ハ直チニ皇帝ニ隸シ陸軍大臣ヲ議長トシテ集會ス

陸軍會議ニ附屬スル二個ノ至高ナル委員會アリ一ハ陸軍法典委員ニシテ專ラ法律上ノ問題ヲ詮議シ陸軍ノ法律規則ハ六部二十四卷ノ成典トシテ既ニ出版セラレタリ他ハ軍事衛生ノ委員ナリ

陸軍省ニ於ケル他ノ至高ナル官職ハ高等陸軍裁判所ニシテ即チ軍事裁判ノ上告ヲ受クル所ナリ且一般ニ軍事裁判所ニ關スル法律案ヲ審査ス

此外陸軍省ニ於テ軍事ノ中樞タルベキ官職ハ專ラ軍務ノ統治ニ關スル者ナリ此類ノ第一ハ即チ大副官ニシテ軍隊將校ノ分屬及整備ニ關スル事務其組織訓令分

配及ビ經濟ノ事ヲ掌ル次ハ即チ官房ニシテ大臣ノ直接ニ決スベキコト及ビ陸軍會議ニ關スルコトヲ掌ル軍政ノ各部ニ關シテハ軍區ニ於ケル各種ノ主務部局アリ即チ(一)主糧官(二)砲兵局(三)工兵局(四)陸軍々醫局(五)陸軍教育局總テ軍事教育上ノ設備ヲ管理ス但シ陸軍大學士官學校特別ノ諸學校等ノ大副官ニ屬スルモノ及ビ砲兵局工兵局ニ屬スル學校等ハ此限ニ非ス(六)哥索克兵事務管理局(七)軍事裁判局(軍事法律官ノ管理スル處ニシテ恰モ軍事裁判ノ一省ヲ爲セシガ如ク總テノ軍事法律官ト軍事裁判所トヲ管理スル者ナリ)等ナリ

皇帝ハ軍隊ノ大元帥ナルガ故ニ其命令ヲ奉宣シ特別ノ訓令ヲ行フベキ官職アリテ之ニ附屬ス此官職ハ即チ皇帝ノ副官ニシテ總督及ビ副總督勅撰任ノ將官佐官及ビ其他ノ士官ヲ以テ之ヲ構成ス皇帝陛下ノ副官ハ又其事務局ト皇帝陛下ノ親兵即チ護衛兵トヲ有ス其總督ノ任務ハ皇帝ノ行幸ニ關スル總テノ事務ヲ整理シ陛下ノ副官ヲ分配シ彼等ニ適當ノ準備ヲ與フルニ在リ皇帝行幸ノ時陸軍大臣若シ隨行セザル時ハ總督ハ軍事ニ關スル勅命ヲ奉宣シ之ヲ陸軍大臣ニ報告ス

軍政ノ下ニ統轄スル人物及ビ各種ノ必要物ハ其數甚ダ巨大ニシテ完全ナル組織

ニ因リテ其特殊ノ要求及ビ必要ヲ充サシメザルベカラス唯歳入ノ殆ント四分一
(即チ二億八千八百萬ルーブル)ガ軍事ノ費用ニ供セラル、コトヲ記セバ以テ其事
情ヲ知ルニ足ラン

軍政ノ中ニ於テ第一ニ切要ナル者ハ軍隊ヲ構成スル幾百千ノ人物ノ爲メニ糧食
ヲ供スルニ在ルハ勿論ノ事ナリ而シテ此目的ノ爲メニハ糧食及ビ馬糧ノ充分ナ
ル量ヲ備フルヲ要ス是固ヨリ容易ナル業ニ非ラス數バ凶歉ニ因リテ其價格ノ不
廉ナルコトアレバ主糧官ヲシテ困難セシメ通常ノ契約者ヨリ買ハズシテ特ニ委
員ヲ派シテ買ハシムルコトアリ且些少ナル價格ノ差違モ糧食及ビ馬糧ノ總計甚
ダ鉅大ナルガ故ニ通計ノ差ハ極メテ多大ナル何トナレバ糧食ハ四千萬ルーブ
ルヲ要シ馬糧ハ千六百萬ルーブルヲ要スレバナリ而シテ數バ價格ノ變動ノ著ル
シキコトアリ例ヘバ一八八一年ノ如キ之チ一八八八年ニ比スレバ一般糧食ノ價
ノ不廉ナルコト殆ンド二倍ナリキ

監督官即チ主糧官ニ因リテ準備セラレタル糧食ハ之チ特別ノ倉庫ニ藏ス動員ノ
時ニ於ケル豫備ノ爲メ頗ル多量ナル糧食ヲ國境地方ニ貯フ而シテ此糧食ヲシテ

常ニ新鮮ナラシムルハ甚ダ難事ナリトス麵粉ニテハ腐敗シ易キ者アルヲ以テ麵
包ト爲スベキモノ、一部ハ常ニ之ヲ麥粒ニテ蓄ヘ必要ノ時ニ於テ之ヲ軍用蒸氣
麵包製造所ニ送り同所ニアル焙竈ニ於テ麵包トナス

衣服及ビ靴等ノ準備モ亦之ニ比シテ容易ナル事務ナリト云フベカラス此目的ノ
爲メニ要スル年額二千萬ルーブルニ及ブコトヲ思ヘバ蓋シ之ヲ推知スルニ難カ
ラザルナリ而シテ猶ホ兵器銃砲彈藥等ニ關シテ軍隊ヨリ不斷ノ要求アリ

一八七七年乃至一八七八年ノ土耳其トノ戰爭ニ因リテ露軍ハ其ノ軍隊ノ總テノ
材料及ビ軍器ノ或ハ不必要ナル者アリ或ハ甚ダ不完全ナルヲ發見シタリ前帝ア
レキサンダー三世ハ此事實ヲ知リシヲ以テ其ノ治世ノ間常ニ心ヲ城砦ノ改築武

器ノ改良軍隊ノ編制改良及ヒ練兵ノ改良等ニ用ヒタリキ 註先帝ノ治世ノ間此改築ヲ
監督シタル者ハ陸軍大臣ヴ
アンノフスキ
イ將軍ナリキ

ルニ上リシガ如キ最近式ノ施條銃ヲ以テ軍隊ノ武器ヲ改メンカ爲メニ最近數年
間ニ費セシ所ノ高二千三百萬乃至三千四百萬ルーブルニ及ビシガ如キ以テ十分
此事實ヲ證スルニ足レリ

銃及ビ彈丸等ヲ總テ私立ノ製造所ニ依托スルハ蓋シ爲シ得ベカラザルコトナリ
 何トナレバ此ノ如キ製造所ハ存在セザルノミナラズ假令ヒ存在ストモ其ノ數甚
 ダ僅少ナレバナリ且其物ノ種類ニ因リテハ國家ノ利益ノ爲メニ之ヲ一個人ニ委
 托シ難キ者ナキニ非ス即チ最近式ノ新施條銃及無煙火藥ノ如キ是ナリ是ヲ以テ
 軍事上ノ權力者ハ自ラ其製造所及ヒ火藥庫ヲ有シ其複雜ナル事務ヲ處理セザル
 ベカラズ新式施條銃ノ製造所ハ三個所アリテ其最モ著名ナル者ハツォーラノ製造
 所ナリ此外聖ペートルスボルグ銃砲製造所ニハ三個ノ火藥及ヒ綿火藥製造所火
 藥包子及ヒ火箭製造所アリ聖ペートルスボルグブリアンスク、キープニハ各火藥
 庫アリ

土功ニ關スル陸軍官吏ノ職務モ其複雜ナルコト主糧局ノ事務ニ異ナラズ即チ城
 砦屯營及ビ所謂戰術上ノ道路ノ建設等皆其司トル所ナリ陸軍大臣ハ又今日モ猶
 武官ノ指揮ノ下ニ在ル裏海外ノ鐵道ノ如キ全線路ヲ建設ス地方ニ因リテハ其行
 政スラ陸軍大臣ノ管轄ニ屬スル者アリ殊ニ中央亞細亞ノ國境ニ接近シタル地方
 即チ裏海外ノ地方トルキスタン、バイカル湖外ノ地方并ニ其住民ノ重モニ哥索克

タル地方即チドンドン、テレク、グーバン等ヲ然リトス故ヲ以テ軍政ニ從事セントスル
 者ハ甚ダ廣濶ニシテ且多種ナル智識ヲ有ス是レ軍事教育ノ完全ナル組織ヲ設ク
 ルノ必要アル所以ナリ

先ツ第一ニ軍隊ノ道徳上并ニ戰鬪上ノ品位ハ專ラ善キ士官下士官ヲ得ルト否ト
 ニ關ス而シテ是ノミニテハ未ダ十分ナリトスベカラズ凡ソ新募ノ兵ハ少クトモ
 多少ノ初歩教育アルニ非レバ善キ兵士タルコト能ハス此理由アルガ爲メニ兵役
 ハ國民ノ教育ニ大補助ヲ與フル者ナリ國民ノ發達著ルシカラザル地方ニ於テハ
 其効特ニ大ナリトス露國ニテハ兵役ニ就ク者ノ殆ント百分ノ七十五ハ書ヲ讀ミ
 字ヲ書スル能ハザル者ナリ他語ヲ以テ之ヲ曰ヘバ年々徵募セラレテ兵士トナル
 二十六萬五千人ノ中二十萬人ハ全然タル無教育ノ狀態ニ在ル者ナリ

而シテ此ノ如キ徒ノ軍隊ニ入ルヤ其屬スル小隊若シクハ分隊ニ於テ書ヲ讀ミ字
 ヲ書スルコトヲ教ヘラレ且一個人ニ必要ナル智識ヲ與ヘラル即チ一定ノ祈禱文
 ノ如ク兵士タル職務ノ意義ノ如キ宣誓ノ如キ旗幟ノ如キ皇族ノ尊稱ノ如キ是ナ
 リ此ノ如クニシテ強迫的兵役ノ法八年々二十萬ノ人口ヲシテ其無學ノ狀態ヨリ

書ヲ讀ミ字ヲ書シ得ル者ニ變セシム
 少シク學力アル兵士ノ中ニハ小隊學校ニ遣ハサレテ算術并ニ讀書習字ヲ學バシ
 メラル、者アリ
 兵士ノ中ヨリ特ニ下士官ヲ養成センカ爲メニ各聯隊ハ教育特別隊即チ教育分隊
 ナ有ス
 最後ニ下士官ノ外軍隊ハ猶將校兵士ノ間ニ在リテ必要ナル職務ヲ充タスベキ補
 助官アルヲ要ス聯隊附書記即チ「フエルドシエル」軍醫補助等はナリ是皆或ル準備
 ト教訓トヲ要スル者ニシテ之ガ爲メニ各特別ノ學校ヲ設ク哥索克兵ノ地方ニ於
 テハ陸軍大臣ハ軍人商業學校ヲ設ケタリ
 士官タル準備ヲ爲サントスル青年ヲ教育スル學校ハ之ヲ三種ニ分ツ其中ニハ唯
 軍隊ノ一部分ニ從事スルニ必要ナル初歩ノ教育ヲ授クル者アリ步兵騎兵哥索克
 ノ幼年學校ノ如キ是ナリ而シテ兵學校ナルモノハ兵學ノ教訓ニ付テ幼年學校ニ
 比スレバ頗ル高尙ナリ此ノ學校ハ步兵二校砲兵二校騎兵工兵軍事地圖掛リノ
 爲メニ各一校アリ

兵學校ニ入ルベキ豫備ノ教育ハ二十三團ノ士官志願生ニ授クル者ニシテ其ノ課
 業ハ七年間ヲ要シ近世文藝學校ニ於テ與フル教育ノ性質ヲ兼ネ有スルモノトス
近世文藝學校ハ古文文藝學校ト異ニシテ
 希臘羅馬等ノ古語ヲ教授セザルモノナリ

士官志願者團ノ中ニ兵學校ノ教育ニ代ハルベキ特別ノ學級ヲ加フルモノニアリ
 即チ從士團及成業團是ナリ從士團ハ國家ノ官吏タルモノ、子ヲ教育スル所ニシ
 テ此團ヲ卒業スルモノハ近衛隊ニ屬セシムルヲ常トス

軍事教育ノ第三種ハ兵事ノ各特別ナル部門ニ關シテ最モ高等ナル教育ヲ士官ニ
 授クル陸軍大學ナリ其第一ハ即チニコラス大副官大學校ニシテ測地部ナル者之
 ニ附屬ス之ニ亞グモノハミカエル砲兵科大學校ニコラス工兵科大學校軍事法律
 大學校ナリ數年間勤務シタル上席士官ハ試験ヲ經テ大學校ニ入ルヲ得學年ハ二
 乃至三年ニシテ終リ之ニ附屬スル補科アリ露西亞帝國ノ東界ニ於テ勤務スベキ
 士官ノ準備トシテ三年間東洋語ヲ學バシムル學校アリ而シテ此ノ學校ハ外務省
 ノ事業ト關係ス

上ニ記載シタル學校ノ外ニ三個ノ學校アリテ各種ノ武器ニ關スル完全ノ智識ヲ

士官ニ與ヘ彼等ヲシテ編成軍隊ノ中ニ獨立ノ位置ヲ保タシムルノ準備トス即施
條銃學校騎兵學校及ビ砲兵學校ニシテ砲兵學校ハ專ラ實地砲發ノ法ヲ研究シ城
砦部アリテ之ニ附屬ス騎兵學校ハ騎兵及ビ鐵工トシテ精練ナル下士官ヲ養成ス
工兵部ノ中ニハ士官ノ爲メニ設ケタル電氣學課アリテ或程度マデ士官學校ノ用
ヲ爲ス

下ハ即チ上ニ記載シタル諸學校ノ定員ナリ

二十三個ノ士官志願者團

八、一三五人

註此外ゾオルフクニ士官志願者ノ學業不完全ナルモノヲ教ユル一個ノ學校

アリイルコースク、カーバロヴスクニ於テ二個ノ學校アリナムスクノ士官

志願者團ヘ入學スベキ上席士官ノ子ヲ教育ス

十四個ノ幼年學校

三、五九〇人

七個ノ兵學校

二、〇四五人

四個ノ士官學校

二七〇人

四個ノ大學校及ビ東洋語學校

五七〇人

合計

一四、五四九人

一八九三年ニ於テ此等ノ諸學校ヲ卒業シテ士官トナリシ青年ノ數二千三百七十
二人アリ而シテ前年間ニ士官ノ減員千六百五十一人ニ過ギズ因是觀之軍事教育
ノ諸學校ハ十分ニ需用ヲ充シ得ルナリ

陸軍省ガ軍事教育ニ支出スル所ノ金額ハ總計九百萬ルーブルニ及ブ

軍隊ノ數甚ダ鉅大ナルヲ以テ此外猶軍隊ニ關スル二個ノ重要ナル問題アリ即チ
軍隊中ノ健康ヲ維持スルコト及ビ病者ヲ看護スルコト是ナリ

最近數年間ニ於ケル軍隊中疾病者ノ平均ハ日々二萬五千人ナリ而シテ之ヲ處理
看護セン爲メニ二十五ノ常設病院及總數二萬八千ノ寢床ヲ有スル百六十五ノ避
病院アリ避病院ノ存セザル地ニ於テハ軍隊中ニ之ヲ設ク戰時ニ在リテハ病者ニ
對スル此等ノ供給ノ外ニ野戰病院及ビ城砦病院赤十字社ノ軍營病院等ノ著シキ
數ヲ加フ

現今不完全ヲ感ズルモノハ軍醫藥劑師獸醫及ビフェルドシエルス即チ軍醫補ノ
數比較的ニ少數ナルコトナリ今日ト雖モ陸軍ニハ軍醫大學校アリテ七百五十人

ノ生徒ヲ有シ軍醫補ノ學校モ亦數個ヲ有スレドモ其ノ數猶ホ年々不足ヲ告ケツ
ハアリ

然レドモ一方ニ於テ軍隊ノ健康ハ前數年ヨリモ進歩シタルガ如ク現世紀ノ第四
十年間ハ軍隊ニ於ケル死者ノ比例年々千人ニツキ三十七人ノ多キヲ見タリシガ
爾來其數ヲ減ジ一八九二年ニハ虎列拉病ノ流行アリシニモ關セズ死者ノ比例千
人ニ付九人ニ上ラザリシ今之レヲ歐洲諸國ニ比スレバ其數猶甚ダ多シト曰ハザ
ルベカラズ例令バ日耳曼ノ如キハ一八八〇年及ビ其翌年ニ於テ死者ノ數千分ノ
三ニハ上ラザリキ

此處ニ軍事ニ關スル恩惠的諸制度ニ就テ數言ヲ費サザルベカラズ

此種ノ設備中最モ重要ナル者ハアレキサンダー帝傷兵委員ニシテ一八一四年ニ
設ケラレシモノナリ此目的トスル所ハ戰場ニ於テ若シクハ其他職務ノ爲メニ傷
痕ヲ蒙リタル士官或ハ個人ヲ保護スルニ在リ此委員ノ議長ハ太公ミハイルニコ
ライヴィツチニシテ其保護法ハ重ニ病兵資金ノ中ヨリ年金ヲ與フルニ在リ且傷
兵ノ爲メニ保養所ヲ給シ或ハ之ニ各種ノ職務ヲ與ヘ居室ヲ賃借シ婢僕ヲ雇ヒ傷

痕ヲ醫療スル等ノ爲メ金錢上ノ補助ヲ與フアレキサンダー委員ノ管理ニ屬スル
保養所ハ其數甚ダ多シ其最モ重要ナル者ハ四百七十六人ノ寄宿者ヲ置キ得ベキ
聖ペートルスボルグノチエスマ保養所四百五十八人ノ寄宿者ヲ置キ得ベキモス
コーノイスメイル保養所ナリ其大ナルヨリ曰ハバ此等ノ保養所ハ五千ノ病者ヲ
置キ得ヘキ有名ナルハリノ病兵寄宿舎ニ亞グモノニシテベルリン及ビヴインナ
ノ病兵舎ヨリモ大ナリ而シテ此等ニ亞グモノハ五十人ノ寄宿者ヲ置キ得ベキブ
スコツフノ政廳所在地ボルクホツフ地方ノ病兵保養所及ビ各種ノ人物ト事件ト
ニ應スベキ多數ノ房舎並ニアレキサンダー委員ノ管理ニ屬セザル種々ノ小サキ
慈惠病院アリ

病兵ニ對スル政府ノ處置ハ唯彼等ヲシテ病院及ビ保養所ニ入ラシムルニ止マラ
ズ多クノ兵卒ハ毎月三「ルーブル」ノ金ヲ國庫ヨリ受ケ或ル者ハ政府ヨリ一定ノ給
料ヲ受クル信ズベキ人物ノ保護ヲ受ケ

第四章 海軍

露國ノ海軍ハペートル大帝ノ創メシ所ナリ一六八八年モスコイニ近キイスメイ
 ロフスキイ村ニ於テ帝ハ其曾祖父ニキタイヴノヴィチ、ロマノフノ亞麻倉ヲ檢閲
 シタリシガ倉中ニ一小船アリキ是レロマノフガ或ル英人ヨリ贈物トジテ受ケタ
 ルモノニシテ「ザル」アレキセイ、ミハイロヴィチノ舟遊ノ爲メニ用ヒシ所ノモノナ
 リ此古小船ハカルストンブランツト曰ヘル和蘭人ニ因リテ修覆セラレヤウーサ
 河ニ浮ビタリシ當時ペートル帝ハ熱心ニ帆ノ功用ト楫ノ活動トヲ注視シ遂ニ命
 ナ下シテペレヤスラフ湖ニ於テ數個ノ船ヲ造ラシメ同所ニテ自ラ斧ヲ取ツテ造
 船ニ従事シ須臾ニシテ小船ノ艦隊ヲ湖上ニ浮ブルニ至レリ尋テ一六九三年乃至
 一六九四年ノ間ニ於テ帝ハアルチヤンセルニテ始メテ或ル英國ノ船ヲ見歐洲ト
 ノ交通ヲ更ニ便ナラシメンガ爲メニ艦隊ヲ造ラント欲スルノ念ヲ起シタリ始メ
 テ海上ヲ航行シタル船ハ北ドヴィナニテ造ラレ帝ハ同所ヨリ聖ペートル號ノ快
 艇ニ乗ジテ白海ニ航シソロベツク島ヲ訪ヒシニ歸航ノ途次風波荒クシテ船將ニ
 覆ラントシタリシニ帝ハ少シモ恐ル、所ナカリキ而シテ之ト同時ニ帝ハ帝國ノ
 一端ニ於テモ艦隊ヲ創設セントシタリ帝ハヴオロネジュヲ觀察シ其附近ノ地ニ

許多ノ材木アリテ十分ナル供給ヲ造船業ニ與フルコト及ビヴオロネジュ河ノ航
 行スベキコトヲ知り同所ニ於テ造船業ノ基礎ヲ置キ帝ノ親シク見ル所ニテ船ヲ
 造リ大ナル成功ヲ爲シタリ一六九六年ニ至リテ一ノ大船二ノ火船二十三ノ帆船許
 多ノ「コサツク」小船ニ因リテ成リシ新艦隊ハ善ク土耳其軍ニ對シテドニ河口ヲ封
 鎖シアゾフノ陷落ニ助力スルコトヲ得タリキ此ノ如ク帝ハ艦隊ノ有功ナルヲ知
 リシヲ以テ特ニ之ヲ増加スルヲ以テ念トシタリ帝ノ和蘭ニ在リシヤ(一六九七年
 乃至一六九八年)自ラ木匠ノ業ヲ取リテ實地ニ造船業ヲ觀察シ其英國ニ在リシヤ
 此業ニ關スル學理上ノ智識ヲ得且國家ノ海上權ニ關スル事ニ付テ發見スル所多
 カリキ帝ハヴオロネジュヲ忘ル、コトナク數バ訓令ヲ送リタリ然レトモヴオロ
 ネジュ及ビ其ノ他南方ノ埠頭ニテ造ラレシ艦隊ハ不幸ニモ其ノ製造ニ用ヒシ材
 質惡シカリシカバ永續スル者ナカリキ而シテ此艦隊ハ一七一一年ブルートノ戰
 役ニ於テ終ニ最後ノ打撃ヲ蒙リタリ當時露國ハ講和ノ條約ニ因リテアゾフヲ失
 ヒタリシモ幸ニ裏海ノ小船艦隊ハ猶殘存シタリシカバ波斯モ露國ノ戰ニハ其用
 ヲ爲シキ南方ニ於テ艦隊ノ狀況此ノ如クナルニ反シ北方ニ於ケル我艦隊ハ漸ク

發達セリ一七〇二年ニ於テ帝ハ勅令ヲ發シシアスニ於テ一船ヲ作り敵國タル瑞典ノ軍隊ヲ擊退スベキコトヲ命ジタリ其後一七〇三年ニ至リテ始メテバルチツク艦隊ノ中軍旗ト名ヅクル帆船ノ中艦ヲスウイル河畔ノナロネツツニ造リタリシガ尋デ數個ノ他ノ船モ亦同所ニテ造ラレタリ同年ニ於テ船長ペートルナルモノ十八ノ砲ヲ備ヘタル瑞典ノ船ヲ燒打シ之ヲ掠奪セリ是レ幼稚ナルバルチツク海艦隊ノ最初ノ事業ナリキ船長ペートル及ビ其副タリシメンズチコツフハ之ガ爲メニ聖アンドリウノ勳章ヲ授ケラレタリ此勝利アリシ後須臾ニシテ聖ペートルスボルグノ都ハ建ラレタリ而シテ造船業ハ同所ニ於テ新ラシキ基礎ニ因リテ倍増加セリ始メバルチツク海艦隊ハ專ラ防衛ヲ主トセシ者ナリキ然レトモ一七〇八年ニ至リテ此艦隊ハボルゴ上陸兵ト共ニ敵國襲撃ニ從事シ尋デヴィボルグノ城砦ヲ陷落セシ時有功ナル補助ヲ陸兵ニ與ヘタリ之ト同時ニ船艦ノ製造武裝及ビ其他ノ裝置ニ關スル事業ハナロネツツ新ラドガ聖ペートルスボルグアリチヤンセルニ於テ皇帝ノ監督ノ下ニ日々進歩シタリキ且英國及ビ和蘭ヨリ數個ノ船艦ヲ購求シタリ我等ハ一七二一年ニスタッドノ講和ト共ニ終リタル北方

戰爭ノ間バルチツク海艦隊ノ爲シタル成功ニ就テ評論セザルベシ然レトモ此成功ハバルチツク海艦隊ガ其幼稚ノ時代ヨリ當時世界ニ於ル第一等ノ海軍力ヲ有スル敵國ノ艦隊ト抗戰シ十九年間善ク其面目ヲ維持シタルモノナルコトヲ思ヘハ甚ダ著シキ者ナリト曰ハサルベカラズペートル大帝カ一七二五年ニ於テ歿シタリシ時露國ハバルチツク海ニ三個ノ埠頭聖ペートルスボルグ、クロンスタッド、レヴァルチ有セリ而シテ自己ノ船匠ト勞動者トヲ用ヒテ造船ニ從事セリ今茲ニ不用ニ歸シタルヴオロネジュ船艦ヲ計算以外ニ置キ當時ノ船艦ハ實ニ裏海ニ一〇ノ船舶バルチツク海ニ四十ノ軍艦十ノ中軍艦殆ント百ノ小船及ビ帆船アリキ最初ノ船長ハ外國人殊ニ和蘭人ナリキ然レトモ露國人ヲシテ船長タリ士官タル教育ヲ受ケシメンガ爲メニペートル帝ハ數年間少年貴族ヲ英國、和蘭、佛蘭西、伊太利、ヴェニスニ遣ハシ以テ實地ノ教育ヲ受ケシメタリ同ジ目的ニテ帝ハモスコノスーグハレツフ城ニ數學及ビ航海術ノ學校ヲ設ケ聖ペートルスボルグニ三百人ヲ教育スベキ海軍大學校ヲ設ケタリ直ニペートル帝ノ後ヲ承ケタル數帝ノ治世ノ間我が海軍ノ勢力ハ衰ヘタリ而シ

テカテリン二世ノトキニ至ルマデ露國ハ始終第一等ノ海上權タル能ハザリキカ
 テリン女帝ハ其ノ帝位ニ即クト共ニ皇太子ヲ以テ海軍總督ニ任ジ平時及ビ戰時
 ノ海軍設備ニ關スル諸法律ヲ定メタリ此諸律ノ要旨ハ結局露國ノ艦隊ハ唯丁抹
 瑞典ノ各艦隊ニ敵對シ得ルヲ以テ可ナリトシ軍艦ノ數ニ於テハ之レヨリモ更ニ
 強大ナラザルベカラズト云フニ在リ我等ハ今此處ニカテリン大女帝ノ治世ニ於
 テ露國ガ得タル大勝利ヲ數フベシチエスマ、チツチヤユツフ、ボツチランド、ロツチ
 エンサルムノ諸勝利ハ殊ニ常ニ露國ニ不朽ノ光榮ヲ與ヘタリト云フヘシ我海上
 權ノ發達ニ關シテハ黑海艦隊ノ建設ハ殊ニ重要ナル者ナリクリミヤ征服ノ後一
 七八三年ニ於テカテリン女帝ハ黑海艦隊ノ組織ヲ以テ其第一等ノ義務トナシタ
 リ黑海ノ重ナル埠頭ハセバストポールニ建テラレタリ而シテ一七八七年ニ於テ
 女帝ハ同所ニ於テ新シキ艦隊ヨリ發スル百雷ノ轟ク如キ祝砲ヲ受ケタリ此艦隊ハ
 其後土耳其ト戰ヒテ許多ノ華麗ナル勝利ヲ得タリカテリン二世ニ繼ギシパウ
 帝ハ海軍總督トシテ海軍ノ進歩ト組織トニ關シ多クノ勤勞ト思慮トヲ費セシガ
 一七九七年ニ至リテ新令ヲ發シ百門ノ砲ヲ備フル十二個ノ軍艦七十四門ノ砲ヲ

備フル三十六個ノ軍艦六十六門ノ砲ヲ備フル十二個ノ軍艦四十五ノ中軍艦其他
 ノ小船ヲ以テ艦隊ヲ組織スルコトヲ令シタリ
 此規則ニ定メタル數ハアレキサンダー一世ノ時ニ於テ多少減ジタリ是レ事實ニ
 於テハ文書ニ記載セラレタルヨリモ艦隊ノ數少カリシカ爲メナリ猶ホ之ト共ニ
 海軍ノ構成水先案内者ノ教育及ビ海軍砲術ニ關シテ改革スル所アリキ尋デチコ
 ーツク海ニ特別ノ小艦隊ヲ建テタリ(今日ノシベリヤ艦隊是ナリ)漁船ハ一八一七
 年ニ於テ始メテ造クラレタリ然ル後露國船ハ始メテ世界ヲ一週セリクルセン
 テルンハ一八〇三年乃至一八〇六年ニ於テ三桅船希望號ニ乗ジテ此種ノ第一航
 海ヲ爲シタリ科學上ノ目的ノ爲メニ航海モ亦増加セリ(一八一五年乃至一八一八
 年ノコツゼブエ一八二三年乃至一八二六年ノコツゼブエ及ビレンズ一八一九年
 乃至一八二一年ノベリングシヤウセン)ニコラス一世ノ帝位ニ即クニ及ンデ海軍
 ノ組織ハ愈發達セリナヴァレンノ光榮アル戰爭(一八二七年)ノ後帝ハ帝國ノ海上
 權ヲ堅固ナル基礎ノ上ニ置キ獨リ歐洲強國ノ一ト力ヲ角スルニ足ルニ止ラザラ
 シメントシ終ニ事業ニ於テ現世紀ノ第四十年目ノ終ニハ我海軍ハ百二十個ノ各

種ノ軍艦ヲ以テ諸海殊ニバルチツク海及ビ黒海ニ分配スルニ至レリ
 然レトモ露國ニ取リテハ不幸ニモクリミヤノ戦争ハ始マレリ此戦争ハシノープ
 ニ於テ若シクハセバストポールノ防禦ニ於テ我水兵ノ勇敢ヲ示シタリト雖モ而
 モバリノ條約(一八五六年)ハ露國ノ艦隊ヲ黒海ニ保有スルノ權ヲ奪ヒ唯防禦ノ爲
 メニ最モ少數ノ艦船ヲ存セシメタリ而シテバルチツク海ノ艦隊ハ依然タルノミ
 ナラズ特別ノ注意ヲ加ヘテタリ一八六三年ニ於テ水師提督コンスタンタイン
 ニコライヴツチ太公ノ指揮ノ下ニ露國ハ甲鐵艦ノ製造ヲ始メタリ太公ノ目的ハ
 露國ヲシテ始メヨリ鐵及甲鐵艦ノ製造ニ關シテ他國ヨリ獨立ナラシメントスル
 ニ在リキ同海軍ハ再ビ完全ニ再興セラレタリ新シキ船艦ト製造所トハ建テラレ
 タリ而シテ全ク新シキ製造業ハ起リタリ一八六一年ヨリ海軍ノ砲術ハ全然一變
 セリ古風ナル(フトーチロージングガンス)銃砲ハ次第ニ新式ノ施條銃ニ易ヘラレ
 タリ始メニハ海軍ノ有權者ハ此點ニ關シテクルツプ會社ノ補助ヲ假ラザルヲ得
 ザリキ然レトモ、チブーコツフ製造所ノ起ルニ及ンデ此ノ如キ必要ナキニ至レリ
 一八七一年ニ至リテ露國ハバリ條約ニ因リテ課セラレタル黒海艦隊ノ制限ヲ放

擲セシモ不幸ニシテ爾後間モナク土耳其トノ戦争起レリ當時黒海ニ存シタル露
 國ノ艦隊ハ僅カニ海岸防禦ノ爲メニ備ヘタル二個ノ「ウエツセル」大船ボ、フカス
 一個ノ「ヨット」形船九個ノ「スクーネル」形船二十個ノ各種蒸氣船及ビ四個ノ浮砲臺
 アルノミ然レトモバフノツフ、シエスクコツフ、スクリドロツフ、其他諸將ノ功勳ニ
 因リテ戦争中善ク有力ナル土耳其艦隊ノ動作ヲ拘制スルコトヲ得タリ
 先帝アレキサンダー三世ノ治世ニ於テバルチツク海ニ於ケル我艦隊ノ發達及ビ
 黒海ニ於ケル我艦隊ノ再建ハ水師大提督アレキセー、アレキサンダーウイチ太公ノ
 指揮ノ下ニ海軍大臣提督セスタコツフ同チツクハットコフノ補助ヲ以テ大ナル
 進歩ヲ爲シタリ一八八一年ヲ始メトシテ多數ノ甲鐵艦及ビ巡洋艦ハ造ラレタリ
 水雷艇モ亦一八七八年ニ始メテ露國ニ備ヘラレシヨリ次第ニ増加セリ一八八五
 年ニ至リテ海軍ノ法律及ビ海軍軍政ニ關スル重要ナル規則ハ改正セラレタリ
 今日ニ於テ我艦隊ハ六個ノ「ヨット」形船十五個ノ戰艦甲鐵艦二十三個ノ海岸防禦
 甲鐵艦二十三個ノ巡洋艦六十六個ノ水雷巡洋艦及ビ其他ノ水雷船二十五個ノ砲
 艦四個ノ練習艦九十七個ノ水雷艇ニ因リテ成ル但シ此外各種ノ運送船及ビ海岸

船ハ此中ニ加ヘズ（現今製造中ノ艦ハ三個ノ戰艦甲鐵艦一個ノ海岸防禦艦四個ノ巡洋艦二十數ノ點ヨリ曰ヘバ露國ノ海軍ハ英國及ビ佛國ニ亞ギテ歐洲諸國ノ第三位ニ在リ以太利ト獨逸トハ水雷船ノ數ハ露國ニ勝レトモ甲鐵艦ト巡洋艦トノ數ハ露國ヨリモ少シ）

我國ノ義勇艦隊ハ全ク特別ナル位置ヲ我海軍ニ有シ平時ハ純然タル商業ニ從事ス此艦隊ノ始メテ生ゼシハ一八七八年ニ在リ當時戰爭將サニ開カントシタリシカバ巡洋艦トシテ用ユベキ速力ノ大ナル汽船ヲ作ラントシ寄附金ヲ募リシコトアリ始メハ「コヘツク（ルーブル）」ノ百分一ノ堆積セルニ過ギザリシガ漸ク進デ幾十萬ノ「ルーブル」トナリ一八七八年ノ九月ニ至リテハ其數三百萬「ルーブル」ニ超ヘシカバ直チニ此金ヲ用ヒテ三個ノ遠洋航海ノ汽船ヲ作り艦隊ノ中ニ編入シタリ然ルニ戰爭ノ危險モ過ギ去リシヲ以テ此三個ノ汽船ハ義勇艦隊委員ノ手ニ送リ土耳其ヨリ我艦隊ヲ輸送スルノ用ニ供ヘラレタリ一八八〇年乃至一八八一年支那ト政治上ノ葛藤ヲ生セントシタリシ故再ビ艦隊ノ一部分トナリテ太平洋ノ戰艦艦ニ加ハリタリ此二個ノ異例ヲ除クノ外義勇艦隊ノ動作ハ全ク商業上ノ性質ノ者ナ

リキ現時ノ義勇艦隊ハ九個ノ汽船ニ因リテ成リ別ニ製造中ノ者四個アリ此等ノ汽船ノ中ニハ海軍ノ學術上最近ノ改良ト發明トヲ應用シテ優ニ他國ノ最良ナル巡洋艦ト比較シ得ベキモノアリ巡洋艦ノ汽船ハ定期航海ノ用ヲ爲シ商業及ビ旅客ノ便ニ供センガ爲メニ聖ペートルスホルグ、チデッサ及ビ太平洋諸港ノ間并ニカムサツカ、チコーツク海ノ間ヲ航行シ政府ハ之レニ補助金ヲ與フ

第五章 海軍々政ノ組織

海軍ノ軍政ハ其一般ノ組織甚ダ陸軍ニ似タリ海軍ニ於テモ陸軍ニ於ケルガ如ク船艦并ニ艦隊ノ管理ト一定ノ地理ニ關係アル海軍諸官職ノ管理ヲ區別セザルベカラズ海軍編成ノ單位ハ其指揮官、上席士官及ビ他ノ士官トチ有ス軍艦、士官及ビ船員ヲ併セテ九百人乃至千百人ノ團ヲ作ル而シテ各團ノ指揮ハ團中ニ屬スル最モ重要ナル艦長之レヲ掌ル

バルチツク海ノ團ハ其數十八アリ但シバルチツク海軍大副官ヲ首領トスル近衛團ハ此外ニ在リ黑海ハ七團ヲ有ス其他裏海及ビシベリヤ地方艦隊ニモ團アリ

此ノ如キ艦隊ノ團ハ之レヲ結合シテ軍トナシ艦隊ノ命令ニ従ハシムバルチツク
海ニ二軍アリ黒海ニ一軍アリ此外太平洋ニ派遣セラレタル軍艦ハ一ノ艦隊ノ下
ニ太平洋艦隊ヲ組織セリ

九個ノ軍艦ハ艦隊ニ關スル土地ニ屬スル設備タリ其重要ナルモノハコロンスタ
ツド聖ペートルスボルクニコライエフニシテ其餘ハ第二等ニ屬スル數個ノ軍港
アリ即チレヴァルスヴユアボルグセバストポールバツームバク及ビウラチゾオ
ストツク是ナリ裏海ニハアストラバツトニ海軍碇泊所アリ又リバウニモ豫備軍
港アリ

コロンスタツドハ軍港中ノ最モ重要ナル者ナリ此軍港ハ多數ノ砲臺ヲ以テネヴ
アノ河口ヲ防衛シ首府ノ安全ヲ保護セリ

他ノ軍港中最モ重要ナル者ハスヴニアボルグナリ此軍港ハ峻嶮ニシテ近邊スベ
カラザル嶋岸アリフィンランド灣ヨリヘルングホルス港ニ入ルベキ通路ヲ有ス
之ト共ニ重要ナルモノハセバストポールニシテクリミヤ戰爭ノ時同盟軍ニ對シ
テ露國ガ光榮アル防禦ノ武名ヲ博シタル所ナリ此地ハ世界ニ於テ最モ良好ナル

碇泊所ニシテ一八九二年黒海ノ軍艦ノ爲メニ專ラ軍港トシテ用キラル、ニ至レ
リウラチゾオストツクモ亦風雨ノ難ヲ避ケントスル者ノ爲メニハ良好ナル碇泊
所タリ

軍制ノ點ヨリ曰ヘバコロンスタツドニコライエフハ特別ナル位置ヲ占ム

バルチツク海ノ旗艦長ハコロンスタツド艦總督ニ從屬ス而シテ黒海艦隊ト總テ
ノ黒海軍港ハニコライエフ總督ノ命ニ服ス故ニ此等ノ軍官ハ陸軍ノ軍區指令官
ニ比較シ得ベキ者ナリ經濟上ノ便宜ノ爲メニ軍港ハ艦隊ノ準備及ビ糧食ノ中心
タリ而モ精密ナル意義ヲ以テ之レヲ曰ヘバ此ノ如キ位置ハ獨リ重要ナル軍港ト第
二等ノ軍港ニ在リテセバストポールウラチゾオストツクノ二所ニ屬ス此等ノ地
方ニ於テハ皆糧食及ビ衣服ノ貯藏アリ砲兵及ビ水雷ノ用ニ供フル材料等ヲ保存
セリ軍港ニハ經濟上ノ事務ヲ掌理スベキ軍港吏アリ而シテ船艦ノ製造器機ノ裝
置水雷ノ總テノ種類水壓力ヲ應用スル製造ノ爲メニ建築所造船所其他造船工及
ビ其ノ他ノ者ニ因リテ從事セラル、各種ノ事業アリコロンスタツドニ於テハ特
別ナル一個ノ造船製造所アリ聖ペートルスボルグニハ綿火藥製造所アリ軍港ハ

検査醫官及ビ病院等ニ因リテ一般艦隊ノ健康ニ關スル状態ヲ監督ス病院ノ廣狹ハ軍港ノ大小ト其重要ノ度ニ從テ異ナレリ病院ノ數ハ通シテ五個アリ總計二千三百七十個ノ寢床アリ此外多數ノ軍港ハ避病院及療養營所ヲ有シテ患者ヲ待ツ軍港ノ官吏ハ又海岸燈臺及ビ浮標救船所警報標即チ所謂指示標ノ事ヲ管理ス軍港ニ於ケル總テノ製造所及ビ作業場ノ外海軍ノ權力者ハ猶特別ナル作業所ヲ有ス海軍省ノ造船及ビ作業所ハイヨラバルチック二所ノ造船及ビ作業所オブリコツフノ鋼鐵作業場是ナリ

海軍ノ高等ナル行政ハ海軍省ノ管理スル所ナリ海軍省ハ從前ノ海軍部ニ代リタル者ナリ然レトモ其組織ハ他ノ各省ト異ナル所アリ此省ノ長官ハ大臣ノ權ヲ有スレトモ最上ノ管理權ハ長官ニ屬セズシテ水師提督ニ屬ス現時ノ水師提督ハアレキセイアレキサンドロウイチ太公ニシテ海軍及ビ海軍將官ニ對シテ最高ノ權力ヲ有スル者ナリ故チ以テ太公閣下ハ海軍會議ノ議長ニシテ海軍長官ハ唯其副議長タルノミ

海軍會議ハ海軍裁判所ニ關スルコトノ外海軍ニ關スル新規ナル法律規則ノ立案

海軍ト其ノ専門學ニ關スル軍事建設經濟上ノ事件及其ノ他總テノ新規ナル規則ノ立案ヲ審議ス

海軍ノ構成及ビ専門學ノ問題ニ關スル立案ハ海軍會議ヨリ直ニ之レヲ皇帝ニ奏上シ其裁可ヲ待ツ但シ海軍兵吏ノ數ニ關スルコト及ビ財政上ノ豫算ハ先ツ之レヲ樞密院ノ議ニ付ス其他ノ問題ハ海軍會議獨リ自ラ之レヲ決ス海軍ニ關スル法律ハ海軍成典トシテ施行セラル

其他ノ官職ニハ高等海軍裁判所アリ其職權ハ高等陸軍裁判所ニ均シキ者ナリ、コロンスタッド、ニコライエフ、ヴラヂヂオストツクノ如キ裁判所アリ

(一) チトフ、ナバルスタツフ(海軍大副官) 海軍長官ノ次官ヲ以テ其長官トシ艦隊ノ規率及ビ戰時ノ準備ニ關スル事務ヲ掌ル

(二) 水路局 航海ノ安全ニ關スル總テノ事務ヲ掌ル

(三) 海軍ノ構成及ビ裝置ニ關スル局

(四) 海軍技藝委員

- (五) 官房即ち事務局
 - (六) 艦隊検査醫局
 - (七) 海軍上等裁判所事務局 海軍法律官長之ヲ掌理ス
 - (八) 海軍儲蓄銀行部
 - (九) 海軍文書局
- 是ナリ

艦隊ト海軍省トヲ維持センガ爲メニ年々支出スル所ノ金額ハ五千八百萬ループ
ルニ及ブ

陸軍ニ於ケルガ如ク海軍モ亦其教育及ビ恩惠ノ諸設備ヲ有ス

水兵ノ初步教程ハ陸兵ノ初步教程ト同シ此教育ヲ經タル後其分屬スル專科ニ從
ヒ砲兵海中作業其他ノ教導隊ニ分遣セラル教導隊及ビ其ノ他ノ學校課程ハ甚ダ
多數ナリ是レ水兵ノ任務甚ダ多種ナルニ因ル

海軍士官養成ノ教育組織ハ之ヲ二級ニ分ツ其低度ノ階級ニ屬スル者ハ即ち殆ン
ド四百人ノ生徒ヲ有スル海軍教導團及ビ殆ント八十ノ生徒ヲ有スルコロンスダ

ツドノ海軍専門學校ナリ

高級ニ屬スル海軍教育組織ハ陸軍大學ニ比スヘキ者ヲ有ス即チニコラス海軍大
學校ニシテ内ニ水路部機械部海軍構成部ノ三部ト(各二十人ノ生徒)二十人ノ士官
ヲ分チテ二部トセル海軍作業部及ビ砲術部アリ學校士官ハ又陸軍大學及ビ鑛業
大學ニ入ル

海軍ノ恩惠的設備ニハ聖ペートルスボルグニ於テパウエル帝ノ病院アリ九十人ヲ
入ルベシ黒海艦隊ノ病者ニ供スル多數ノ小屋アリ此ハ一八六二年ニ建テシ所ニ
シテ今日ハ其數二十八アリニコライエフ近傍ニ二十一ノ小屋アリ一家族ヲ住ハ
シムセバストホール近傍ニ七個ノ小屋アリ各二家族ヲ住ハシムルコトヲ得

第七編 物質的資力

第一章 財政

(一) 豫算ト歳入ノ關係國費ト地方費

財政トハ精密ナル意義ヲ以テ曰ヘハ國家經濟ノ全體ヲ曰フナリ是レヲ以テ其指

ス所獨リ大藏省ノ收入及ビ支出ヲ曰フノミナラス各種ノ行政事務ヲ委任セラレタル總テノ自治機關ノ收入及ビ支出ヲモ之レヲ併セ稱スルナリ此等ノ自治機關ハ皆其歲計豫算表及ビ金錢出納事務所ヲ有スセムストゾ即チ都府ノ地方的集會、ウオロスト、即チ村邑ノ地方的集會及ビ農民ノ集會等ノ官職是ナリ

國家經濟ノ一般ノ財源ハ國民ヨリノ收稅即チ歲入ナリ而シテ其一部分ハ國家ノ必要ニ用ヒラル而シテ國家ノ支出ガ國民ノ重負タル所以ハ下ノ理由ニ存ス一ニハ人民ヲシテ其收入ノ中租稅トシテ出シ得ヘキ所ヨリモ多大ノ部分ヲ出サシムルコトナリニハ國財ノ支出ガ之レニ伴フテ國家ノ生産力ヲ増加セザルコトナリ三ニハ即チ租稅ノ賦課ノ平均ヲ得ズシテ或者ハ他人ヨリ收ムル所少ク之レガ爲メニ他人ノ幸福ヲ害スルコトアルコトナリ

第一ノ問題ニ關シテ注意スベキハ四十年前ハ當時ノ貨幣ニ於テ三億六千萬ルブルニ過ギザリシ歲計(ポーランド及ビドランス、コーカシアヲ除ク)ガ次第ニ増加シテ十三億六千二百萬ルブルノ巨大ナル高ニ達シ殆ンド四倍ニ至リシコトアリ亦之ト同ジキ増加ハ他國ニ於テモ見ル所ナリ

然レドモ我等ハ此ノ如キ非常ナル計算表アル爲メニ直ニ國民ヲシテ重負ニ苦シマシムル者ナリトスベカラズ國民ノ富ノ増進ハ即チ國家收入ノ増加ヲ代表スル者ナルコトヲ忘ルベカラズ例ヘバ佛國ニテハ一八三〇年ニ在リテ八十億フランクニシテ當時國民ノ收入ハ八十八億〇八百萬フランクナリト數ヘラレタリ是レニ因リテ見レバ當時ノ歲計ハ國民收入ノ九分ノ一ニ相當ス而シテ今日國民ノ富ハ漸次進歩シテ其ノ收入ハ凡ソ二百六十五億フランクトナレリ而シテ其歲計三十三億フランクハ正ニ其八分ノ一ニ當ル是レ歲計ノ増加ハ國民ノ富ノ進歩ト略並行スル者ノ如シ

露國ニテハ此ノ如キ計算ヲ爲スハ蓋シ全ク能ハザルノ事ナリ何トナレバ往時ノ國民收入ノ多寡ヲ知ルベキ計算表ナク之レニ近似シタル計算表ヲモ得ルノ道ナケレバナリ

近年ニ至リテ或統計家我國民ノ收入ヲ算シテ百億ルブルトナセリ之レニ據レバ十三億六千二百萬ルブルノ我歲計ハ佛國ノ如ク國民收入ノ八分ノ一以上ニ相當ス